

令和 7(2025)年度 事業計画書

案

令和 7(2025)年 3 月
学校法人九州文化学園

はじめに

教職員におかれては日々の教育活動への尽力、学校運営への多大な協力に対し、心より御礼申し上げます。

現在の学園のおかれた地域の状況を鑑みると、少子・高齢化の傾向は変わることなく、経済活動も一層厳しさを増しており、地域からの若年層の流出傾向も継続し、地域の衰退が垣間見えます。

私立大学にあつては定員未充足の大学は 60%と半数を越え、短期大学にあつては 92%が定員未充足です。

中央教育審議会の答申では、地方の私立大学の学生減少をみつめ「高等教育機関の機能強化等の観点からも、設置者の枠を超えた高等教育機関間の連携、再編、統合の議論は避けることはできない」と提言しています。

日本が急激な少子・高齢化の波の中で、いろいろな産業が変革を余儀なくされる中で、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、短大、大学に通う対象者は最も少子化の影響を受けています。私立学校が教育産業の一種だと考えるならば、在学の生徒、学生の増減が経営安定、不安定をもたらすでしょう。

他面、本学園は小中学校、専門学校を除くと定員を確保しています。問題は支出の内容をもう一度再点検をし、工夫することが必要だということです。もちろん法人としては、未来を見つめた事業への積極的チャレンジも忘れてはなりません。伸ばすべきところには更なる力を入れ、是非、改善すべきところには大胆な改革をするスクラップ&ビルドの気持ちで進めていきたいと考え、この令和 7(2025)年度事業計画書を策定いたしました。

令和 7(2025)年 3 月 28 日

学校法人九州文化学園

理事長 安部直樹

本年度の事業計画について

令和 3(2021)年度からの 5 年間で対象期間となっている本学園の「中期計画」は、令和 7(2025)年度を最終年度としており、したがって本年度はその計画と実際の現状との整合性を確認・分析する作業を進めていくと同時に、令和 8(2026)年度から 5 年間の「新・中期計画」を策定する年度である。

かねてより「未来への羅針盤」と位置付けたこの中期計画だが、本計画に沿った形で学園内の教育や管理運営を遂行させていくことが基本原則であることを繰り返して言及してきた。しかしながら、中期計画と現状がかい離している項目も多く、次の「新・中期計画」を策定する上で、そのかい離の現状と要因をまずは分析する必要性がある。

特に著しいかい離が生じているのは、財務計画である。学園全体としては令和 4(2022)年度・令和 5(2023)年度と 2 年間支出超過の状態が続いていたため、令和 6(2024)年度は何としても黒字で着地するよう各部門に尽力するよう依頼はしてきたものの、結果として令和 6(2024)年度も見通しは支出超過になるものと予測している。財務状況を好転させるには想像以上の労力を要することを目の当たりにさせられた本年度は、更なる改革を断行する場面が多々生じてくるものと考えられ、各教職員には緊張感・危機感を持って各々の業務に取り組んでいただきたくお願いしたい。

加えて、教育的側面からの改革も急務である。少子化の波は容赦なく教育業界に押し寄せ、学校の閉校や再編、法人の経営譲渡等のニュースを耳にする日も多くなった。社会変化に対応した教育改革に着手することで教育力を備えた魅力ある学校創りを体現し、最終的に選ばれる学校として存在させることが何よりも優先すべき事項である。

以上、教育及び財務的側面からの改革が重要な点について述べてきたが、その具体的取組み項目については、本事業計画書に端的かつ分かりやすく部門毎にまとめられている。したがって、記載内容が着実に実行に移されるよう、**本書の細部にまで目を通し、令和 7(2025)年度における本学の目指すべき点を理解し、そのために自身が何をやるべきかを各々認識していただく**ことを、私本部長の立場から教職員の皆さまへ切にお願いしたい。

各部門の会などで度々伝えているが、令和 7(2025)年度は「新・中期計画」の策定に加え、学園創立 80 周年、大学創設 25 周年、大学・短大の機関別認証評価受審と対応すべき事項が多岐に渡る多忙な年度となる。それぞれにしっかり対応し、更なる未来に向かって今後も歩みを進めていくためには、今やるべきことを個々がしっかりと把握し、何をなすべきかを考えるといった姿勢を持つこと、これが不可欠である。本学園のさらなる飛躍のため、今一度本事業計画の重要性を再認識し、設定した事項の着実な実行に期待したい。

令和 7(2025)年 3 月 28 日

学校法人九州文化学園

常務理事・法人本部長 安部 雅隆

目次

I. ガイドラインとなる中期計画の基本方針等	1
II. 長崎国際大学	3
III. 長崎短期大学.....	20
IV. 九州文化学園高等学校	31
V. 九州文化学園中学校.....	37
VI. 九州文化学園小学校.....	43
VII. 認定こども園九州文化学園幼稚園.....	50
VIII. 九州文化学園調理師専門学校	58
IX. 九州文化学園歯科衛生士学院.....	64
X. 法人事務局.....	70
XI. 学園全体	74

I. ガイドラインとなる中期計画の基本方針等

A. 建学の精神等

- 「学校法人九州文化学園 寄附行為」第3条において以下のように定めている。

この法人は、教育基本法・学校教育法・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、学校教育および保育を行い、九州文化学園創設の精神に則り、高い知性と豊かな教養、優れた徳性と品格、たくましい意志と健康な身体の備わった人間を育成することを目的とする。

B. 中期計画の基本方針

- ガイドラインとなる中期計画においては、次の3点を基本方針としている。

	基本方針	方針の内容
1	成長力の確保	学園や各機関として、現状維持ではなく成長すること、またその原動力を確保することを旨とする。
2	教育力の向上	学校として教育の質を向上すること、教育組織や教職員個々の能力を高めることを旨とする。
3	約定返済の確実な履行	毎年度の事業収支や自己資金を目標通り確保し、借入金を約定通りに返済することのできる安定した財務体質を形成することを旨とする。

C. 中期計画の重点戦略と達成目標

- 上記の基本方針に基づき、中期計画では、以下の6つの重点戦略と達成目標を掲げ、毎年度の事業計画に具体的な事業・施策として落とし込み、目標の達成に向けて取り組んでいくこととしている。

戦略区分		達成目標
戦略Ⅰ	建学の精神・理念に基づく人材養成と内部質保証の担保	① 建学の精神の教職員への浸透と共有、尊重する風土の形成 ② 建学の精神に基づく人的資源の確保・育成 ③ 本学園の教育について内部質保証のできる組織の形成
戦略Ⅱ	成長・発展のための教育改革とキャリア教育・支援の充実	① 継続的に成長・発展できる教育力や成長力の獲得 ② 伸長度合いを確認・検証できる教学や経営情報の見える化 ③ 社会に貢献できる人材を輩出するキャリアデザイン支援の構築
戦略Ⅲ	グローバル化と社会連携の強化、ステークホルダーとの関係強化	① With コロナ、After コロナ下でも実現できるグローバル化の構築 ② 地域と連携・協働した教育・研究・学生等支援体制の強化 ③ 保護者や卒業生、教職員OBとの関係性の強化
戦略Ⅳ	ICT化と施設設備の充実による教育環境の魅力向上と経営の効率化	① ICTを活用した教育・研究環境の整備と教育改革の実施 ② ICTを活用した業務効率化の推進と利用者の意識改革の実施 ③ ICT環境導入を実現できる資金確保策の実施
戦略Ⅴ	認知度やブランド力の向上と入学定員・収容定員の充足	① 認知度向上やブランドアップを効果的に推進する仕組みの構築 ② 教職員に対するインナーリレーション強化策の実施
戦略Ⅵ	財政基盤の安定と機動的な組織運営の強化	① 定員確保による学納金収入や補助金・寄付金・外部資金等の獲得による収入の最大化 ② 人件費や経費の効果的な支出と適正水準の維持 ③ 約定返済の確実な履行 ④ 法人本部および各設置校で機動的な組織運営を遂行できる体制の整備

D. 経営資源等の配分(予算、人員等)に係る方針

区分	方針の内容
学園全体での経営資源等の配分に係る基本方針	✓ 経営資源は有限であることから、本学園や各設置校の成長力の確保のため「選択と集中」の可能性を検討する。一方、教育機関として学生等に提供する教育サービスの質は、社会的責任や競争力の維持も必要であり両者のバランスを考慮することを基本方針とする。
設置校内での経営資源等の配分に係る基本方針	✓ 本学園や各設置校の教育目的・経営目標に基づき、重点戦略に掲げる事業領域(教育・研究・学生等支援・社会連携等)、事業区分(既存事業、新規事業)、事業構成体(教育組織、事務組織、連携組織)等に対して、優先的かつ効率的に資源配分のできる計画や組織形成に努める。

E. 中期計画における財務上の数値目標

- 令和 2(2020)年 12 月理事会において策定した中期計画においては、日本私立学校振興・共済事業団が学校法人の経営改善に資するために規定している定量的な「経営判断指標」に基づく経営状態の区分の「A2 段階」を理想とし、努力目標としては学園全体で「同収支差額 5%の達成」を目指し、各設置校においても下表に掲げる財務目標をガイドラインとして経営を行うこととしていた。
- しかし、令和 6(2024)年 3 月理事会において、当該時点の財務状況を踏まえて、中期計画(中期財務計画)について改正を行い目標値は以下の通り修正した。
- 令和 7(2025)年度は、学園全体で収支均衡を目指すこととしている。

部門	経常収支差額の目標値				
	令和 3(2021) 年度(実績)	令和 4(2022) 年度(実績)	令和 5(2023) 年度	令和 6(2024) 年度	令和 7(2025) 年度
学園全体	0.3%	△4.8%	△5.3%	0.3%	0.0%
長崎国際大学	11.4%	4.1%	1.7%	8.0%	7.5%
長崎短期大学	△17.5%	△10.4%	△3.5%	0.4%	0.4%
九州文化学園高等学校	6.2%	4.9%	3.6%	7.9%	7.9%
九州文化学園中学校 九州文化学園小学校	△157.0%	△118.7%	△107.1%	△90.5%	△90.5%
認定こども園 九州文化学園幼稚園	7.8%	4.3%	0.6%	0.1%	0.1%
九州文化学園調理師専門学校 九州文化学園歯科衛生士学院	△23.4%	△23.8%	△6.2%	△1.6%	△2.1%

II. 長崎国際大学

A. 中期計画に掲げた経営理念・経営目標

5 年間の 設置校経営理念	3S、speed、service、scientific に遂行する。
5 年間の 設置校経営目標	様々なメソッドを用い広報活動の強化に努める。 With コロナを念頭に置き安全、安心の中で、合理的経営を図る。

B. 中期計画に掲げた各戦略の目標達成に向けた本年度の事業方針

区分	目標達成に向けた本年度の事業方針
戦略 I	<p>【国際観光学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「国際観光学科 3 ポリシー」に基づき、専門的知識・技能を修得し、観光、国際交流、スポーツによる地域貢献、まちづくり等の各分野で実践的に活動できる人材を育成する。 <p>【社会福祉学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「社会福祉学科 3 ポリシー」を基盤に、建学の精神を体現し、専門知識や技能を身につけた地域社会に貢献しうる福祉人材の育成を図る。 <p>【健康栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の精神・理念を理解し、それに基づいた教育・研究を行うための知識や技能を獲得するために、新任研修会や FD 等への積極的な参加を促す。 <p>【薬学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「薬学科 3 ポリシー」をもとに、建学の理念を身につけた地域社会へ貢献できる薬剤師を養成する。 ✓ 建学の理念を理解し、薬学教育・研究に貢献できる人材を採用・養成する。 <p>【人間社会学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の精神・理念を理解し、社会が求める高度専門職業人および研究者を育成する。 <p>【健康管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の精神・理念を理解し、栄養科学と健康科学の専門的知識・技能を備えた人材を確保する。 ✓ 教員の研究業績の積み上げや学位取得を推進し、教育・研究体制の強化を図る。 <p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の理念に基づき、高度医療を担い、生命科学の発展に寄与する人材を養成する。
戦略 II	<p>【国際観光学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学力レベルに対応する授業の質の確保に努め、アクティブラーニング等の教育手法の積極的活用、深化による学習効果向上を目指す。 ✓ キャリア教育、学生の意識調査、就活イベントなどの実施により早期からの職業意識の醸成を図り、就職成就率の向上に努める。特に日本での就職を希望する留学生への就職支援の充実を図る。 <p>【社会福祉学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和 6(2024)年度で終了した 3 福祉士の新カリキュラム導入の点検結果を踏まえ、各コースの運営体制・教育内容などを改善・発展させ、学科運営の基盤を確固たるものとする。 ✓ 学科教員数が大幅に減少する中で、教育の質を損なわない範囲での効率的な科目担当配置のあり方を検討する。 ✓ 早期から進路決定に向けた専門職への意識の醸成を図り、地域の福祉人材として就職成就率の向上に努める。 ✓ 留学生に対する福祉専門養成の充実を図り、各種資格取得を目指す留学生の受入れを促進する。 <p>【健康栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 導入教育において、早期より管理栄養士としての職業倫理の涵養を図る。 ✓ 本学・学科の 3 ポリシーおよび管理栄養士養成施設のコア・カリキュラムに準拠し、かつ学生の学力レベルに応じた教育指導を推進する。 <p>【薬学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ホスピタリティ・ルーブリックを活かしたヒューマニズム教育の実践とオンラインを活用した教育・研究体制を推進する。 ✓ 4 次カリキュラムの完成年度であり、学部内での点検・評価に加えて、薬学教育評価機構による外部評価も受審し、必要に応じた教育・研究体制の改善を行う。 ✓ 薬学教育モデル・コアカリキュラム(令和 4 年度改訂版)に対応したカリキュラムを編成する。 <p>【人間社会学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地方創生・地域を支える人材育成を目指し、産業界や地方公共団体と協力してリカレント教育の充実を図る。 <p>【健康管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学部生の指導に TA 制度を積極的に活用し、大学院生の教授力の修得を目指したキャリア支援を図る。

	<p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生の研究能力の修得・向上のため主研究指導担当教員と 2 人の副研究指導担当教員の指導を進める。 ✓ 学生のキャリア支援教育として、教員自身のキャリア・パス体験から卒業後の進路決定について幅広い考え方を伝える。
<p>戦略Ⅲ</p>	<p>【国際観光学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域での産官学の取組みなどに積極的に参加し、地域貢献を図ると共に本学の地域における存在感を一層向上させる活動を促進する。 ✓ 高度な観光経営人材の育成を目指し、リカレントを含めたカリキュラムを構築するための大学間連携の促進、産学官の連携強化を図る。 <p>【社会福祉学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外学術交流校もしくは交流の申し出のある学校との学術・人事交流を発展・促進する。 ✓ 地域の各方面からのボランティア活動依頼等に機敏に対応し、地域貢献を図る。 ✓ 保護者との緊密な連携体制に基づく教育指導を行う。 ✓ 実習受入れ機関・福祉事務所、包括連携協定先(佐世保市社会福祉協議会、平戸市社会福祉協議会)等との連携を通じて、産官学の連携強化を促進する。 <p>【健康栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 保護者と連携した指導体制を継続する。 ✓ 産学官、実習施設、卒業生およびその就職先との連携を図り、キャリア支援、共同研究を推進する。 <p>【薬学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 共同研究の推進、QSP への積極的な協力と活用、および保護者との連携強化による薬剤師養成教育の充実を図る。 ✓ 実習施設との連携を強化し、実務実習を円滑に実施する。 ✓ 地方における薬剤師確保(特に病院)推進のため、行政や薬剤師会に協力する。 <p>【人間社会学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 留学生の多国籍化を図るために、オンライン入試を推進する。 ✓ 本学の訪問研究員制度等を運用して、海外学術交流協定校の教員招聘を促進する。 <p>【健康管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 産学官、修了生およびその就職先との連携し、キャリア支援、共同研究を推進する。 <p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 博士号取得研究者として必要な英語能力を修得させる目的で、英語による講義の開講を継続する。 ✓ 先端の創薬・臨床研究に取り組む研究者を招いた講演会等を開催し、大学院生および地元医療関係者に受講させる。
<p>戦略Ⅳ</p>	<p>【国際観光学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ICT を活用した教員間の情報交換、学生情報共有、アクティブラーニング手法の共有、デジタル活用による教育方法の多様化等を促進し、各レベルの学生の能力に応じた学修支援の深化を図る。 <p>【社会福祉学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 福祉専門職の育成に向けた国試対策および実習において、ICT を活用することで教員・学生間の情報の共有、教授方法としてアクティブラーニング手法の共有、デジタル活用による教育方法の多様化等を促進し、学生の能力に応じた学修支援の深化を図る。 ✓ 令和 6(2024)年度より導入した実習支援システム(実習記録等のオンライン化)の効果的な運用を図る。 <p>【健康栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ICT を活用し、基礎学力の修得に向けた反復学習を促進する。 ✓ 教員間の情報共有、学生指導等に ICT を活用し、効率化を図る。 <p>【薬学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 未来型薬剤師を育成のため DX をさらに推進し、ICT を活用することで、基礎学力および学習効果の向上を図る。 ✓ 薬学共用試験である CBT 実施のため、メディアルームの整備と効果的な運用を要望・提案する。 ✓ 国家試験対策のため、ICT 教材の購入と効果的な運用を要望・提案する。 <p>【人間社会学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 遠隔授業と対面授業を併用した講義・研究指導の充実を図る。 <p>【健康管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 非常勤講師の講義や研究指導に ICT を活用し、効率化を図る。 ✓ リモート・オンデマンド形式の学会、研修会への参加を促し、研鑽を積む。 <p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 遠隔講義や学会発表を念頭に、プレゼンテーション資料、プレゼンテーション力の水準を高める指導をすすめる。
<p>戦略Ⅴ</p>	<p>【国際観光学科】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際観光研究所における教員、学生の地域での活動を積極的に発信し、官公庁、産業界、教育界での一層の認知度向上を図る。 ✓ オープンキャンパス、模擬授業などにおける高校生の意識調査に基づき、更なる学科の魅力増進に努める。 【社会福祉学科】 ✓ 定員充足を至上命題とし、各部署との緊密な連携の下、その達成を図る。 ✓ 福祉の特色を生かした地域活動を近隣高校と積極的に実施し、高大接続を強化する。 ✓ 社会福祉士国家試験合格率 75%、精神保健福祉士・介護福祉士各 100%の達成を目指す。 【健康栄養学科】 ✓ 管理栄養士国家試験の高い合格率を維持する。 ✓ 研究・教育活動、地域活動等の情報を積極的に発信する。 ✓ 学科の特性を活かした催事を行い、社会貢献を図る。 ✓ 九州文化学園高等学校・長崎短期大学および近隣高校との連携を強化し、入学者の増加に繋げる。 【薬学科】 ✓ 卒業生(薬剤師)の地域医療への貢献度を調査し公表することで、本学薬学部のプレゼンスをアピールする。 ✓ 同窓会・卒業生との連携を強化し、入学生確保のための広報活動への協力を依頼する。 ✓ 研究成果の発信と近隣高校との高大接続を強化し、認知度向上、定員確保へ繋げる。 ✓ 成績優秀な入学生の確保に努める。 ✓ 薬剤師会や行政などと協力して薬剤師の魅力を宣伝する。 【人間社会学研究科】 ✓ 大学院担当教員の紹介、大学院生の研究活動など、大学ホームページを通じて国内外への発信を充実する。 【健康管理学研究科】 ✓ 大学院生の研究活動や就職状況、修了生の活動等の情報発信を促進する。 【薬学研究科】 ✓ 大学院生や教員の各種受賞、論文発表、研究費取得のニュースを適宜リリースし、認知度・ブランドの向上を図る。
<p>戦略VI</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【会計課】 ✓ 入学定員や離学の低減による学納金収入の安定化を図る。 ✓ 補助金、寄付金、受託事業その他外部資金の獲得に注力する。 ✓ 中期計画に基づく収支バランスのとれた予算編成と、適正な予算執行統制を行う。 【総務課】 ✓ 経費支出において、光熱費や消耗品等の固定経費の削減に積極的に取り組む。また、大型案件に関しても、既存業者に任せるだけでなく相見積を取るなど経費削減に取り組む。
<p>学園内の連携促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【国際観光学科】 ✓ 学園内の学校に対して、出張講義の実施、各種イベントへの本学科教員・学生の参加などを通して連携を強化することで、本学科の魅力の発信にもつなげていく。 【社会福祉学科】 ✓ 学園内の小中学校・高等学校・長崎短期大学との連携強化を図り、福祉関連の地域活動を共同で実施することで、内部進学を促進する。 ✓ 九州文化学園高等学校保育福祉科福祉コースからの内部進学者に対する入学前教育等を通して学園内の進学者へのきめ細かな指導を行う。 【健康栄養学科】 ✓ 九州文化学園高等学校および長崎短期大学との連携を強化し、内部進学を促進する。 ✓ 他学部、学園内学校との共同研究を推進する。 【薬学科】 ✓ 出前講義による九州文化学園高等学校との連携強化、薬剤師の職能紹介、九州文化学園小中学校の児童・生徒を対象とした理科系の魅力や薬剤師の仕事を紹介する。 ✓ 主に退職教員を紹介・派遣することで、九州文化学園小中高等学校の教育レベル向上へ協力する。 【人間社会学研究科】 ✓ 学園内との連携強化を図り、教員の進学を推進する。 【健康管理学研究科】 ✓ 他学部、学園内学校との共同研究を推進する。 【薬学研究科】 ✓ 最新の研究成果を発信し、薬学の魅力を紹介する。
<p>付帯計画と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【国際観光学科】 ✓ 多様な学生の増加に対応し、観光領域に力をいれていくための体制の整備。 【社会福祉学科】

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 老朽化した設備・備品(介護実習室・家政学実習室・助手研究室)の点検し更新する。 ✓ 「部活動と福祉」と「留学生と福祉」のキーワードで、定員充足のための新たな戦略を検討し提案する。 <p>【健康栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 集団給食・調理実習室の改築・増築。 ✓ 教育環境の整備(5号館のカビ対策、実習室およびラーニング・commonsのインターネット環境整備、トイレの暖房便座の設置)。 ✓ 研究環境の整備(ラボの設置)。 ✓ 老朽化した実習・研究機器備品の更新。 <p>【薬学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 実務系および教育支援センター教員の確保、大学附属薬局の設置、オンライン授業施設の整備、講義室・研究スペースの不足、受験者・入学者数の低下、成績優秀学生の確保、留年・離学者数の増加。 <p>【人間社会学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外学術交流協定校の教員招聘を促進する教育・研究環境の整備を推進する。 <p>【健康管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 研究環境の整備(ラボの設置)。 ✓ 研究機器の新規導入・更新。 <p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員の充足、高度な研究設備の更新。
--	---

C. 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有

	区分	内容
1	定量的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生数の減少により学納金収入が減少している。また、補助金は600百万円程度で推移中である。ステークホルダーからの寄付金や外部教育研究費の獲得など新たな収益構造の確立が急務である。 ✓ 人件費は採用抑制などにより人件費率50%前後で推移中であるが、魅力的な教育課程編成のために計画的な採用人事が必要である。 ✓ 施設の老朽化による修繕およびインフラ設備を充実させる余力が少ない上に、施設設備維持とその修繕費用が大きな負担となっている。
2	定性的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の過疎化、それに伴う地域経済の縮小により人材が流出している。 ✓ 少子化による大学間競争が激化しており、工学系学部の新設が予定されている。そうした状況下で本学の魅力を打ち出す必要がある。 ✓ グローバル化が進み、学生が都市部の大規模大学を目指す傾向がより一層高まっている。 ✓ 施設の老朽化による教育環境の悪化やインフラ整備不足による学生満足度の低下。 ✓ 18歳人口減少、県外への進学流出傾向の中で、入学者の県内から獲得強化のみならず、県外獲得さらには海外獲得も必須。 ✓ 九州沖縄地区私立大学は令和2(2020)年度58大学入学定員32,670人から令和6(2024)年度59大学33,373人と1大学703人増加している。人口減少、大学進学率向上傾向の中での優位性構築。
3	経営・募集戦略上強みとなる魅力・特色	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県北地区唯一の四年制私立大学であり、文系・理系の学部学科を擁し、多様な資格取得が可能。また、強化指定の部活動によるスポーツ志向の学生の受け皿となる。 ✓ 少人数教育による学生と教員の距離の近さで、学生個々と向き合う親身な指導を実践。

D. 本年度の事業計画

1) サマリー

	計画全体の概要
✓	教育活動に関しては、3ポリシーに基づいた教育課程の質保証を強化し、学修成果の可視化と評価に基づく教育改善サイクルを確立する。特に、学生の主体的な学びを促進するアクティブラーニングの導入や、ICTを活用した教育手法の開発を推進する。加えて、グローバル化に対応した語学教育や異文化理解教育を充実させ、国際的な視野を持つ人材育成を目指す。また教育課程を適切に点検・評価し、学内外との連携強化を促進しながら、改革・改善を行う。
✓	学生募集・広報活動に関しては、定員の充足と管理を考慮しながら、学部・大学院含む全体として入学定員の532人を目標として設定する。単独または高校や他大学等とも連携しながら学部・大学院、留学生・社会人等に訴求した学生募集を行う。広報活動に関しては、「広報活動の基本方針」に基づき、本学の取り組みや研究情報の発信強化、SNS等を活用強化、地域に開かれた本学の様々な情報の発信を積極的に行う。

<ul style="list-style-type: none"> ✓ 管理運営に関しては、使命・目的の達成に向けて、「長崎国際大学 ガバナンス・コード」、学長および補佐する体制による教学ガバナンス方針に基づき、法令改正への適切な対応、迅速かつ革新・実効性のある中期計画および年次計画の策定と進捗管理、財務の安定化、組織力を高める人事制度の構築を推進する。また教育機関として社会への責任を果たすため、公共性・信頼性・透明性を担保した大学運営を実施する。 ✓ 施設設備等に関しては、更新が必要な案件を整理し、教育・研究・学生生活の充実に必要な案件を優先度と重要度を勘案し、外部資金活用も踏まえて計画的に整備する。また SDGs(Sustainable Development Goals / 持続可能な開発目標)と連動した Society5.0 を見据え、教学の ICT 化と組織の生産性の確保と教職員のワークライフバランスの両立に寄与するシステムの導入についても検討する。

2) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組

	基本方針	学校全体の取組概要
1	成長力の確保 (現状維持ではなく成長に向けた原動力の確保策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本年度は中期計画の最終年度として、これまでの取り組みを深化させ、Society 5.0 の加速やSDGs への対応を見据えた人材育成を強化する。 ✓ 教育・研究においては、学園および本学の建学理念、教育目標、3 ポリシー、「長崎国際大学 大学および大学院の教育活動の学長方針」に基づき、以下の3つの柱を中心とした取り組みを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ グローバル化、IT 化を推進できる人材の養成: グローバル社会に対応できる実践的な語学力やコミュニケーション能力を養う教育プログラムを充実させる。また、IT スキルを習得し、情報化社会で活躍できる人材を育成するため、プログラミング教育やデータサイエンス教育を強化する。 ➢ 地域の拠点大学としての教育・研究活動の推進: 地域社会のニーズに応じた教育・研究活動を推進し、地域課題の解決に貢献します。地域企業や自治体との連携を強化し、インターンシップや共同研究の機会を拡大する。 ➢ 未来型学生の育成: 学生の主体的な学びを促進し、創造性や問題解決能力を育成。アクティブラーニングやPBL(Project Based Learning)など、主体的な学びを促す教育手法を導入する。 ✓ これらの取り組みに加え、ホスピタリティ・ルーブリックやポートフォリオ等を活用し、QSP をはじめとする学外との連携や評価も受けながら、学生一人ひとりの成長を可視化し、きめ細やかな教育・学修支援を推進する。 ✓ 留学生支援においては、外国人留学生の受入れを促進するための環境整備を推進し、日本語教育や異文化理解教育を充実させるほか、生活面でのサポート体制を強化する。特に、外国人留学生に対する就職支援を強化し、日本での就職を促進する。 ✓ これらの事業計画の実行を通じて、本学は Society 5.0 時代に求められるグローバル人材、地域社会に貢献できる人材、そして未来を切り拓く力を備えた人材育成を目指していく。
2	教育力の向上 (教育の質向上と、組織・教職員個々の能力向上策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 能動的な学修を支援する教育基盤センター機能の整備に努め、教育指導者(TA・SA)の効果的かつ効率的な活用をも含めたラーニング・コモンズ環境整備を進める。加えて、離学防止対策の一環として、高大連携をさらに強化して取り組む入学前教育および初年次教育から在学時の学修支援まで連続性をもった支援策をさらに強化する。 ✓ 学生満足度の質的向上を図る為、学生における学修の自己管理(取り組むべき課題の把握等)や大学としての質保証を見据え、ルーブリック評価の活用を中心とした学修成果の可視化に取り組む。
3	約定返済の確実な履行 (増収と経費効率化による健全な財務基盤の構築策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期計画に基づく財務上の達成目標(経常収支差額 7.5%)を実現するために適切な予算編成を行い、事業活動収入の点検および予算執行統制により安定した財政基盤を確立する。 ✓ 文部科学省や日本私立学校振興・共済事業団等の補助金事業に対し、その目的と課題を共有し理解を深め、全学的な体制で外部資金獲得に取り組む。

3) 経営改善(健全化)に関する施策

	区分	施策の概要
1	収入の増加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 18 歳人口減少傾向において、高校生の本学に対する早期認知のための広報活動の展開、および県内からの入学者強化と県外からの入学者確保に加えて、留学生の多国籍化を目指した入学者増員を図る。
2	支出の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 物品等の調達や役務提供委託の透明性を高め、併せて合理的かつ経済的な発注・契約により妥当性を担保し、経費削減に努める。 ✓ 賃金物価の上昇、建設費の高騰など昨今の経済情勢を踏まえ、施設設備拡充・整備資金を段階的に確保する。

3	人員・業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 部署間の連携強化を図り、重複する業務を見直すなどして、組織全体の効率化を図る。 ✓ 学生数や開講科目に応じ、教員配置の最適化を図りつつ、非常勤講師の活用やオンライン授業により人件費を抑制する。
4	付加価値向上と広報強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地理的にアジアに近い特性を活かし、グローバル化に対応した国際教育の拡充と国際的広報活動を強化する。 ✓ 学生が主体となり、大学や地域の魅力を SNS 等通じて発信する。ウェブサイトやソーシャルメディアを活用し、大学の教育研究成果を積極的に発信する。豊富なコンテンツを通じて、大学の魅力や特色の周知を行う。
5	第3期中期計画の策定に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長崎国際大学の持続的成長と社会貢献を目指し、教育の質向上、国際化推進、地域連携強化、財務基盤の安定化を確保する。特に DX(デジタルトランスフォーメーション)を全学的に推進し、教育・研究・業務の効率化を図る。 ✓ 各部門の連携を強化し、柔軟かつ透明性の高い組織運営をするとともに、働きやすい環境づくりを推進し、学生・教職員・地域社会と共に、さらなる発展を遂げる大学経営を実現する。

4) 学部・学科・課程・コース・専攻科、研究科・専攻、学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針
国際観光学科	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 観光を核とした教育、研究、地域活動によって地域をリードし、ステークホルダーから支持され、選ばれる学科であり続ける。 ✓ すそ野が広い教育領域を通じて学生の多様な進路希望に応え、就職成就率(学生が志望する仕事に就けた率)を高め、卒業生アンケートの進路の満足度について、「満足」の項目(「やや満足」も除外)のみで70%以上の達成を目指す。 ✓ 地域で求められる研究課題に応じ、国際観光研究所を中心に適切な研究を行い、成果を地域に還元する。
社会福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 高等学校との連携強化をととして、学科入学定員(60人)を確保する。 ✓ 国家試験合格率の向上とその維持(社会福祉士75%、介護福祉士・精神保健福祉士100%)を図る。 ✓ 学科教員数が大幅減となる中で、各教員が研究活動に精力的に打ち込むことのできる時間を確保するための効率的な学科運営体制の確立、特に学科、学内業務の見直しを図る。
健康栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 管理栄養士国家試験の高い合格率を維持し、人間力と実践力を備えた人材育成を行う。 ✓ 九州文化学園高等学校、長崎短期大学および近隣高校との連携を強化し、入学者の増加に繋げる。 ✓ 保護者と連携した指導体制を継続し、離学防止に努める。
薬学科	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ストレート卒業率60%以上、新卒国家試験合格率80%以上を目指す。 ✓ 就職率100%維持および佐世保市内・長崎県内への就職率アップを目指す。 ✓ 高校訪問や高校生との接点を増やすなどにより入学定員の確保に努める。 ✓ 保護者との連携を強化し、留年や離学防止へ繋げる。
人間社会学研究科 観光学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長崎国際大学国際観光学会での発表を義務付け、研究力の向上を目指す。 ✓ 留学生の論文指導を強化し、教育・研究のグローバル化を高める。 ✓ 主指導教員1人、副指導教員2人の3人体制による論文指導を継続し、修士論文の質的向上を図る。 ✓ リカレント教育としての履修証明プログラム、地域の観光業界に従事する社会人入学、包括協定を締結した自治体との協働研究など、地域の大学としての教育・研究活動を推進する。 ✓ 教員の研究業績の向上、SD・FDの参加による教育力の向上を図り、科学研究費などの外部資金の獲得を目指す。 ✓ カリキュラムの更なる充実を行う。
人間社会学研究科 社会福祉学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コロナ禍により停滞していた海外学術交流校(中国・上海大学)との学術・人事交流を復活させ、夏季休暇中に実施する。 ✓ 主指導1人、副指導2人による大学院生への論文指導体制を有効に機能させ、修士論文の質的向上を図る。 ✓ 院生の研究環境(パソコンや分析ソフト等の備品)の整備に努める ✓ 県内の社会福祉職者のキャリアアップを目的としたリカレント教育を推進し、現職者のスキルの洗練に取り組む。 ✓ 秋の入学試験を通して定員確保に努める。
人間社会学研究科 地域マネジメント専攻	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の経済活動の活発化や生活・労働環境の改善に、観光学と社会福祉学の視点から参画できる地域マネジメントの知識・技能習得の質的向上を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3年間の教育課程で博士号の学位取得を最大の目標とし、令和 7(2025)年度は 2 人の学位授与を予定している。 ✓ 入学者定員 3 人を確保するために、研究指導の補助教員のうち、実績を有する者を主指導教員に昇格させる。 ✓ 大学院生の研究能力向上と研究費に資するリサーチ・アシスタント制度の充実を図る。
健康管理学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教員の研究業績の積み上げおよび学位取得を促し、研究指導体制の向上を図る。 ✓ 産学官との共同研究を推進し、外部資金獲得を目指す。
薬学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 主研究指導担当教員と 2 人の副研究指導担当教員が責任を持って指導し、全研究科教員が研究内容や進捗状況を客観的に評価する仕組みを継続する。 ✓ 産業界および医療界との連携・地域貢献に繋がる研究を奨励する。 ✓ 優秀な大学院生の確保と将来本学を担う人材育成の観点から、成績優秀な入学者 1 人を 4 年間の任期付き助手に任用する制度の継続を進める。

5) 教育活動

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の理念、教育目標および目的、CP および DP に則した知識・技能を学生が修得できる学修者本位の大学教育を実現するために必要な改革を行いつつ教職員一体となって教育支援体制を充実させる。 ✓ 図書館は学修や研究に必要な資料情報の収集・提供をおこなうとともに、読書を通じた憩いを提供する居場所となる。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育活動の学長方針に基づき、ホスピタリティ・ルーブリックやポートフォリオを活用した教員による面接を通して学修者と教育者が学修成果を明確に把握できるように可視化し、3つのポリシーに基づく教育実質化を図り、学修成果を可視化する。加えて、中・長期的には、学事暦のクォーター化、GPA 制度の進級判定への導入を積極的に検討する。 ✓ 令和 7(2025)年度に実施される大学機関別認証評価に向けて、各種規程に沿った教学運営に努め、根拠資料を整備する。 ✓ 発表・プレゼン等に必要な機材・設備を揃えた、学生の主体的な学びを実践する場として図書館のラーニング・コモンズを継続的に提供する。 ✓ 学部生・大学院生を対象とした情報リテラシー教育の一環として、図書館利用や情報検索の図書館ガイダンスを実施する。 ✓ 学修・研究にとって有効となる資料等の整備を行い、場所を選ばず利用しやすいサービス環境を構築していく。 ✓ 学修・研究にとって有効となる資料等の整備をおこない、利用しやすいサービス環境を構築していく。 ✓ 情報リテラシー教育の一環として、学部生・大学院生を対象とした図書館利用や情報検索の図書館ガイダンスを実施し、学生の情報探索力を高めていく。 ✓ 発表・プレゼン等に必要な機材・設備が揃った、学生の主体的な学びを実践する図書館ラーニング・コモンズを継続的に提供する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 理念や 3 ポリシーを通じた教育活動の実質化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学修者本位の教育を実現し学生の立場に立つ 3 ポリシーの具現化を図るため、建学の理念であるホスピタリティの獲得を目指し、DP における 5 つの諸能力を具現化したホスピタリティ・ルーブリックを活用した学修ポートフォリオを実施し、教員と学生が面談を通じて学生の成長過程を記録し、蓄積された学修成果に関する情報をエビデンスとして用い、理念や 3 ポリシーに基づく教育活動の実質化を図る。 ✓ ホスピタリティ・ルーブリックの詳細な項目について見直しを行うとともに、4 年間または 6 年間の学修成果の可視化を図る為、それらの情報を蓄積した卒業ポートフォリオ(ディプロマ・サプリメント)に記録する項目について、外部評価員の意見を取り入れつつ改善を図る。加えて、必要であれば新たなシステムの導入を検討する。 ✓ ルーブリック評価の入力および面談実施状況については、毎学期教務委員会で確認する。ルーブリック評価の入力率 100%を実現する。 ✓ 特にディプロマ・ポリシーの実質化については、アセスメント・ポリシーに則り不断の見直しを実施する。
(2) ポリシーに基づく教育課程の編成・実施	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会が求める人材育成を目指し、常にポリシーを点検し、外部評価も実施することで、急速に変化する社会情勢との整合性を保たせる。 ✓ 教育課程の編成については、ディプロマ・ポリシーに定められた学修目標の達成という観点を常に考え、カリキュラム・ポリシーに沿って各学科および教務委員会において点検し、科目の整理(削減)も含め、積極的に改善することで教員の適正規模についても検討する。

<p>(3) リカレント教育および社会人学生の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学院を「履修証明プログラム」を含めた社会人のリカレント教育の受け皿として捉え、産官学の連携を強化し、地域の実情に合ったカリキュラム編成に取り組む。 ✓ 昨年度に導入した大学院生の長期履修制度を積極的に活用し、働きながらのリカレント教育を実現・充実させる。 ✓ 社会人および留学生の受入れを促進するため、大学院においてオンライン授業や平日夜間・土日開催等、柔軟な形態による授業を実施する。
<p>(4) 教育・学修・履修・支援の制度・体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育基盤センターにおいて、教員および事務職員相互の適切な役割分担の下での協働や組織的な連携体制を構築し、以下の事項を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 学生の早期離学を防ぐため、高大連携の強化による入学前教育の改善に取り組み、初年次教育を経て、その後学修支援につながる一連の教育体制を構築する。 ◇ 設置基準改正に伴い、指導補助者(SA・TA)の活動を活性化すると共に必要な規程の改正や研修体制の充実を引き続き図る。 ✓ GPA 制度を活用した成績管理を具体的に実施する為、健康管理学部および薬学部における進級判定に GPA 値の基準を新たに設ける。 ✓ 学生の教育効果を考慮したうえで、各学科においてクォーター制度の導入を検討する。可能であれば、令和 8(2026)年度より各学科もしくはコース単位でも導入を検討する。
<p>(5) 外国人留学生への日本語教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多様な日本語レベルの留学生の能力を最大限に向上させる為、レベル毎の教育体制をさらに充実させる。特に人間社会学部においては、非常勤講師を活用しながらきめ細やかな指導体制を構築する。
<p>(6) 数理・データサイエンス・AI 教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 数理・データサイエンス・AI 教育の充実を図る為、全学共通科目である「コンピュータ基礎演習」を中心としたプログラムを文部科学省が実施している「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に申請する。
<p>(7) 他大学等と連携した教育(QSP の教育活動関係の取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州西部地域大学・短期大学連合産官連携プラットフォーム(QSP)科目群創出 WG(本学責任校)で、経済界を含む参画機関と共同で科目を開発する。(西九州探求学、ICT、データサイエンス、AI、DX など) ✓ QSP 参画校で人材バンクを構築し、毎年初めの人事異動に合わせてリストを更新、現在 80 人以上の教職員を登録している。引き続き PR、活用を図る。 ✓ リカレント教育、ICT、データサイエンスなど、共同での企画、推進を図る。 ✓ 『女子中高生の理系進路選択支援プログラム』を幹事校佐賀大学、西九州大学、佐世保工業高等専門学校、久留米工業大学と本学の 5 校で推進。中高生向けに出張講義や実験体験会、先端技術企業訪問などを実施。

6) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 情報系分野に関わる人材育成を目指す学部の新設により、地域社会に優秀な専門人材を輩出する。 ✓ 地域社会と大学が連携することで、地域の課題解決やイノベーションを創出する。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 政府が推進する「Society5.0 for SDGS」の実現に向け、未来に資する人材育成のため「未来理工学部」を開設し、地域で学んだ人材を地域に還流させ産業振興、教育・文化水準を向上させることで「ウェルビーイング」の社会の実現を目指す。 ✓ デジタルスキルの大幅な変化に対応するため積極的に社会人を受け入れ、最新の知識・技術の修得のためのリスクリング教育を行うとともに、大学の研究力を活用して自治体や地元企業と連携・協働し地域社会の DX 化に取り組む。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 新学部の開設	✓ 未来理工学部(情報系、データサイエンス系、建築・デザイン系)を開設予定。
(2) 未来を担う人材育成	✓ Society 5.0 for SDGs の実現に貢献できる人材を育成する。
(3) 地域社会への貢献	✓ 地域で学んだ人材を地域に還流させ、産業振興や教育・文化水準の向上に貢献する。
(4) 社会人リスクリング	✓ デジタルスキルの変化に対応するため、社会人向けのリスクリング教育を積極的に行う。

7) 研究活動

計画の概要	
<研究活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域における知の拠点として開かれた大学、研究機関を目指す。 	

<ul style="list-style-type: none"> ✓ グローバル化に対応した体制構築を図る。 ✓ 外部資金獲得をより一層推進する。 ✓ 令和 7(2025)年度新規公募分から義務付けられる学術論文等の即時オープンアクセス化に対応するため、長崎国際大学学術機関リポジトリ(NIU-AIR)における体制・環境を整える。 	
<p><計画の概要(項目・取組の要約)></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の教育・研究機関の核として産学連携の推進を目指す。本学のさらなる研究力の向上を目指し、様々な支援を通じて産学連携の拡大を指向する研究体制の整備につなげる。地域産業界との連携に関しては、経済的支援を予算化する。研究倫理研修、研究費の適正使用に関するコンプライアンス研修、知財管理に係る研修、利益相反マネジメント、安全保障輸出管理などの各研修を通じてリスクマネジメント対応ができる研究環境造成を図る。さらに、各教員の専門分野における研究活動を把握し、個別に最適な支援を実施することで、本学の研究体制・活動のオープン化を推進する。また、社会情勢や法令改正の変化に迅速に対応できる柔軟な体制整備を目指して、研究者や関係職員(事務職員、研究支援者等)への啓発を進める。引続き外部資金の獲得推進、地域との連携強化等、産学連携・研究支援を行っていく。 ✓ 統合イノベーション戦略に沿った本学の学術機関リポジトリ(NIU-AIR)の運用を実現するために、関連情報の収集と運用体制を整備し、学内研究者への円滑な支援の実現に向けた情報発信の体制を整えていく。 ✓ 学内で作成された教育・研究活動の学術成果を電子的に保存・蓄積し、学術機関リポジトリ(NIU-AIR)を通して広く発信することで、オープンサイエンスの推進に繋げる活動を進めていく。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 研究機関としての組織的な強化方針や研究課題活動	✓ 契約ベースの研究交流を積極的に進め共同研究、委託研究、および寄付金の受け入れ実績の向上を図る。更なる研究環境の整備支援、異業種の研究交流先の紹介支援、グラント(外部資金)等の情報提供支援の強化等を引続き行う。
(2) 研究者個人の研究活動の支援	✓ 研究活動を支援するため、科研費の応募に必要なスキルの勉強会を引続き実施する。産学連携に係る活動時間の創出のため TA、RA の雇用を支援する。リスクマネジメントの一環として利益相反マネジメント研修や安全保障輸出管理研修を引続き実施する。
(3) 研究系の外部資金の獲得	✓ 科研費に関して外部専門業者に委託している科研費説明会の質の向上を図り、科研費額獲得の向上に努める。文科省、厚労省に加えて経産省、農水省などの助成金獲得も視野に情報を発信し、また、民間団体による助成案内についても学内へ情報発信を徹底することで、より一層のグラント(外部資金)の獲得を推進する。
(4) 研究倫理の遵守や不正使用防止の啓発	✓ 大学のグローバル化に伴い、オープンで公正な研究活動とその成果の公表が求められている。そのため専任教員だけでなく、これらの研究者を補助する各研究室所属の研究支援者、TA、RA に対して、継続的な研修を実施し倫理教育、コンプライアンス遵守の浸透を図っていく。また、引き続き、これらを支援する URA の育成・配置に努める。

8) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

計画の概要	
<p><支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教職員一体となった全学的な支援体制を基に、学生一人ひとりの状況を理解し、適切な支援を提供すること ✓ 学生一人ひとりが意思のある自立した進路選択を行い、進路を決定できること ✓ 学生にとって魅力的な図書館になる。 	
<p><計画の概要(項目・取組の要約)></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生課とキャリアセンターの窓口を一本化したことから「(教育課程外で)入学から就職まで」切れ目ない学生支援が提供可能となったことによるメリットを生かし、学生生活を社会へ出る前の「大切な準備期間」として捉え業務にあたる。 ✓ 学生との相互理解を図る。 ✓ “キャリアセンター”および“NIU キャリアセンターオンライン”が十分に認知されていなかったことから、周知の内容および方法を検討し認知度アップを図る。 ✓ 就職支援と並行してキャリア教育の重要性についても学科および教務課との方針策定を検討する。 ✓ 本学のモットーである「いつも、人から。そして、心から。」を具現化するため、教職員が学生に寄り添う自立サポートの実践や学生同士による助け合い(ピア・サポート)の取組を進め、学生支援体制の拡充と学生のホスピタリティの成長を目指す。また、学生一人ひとりが充実感ある学生生活を送るため、心身共に健康な状態を自己管理できる力を養う。 ✓ 学生目線による選書ツアーで専門領域を問わず資料を拡充し、本学の特色となるコレクション構築を形成していく。 ✓ ライブラリーサポーターが積極的に活動できる環境を整備・充実し、利用者にとって魅力的な図書館づくりを進めていく。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 学長 Café	✓ 学生からの直接の意見を把握する貴重な機会として2回/年実施し、意見や要

	望に対し実現へ向け調整を図る。
(2) スクールバス運行	✓ 従前より、学長 Café や卒業生アンケートでリクエストのあったスクールバスの運行を開始する。
(3) 喫煙対策	✓ 学生委員会を中心に、CH サポートセンターと協働しながら、新たな喫煙対策を検討し実施する。
(4) 奨学金	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 奨学金については、本学学生のうち半数以上の学生が利用していることもあり、学生の学業の継続および本学としての安定的な収入を確保するためにも重要な業務である。また、その中でほとんどの学生が利用する日本学生支援機構の奨学金(給付型・貸与型)については、多くの事務手続きが存在し業務が年々煩雑化していることが、学生課業務のうち多くの負荷となっている。これまでの学生対応である「1～10 まで」「手厚い対応」から「取捨選択」「効率化重視」へシフトすべきが課題となっている。 ✓ 外部への業務委託を検討するも現状では、本学単体でのメリットは大きくない。引き続き検討を続ける。 ✓ 利用者数の多い学部生対象の奨学金だけでなく、大学院における「授業料後払い制度」や「返還免除制度」といった大学院生への支援拡充を周知し、経済的理由で大学院進学を諦めない学生支援を強化する。
(5) 開国祭など	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 母体となる学生会活動については引き続きフォローする。 ✓ 開国祭については、ステージおよび模擬店と比して講義棟での催しが脆弱なため ✓ 地域連携室と協働し充実を図る。
(6) チューリップハウス	✓ Wi-Fi 環境の改善について、令和 6(2024)年中にチューリップハウスと関連業者そして本学としての調整がまとまりつつあるため、引き続き検討および調整を進め、環境改善を実現する。
(7) 就職支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 授業・ガイダンス・学内合同(個別)企業説明会および学生に対する個別対応に加え、特別講座・SPI 対策・公務員対策など、多方面から就職支援を実施する。 ✓ また、「就職活動」とひとくくりにするのではなく、就職活動の進捗状況や希望する業界、就職先など複数の軸を設け、学科の協力を得ながらより有効な支援計画の策定・実施にチャレンジする。
(8) 就職ガイダンス	✓ 就職活動で必須となるエントリーシート・履歴書の書き方や、自己分析、企業研究などに加え、業界の傾向やスケジュール、最新の情報など、学生にとって有益な情報を外部業者の協力を得ながら提供する。
(9) 留学生支援	✓ 留学生の就職率については、本学の就職支援における課題の一つと認識している。留学生数が増加傾向にあるなかで日本での就職活動をフォローするためにバスツアーや本学 OBOG との交流など座学以外での活動を計画・実施する。
(10) インターンシップ対応	✓ 就職活動が早期化する中で、インターンシップの重要度が増している。授業を中心に各学科とも連携を取りながら周知を進める。
(11) CH サポートセンター内の3室連携	✓ CH サポートセンターは、センター内の3室(保健室・学生相談室・学生生活サポート室)の連携により、学生の心身の健康管理・相談および大学生活支援に対して包括的な対応をする。また、教職員一体となった全学的な支援体制により、学生一人ひとりの個性を理解し、きめ細やかな支援を提供する。
(12) 保健室(健康診断・健康相談・保健指導)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生および大学院生の定期健康診断 100%受診継続を遂行する(休学除く)。 ✓ 各自で健康管理できる力を養うため、熱中症対策や AED 講習会、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターだより発行等による情報発信を行う。 ✓ 新型コロナ禍におけるさまざまな経験を踏まえ、Post-corona においても学校感染症の対応を原則とし、健康チェック提出や Google フォームを活用した感染申告による保健指導を継続する。また、感染申告方法については、留学生でも対応しやすい形式へ改善する。引き続き感染予防対策および健康相談窓口の周知徹底を実施し、学生・教職員が安心して過ごせるよう努める。
(13) 学生相談室(心理相談)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 平成 24(2012)年度から全学生に実施している「心の健康調査」を継続実施し、ハイリスク学生の早期発見・早期対応と学生のメンタルヘルスの維持を図る。 ✓ NIU ランチアワー(居場所づくり活動)は、大学生活における人間関係を築く上でつまづきやそれに伴う孤立感などの不適応を予防し、学生生活へのさらなる適応を促すため、学内で安心して過ごせる居場所を提供することを目的として週 1 回実施する。具体的には、カウンセラーが学生同士の交流を促し、学習面や対人面などについての心理的な悩みを気軽に相談できる時間と空間の提供を目指す。
(14) 学生生活サポート室(大学生活相談)	✓ 学生生活サポート室は、「相談支援」と「障がい学生支援」の2部門から構成される。「相談支援」は、本学の特長であり、研修を受けた各学科の教員と大学院

	生が室員として学業面、対人関係、大学生生活面などに対して学科間を超えたサポートする体制をとっている。「障がい学生支援」は、学生主導で運営する長崎国際大学ピア・サポート学生組織(以下、NPS)の学生達と各学科のピア・サポート担当教員が協働し、障がい学生の意見も取り入れた、ピア(仲間)による支援内容の充実を図る。
(15) 長崎国際大学ピア・サポート学生組織(NPS)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本学の障がいのある学生を包摂した修学環境を持続的に保障する取組を実践する。そのために、障がいのある学生と協働しながらピア・サポーターの支援スキルの質的向上に寄与する新たな研修会の企画・立案などに積極的に取り組む。 ✓ 本学の国際大学という特色を活かし、当該組織に障がいのある学生だけではなく、留学生なども積極的に取り込みながら、多様な人々が交流し、ともに学ぶ機会を創出し、多様性・包摂性のある学生組織としてさらなる成長や発展を遂げることを目指す。
(16) 合理的配慮の提供	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 合理的配慮の提供に関しては、「長崎国際大学における障がいを理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応要領」に沿って、学内外における合理的配慮が適切に提供されるために、手続き方法、情報共有、守秘義務および個人情報管理について研修を継続し、偏りのない理解を深めるよう取り組む。 ✓ 合理的配慮の提供内容検討会議、それに関する事務処理においても、効率的な改善を図る。
(17) 障がい学生支援のプラットフォーム事業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 障がい学生(合理的配慮申請学生含む)の就職支援体制整備を令和 4(2022)年度からキャリアセンターと CH サポートセンターで構成した学内ワーキングチームと、包括協定締結先の社会福祉法人南高愛隣会と連携し取組を開始。産学連携の就労移行支援モデルとした「入学時からの就職支援」の就職支援制度の完成を目指す。令和 7(2025)年度は、就職先となる企業に対し、障がい学生への理解が深まる働きかけや企業側からのニーズを把握するため、企業とのネットワークづくりに取り組む。

9) 国際交流・留学生支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 世界の舞台で活躍する人材育成を一層推進するため、既存の支援体制を強化するとともに、多様化・高度化する国際交流のニーズに応える取り組みを展開し、一層の国際化を図る。地域連携の深化とともに、国際社会における大学の存在感向上を図る。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新たな「国際化ビジョン」の目標達成に向けて、海外大学との交流を一層推進し、海外留学生数の増加を図るとともに、大学のさらなる国際化を進める。 ✓ 新たな協定先の国を開拓し、留学生の多国籍化を促進する。 ✓ 国際交流・留学生支援センターが中心となり、教職員の協働により、外国人留学生の受け入れ支援や日本人学生の海外派遣留学の体制を充実させ、満足度の向上を図る。 ✓ 地域と連携した国際化を強化するため、地域住民や地元企業との交流を拡大する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 海外大学との交流推進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新たな協定校の開拓 アジア圏に加え、欧米や北米地域において複数の海外大学との協定締結を目指す。 ✓ 国際共同プログラムの実施 協定校との連携による短期留学プログラム、オンライン国際授業を導入し、多様な学びの機会を提供する。
(2) 留学生募集の強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国内外の協定校との連携を強化するとともに、アジア圏を中心に新たな協定先を開拓する。
(3) 留学生支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教員と連携し、在籍管理と学修の進捗支援を強化する。 ✓ 日本語能力,デジタル・IT 教育,国内就職支援研修等の支援基盤の強化を図る。 ✓ 新たに上級学年の学生(留学生含)をチューターとして配置し、留学生の学生生活満足度向上を目指す。
(4) グローバル人材育成プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経済負担を軽減するため、本学独自の留学奨学金および海外留学支援制度(協定派遣・JASSO)の活用を促進する。また、新たな海外留学奨学金・補助金などの獲得に努める。 ✓ グローバルマインドの養成を目的とした、留学生と日本人学生との共修プログラム(PBL)を拡大する。さらに、国際交流スペースにおける交流イベントを実施し、異文化理解の深化を図る。
(5) 学内外および地域との連携推進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 佐世保地域留学生支援交流推進協議会と連携し、地域住民との国際交流イベントを拡大する。 ✓ 地元企業への外国人雇用情報提供を強化し、地元企業の雇用促進や地域の活性化・国際化に貢献する。

	✓ 留学生と地域住民が協働するボランティア活動や社会貢献プログラムを促進し、地域社会とのつながりを深める。
--	---

10) 学生募集・広報活動

計画の概要	
<募集・広報の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期計画に基づく入学者目標設定 532 人(1 年次 460 人、編入 42 人、大学院 30 人)の達成。 ✓ 教育研究活動を積極的に広報することにより、ブランド価値向上を図り入学志願者数増に繋げる。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期計画に基づく入学者目標設定 532 人(1 年次 460 人、編入 42 人、大学院 30 人)の達成に向けて、魅力ある広報資源の創出と戦略的かつ効果的な発信により、大学の認知度やブランド力の向上を推進する。また、進路選択時期の早期化、年内入試受験志向の高まりなどの学生募集環境の変化に対しても早期認知への強化を図る。 ✓ メディアへの露出や WEB 広報を活用し、国内のより幅広い地域やグローバルな視点も含めた広報力を強化する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 定員確保	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 入学定員を確保するために、各広報媒体による情報発信およびダイレクトマーケティング、高校訪問、進学ガイダンス参加、オープンキャンパスの実施を効果的かつ効率的に取り組む。
(2) アドミッション・ポリシーの対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 毎年検証を行い、必要に応じて変更内容を検討し見直す。加えて AP の周知に努め、受け入れ後は、その検証を入試募集委員会で行う。
(3) 学部学生の募集	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全学科での定員確保を目標に、PDCA サイクルで活動する。 ✓ 学生募集環境の変化に合わせて広報媒体を取捨選択し、進学校から進路多様校や通信制高校の生徒まで各情報内容により掲出時期を的確に判断すると共に、早期接触と複数回接触によって募集基盤の安定化を図る。 ✓ 内部進学、スポーツ強化指定部、留学生の募集活動にも注力する。
(4) 大学院生の募集	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日本人学生については、学部在生学生を中心に各研究科長・専攻長が責任を持って定員確保に向けて取り組む。 ✓ 外国人留学生については、中国、台湾を中心に大学院進学希望者の募集を強化継続する。
(5) 外国人留学生の募集	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際交流・留学生支援室を中心とし、国内・海外における計画的な募集活動を実施する。 ✓ コロナ禍により減少した入学者数、在学生数を回復させるべく、引き続き提携先と密な関係を構築・維持、連携を強化して入学者の確保を図る。
(6) 高校との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定期的に実施している学園内高校との協議や、教員と募集担当者による各高校への働き掛けにより、様々な高校生参加型の学内催事や出張講義、学校見学会等の高大連携への誘引を強化する。
(7) 既存入試制度の実施・改善	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学力の三要素を多面的・総合的に評価する内容については継続的に検討する。また、令和 4(2022)年 4 月から新学習指導要領が施行され、令和 7(2025)年度入学者選抜に引き続き令和 8(2026)年度入学者選抜においても新教育課程の内容に対応して実施する。
(8) その他	<ul style="list-style-type: none"> ✓ オープンキャンパスにおいては、徐々に参加生徒数は増加しており、令和 3(2021)年度 993 人、令和 4(2022)年度 995 人、令和 5(2023)年度 1,061 人、令和 6(2024)年度 1,112 人となり、令和 7(2025)年度は 1,200 人を目標とし動員強化に努める。
(9) 卒業生ネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 卒業生の活躍を発信することで、大学のブランドイメージ向上につなげる。

11) 教職員の人材開発(SD・FD)

計画の概要	
<人材開発の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「長崎国際大学が求める教職員像」ならびに「SD・FDの基本方針」の実現 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「長崎国際大学が求める教職員像」ならびに「SD・FDの基本方針」に基づき、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、必要な知識および技能を修得させ、ならびにその能力および資質を向上させるための計画的な研修機会を設け、その他必要な取組を企画・実施する。 ✓ 教職員は、SD・FD に積極的に参加するものとし、大学は組織的で効果的な SD・FD を企画・実施する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) SD・FD の計画および調整	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全学的取組と各部署等で実施する SD・FD(指導補助者への研修を含む)等の調整・連携を図り、組織的で効果的に実施する。
(2) 新着任研修	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「長崎国際大学が求める教職員像」を目標として、新着任教職員対象の SD・FD を通して、学校法人九州文化学園の教職員として建学の精神および理念の

	理解促進を図る。
(3) SD 活動	✓ 教員および職員、幹部職員等を対象とした SD や、外部団体等への研修参加を促進し、必要な知識および技能を修得させ、能力と資質の向上を図る。
(4) FD 活動(教育改善・教育向上)	✓ 全学 FD 活動として、授業アンケートの実施、公開授業、教育向上研究会(各種講演会やワークショップ等)、授業研修会を実施し、PDCA サイクルを循環させ教育改善・向上に努め内部質保証を推進する。
(5) SD・FD の大学間連携(QSP)	✓ 包括的連携協定校や QSP 事業を通して、相互に開催を案内し、必要に応じて参加することで、SD・FD を推進する。

1 2) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

計画の概要	
<連携強化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「地域・産学官連携活動の基本方針」に基づき、「地域連携センター・地域連携室」を中心に本学や各学科の特色を活かし、地域・産学官の団体、他の教育機関、同窓会等、さらに本法人の他部門、グループと連携し、本学園・本学のステークホルダー増に繋げる。また、令和 3(2021)年度から設置している「スポーツサポートセンター・スポーツ支援・振興室」、さらに本学の「強化指定部 9 競技 13 団体」の学生・教職員を中心とした「大学スポーツ振興と地域スポーツ振興」、長崎県は人口減が激しい県であることから「スポーツにおける人口減の抑制」、さらに文科省、スポーツ庁、長崎県内で推進している「中学部活動の地域移行」の観点から、本学のブランド向上を主旨とし、「競技力向上支援・スポーツ系学生学修支援・地域スポーツ振興活動支援」の 3 つの柱にて UNIVAS や包括連携協定締結団体と積極的に活動する。これらの活動が、長崎県・佐世保市が抱える喫緊である「人口減抑制」の観点からも、「ステークホルダーとの連携強化」は重要と考える。 ✓ ステークホルダーとの良好な関係の構築。 ✓ 図書館としてできる連携を最大限に発揮し、ステークホルダーとの関係を強固とする。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「産学官連携&催事関連事業：地方公共団体・企業・教育機関」、「公開講座」、「ハイスクール茶会事業」、「地域スポーツ振興・大学スポーツ振興事業」、「同窓会」の項目について実施。 ✓ 保護者会については、コロナ禍を経ても仕様を変更しながら安定的な開催ができていたが、地方会場については再開できていない。令和元(2019)年以降の開催となる沖縄での地方保護者会を実施する。 ✓ 長崎県内の公共図書館および他大学との実務研修を通し図書館運営に関する専門性を発揮し、連携した相互協力を通して図書館情報資源の共有と社会・地域連携の拡大に努めていく。 ✓ 読書普及活動の一環として、佐世保市立図書館との共催によるビブリオバトルを定期的に開催し、継続的な地域貢献に繋げていく。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 同窓会(卒業生)との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 同窓会「悠和会」との連携、特に佐世保市在住者との懇親を深める。 ✓ 本学における支援について <ul style="list-style-type: none"> ・入学式、卒業式御花 ・ハイスクール茶会協賛 ・大学祭協賛 ・周年行事支援 ・公認団体に対する「バックアップ支援、全国大会支援」 ・同窓会特別奨学金 他
(2) 産学官連携&催事関連事業：地方公共団体・企業・教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 【地方公共団体】佐世保市：若者活躍プロジェクト、国際観光人材育成事業、ふるさと教育連携事業(佐世保市総合教育センター：少年科学館サポート)、健康延伸寿命プロジェクト、次世代創業者育成事業+START UP99 ビジネスプランコンテスト実行委員会、他 ✓ 地方公共団体から依頼があった事業については連携し、さらに本学のステークホルダー増を意識し、取り組む。目標については、未定。 ✓ 昨年度より、地方公共団体と連携して実施している「中学部活動地域移行におけるクラブ化」に対する「指導者アシスタント：学生派遣」については、拡大傾向にあるので、「国際観光学科スポーツツーリズムコース」と連携して実施する。 ✓ 【教育機関】特に佐世保市内の教育機関から「総合学習」、「探求型教育」に関し、依頼がある場合は地域連携センターと協働で実施する。特に「佐世保北中学校研究所訪問」については 4 学科と連携し実施する。目標：10 件
(3) 公開講座	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 目標：年間 40 講座 特に「NIU キッズキャンパス」、また本学園・本学と包括連携協定締結企業・団体と「地域連携センター」、4 学科と連携し、実施する。
(4) ハイスクール茶会事業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「ハイスクール茶会実行委員会」と本学園・本学関係者と連携して実施する。
(5) QSP 事業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和 7(2025)年度は、QSP の第 2 期中期計画 3 年目のため。中間報告書のとりまとめをはかり、今までの課題を踏まえて QSP 各ワーキンググループ(以下 WG)の事業計画の推進を図る。 ✓ 産学官(地域・企業・大学)連携事業については、教育・研究・学生支援に対する

	<p>教職協働と位置付け実施する。WGに参加する教職員や、各参画機関の事務局との連携を密にし、情報共有、広報等強化を図り、各WGの事業計画を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 具体的には、共同入試、リケジョ事業、リカレント教育、健康ウォーク、子どもに係る共同研究、留学生との国際交流(異文化理解教室など)に取り組んでいる。 ✓ また共同業務として、共同でIR、SDFD、人事交流、人材リストの活用、設備の共同利用などにも取り組んでいる。 ✓ 私立大学等改革総合支援事業の関連タイプの選定に向け、個々の目標項目を達成すべく引き続き事業を企画・推進する。(令和5(2023)年度のタイプ3(PF型)補助金12,650千円、また地元就職活動に対し、県未来人材課より令和6年度地域人材育成・定着支援補助金160千円)
(6) 地域スポーツ振興・大学スポーツ振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和6(2024)年度強化指定部員381人(5/1現在、学生対比19.1%)に対する支援。具体的には「スポーツサポートセンター、スポーツ支援・振興室と協議。案)離学防止対策の一環である「スポーツ系学生学修支援プログラム」の実施。 ✓ スポーツ支援・振興室、スポーツサポートセンターが中心となり以下の事業を実施するが、予算の範囲内で事業展開。 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ系学生支援事業、スポーツ系産学官連携事業、催事関連事業、指導者育成事業、安全・安心事業、スポーツプロジェクト事業 計20件 ✓ 文科省、スポーツ庁、長崎県が推進している「中学部活動の地域移行」について、本学の「国際観光学科、強化指定部、スポーツサポートセンター、スポーツ支援・振興室」が本県内の地方公共団体と連携し、事業展開。 ✓ 地方公共団体および関連団体、特にスポーツ関連で11件の有識者・専門家として職員派遣。
(7) 保護者会	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 開催時の参加者率(60%前後)および満足度が高かった沖縄会場での開催を再開する。沖縄出身の学生数はコロナ禍前の令和元(2019)年度比で△54人(令和6(2024)年5月1日比)と減員が顕著であるため、募集活動の観点からも効果的と見込んでいる。

13) 学園内の連携促進

計画の概要	
<p><連携の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 総合学園のスケールメリットを活かし、本学園にしかできない教育を実践し、社会に貢献する人材を育成する。 <p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各学部学科・研究科毎に、それぞれの特色を活かしながら、学園内の各部門と以下の連携を促進する取組を実施する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 国際観光学科の取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学園内の学校に対して、出張講義の実施、各種イベントへの本学科教員の参加などを通して連携を強化する ✓ 九州文化学園高等学校からの内部進学、長崎短期大学からの編入学の促進を図る。
(2) 社会福祉学科の取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州文化学園小学校・中学校からの出前授業等の依頼に機敏に対応し、将来の福祉人材の確保につなげる。 ✓ 九州文化学園高等学校保育福祉科福祉コースとの緊密な連携を図り、各種交流イベントや、日常授業への本学科教員の参加などにより「顔の見える」関係を構築する。また、これらを通じて、内部進学者の増加を図る。
(3) 健康栄養学科の取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州文化学園高等学校および長崎短期大学からの内部進学の促進を図る。 ✓ 学園内の非常勤講師派遣を継続する。
(4) 薬学科の取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出前講義による九州文化学園高等学校との高大連携を強化する。 ✓ 九州文化学園小中学校の児童・生徒を対象とした理科系の魅力を紹介する。 ✓ 主に退職教員を紹介・派遣することで、九州文化学園小中高等学校の教育レベル向上へ協力する。 ✓ 学園内の薬物乱用防止を啓発する。 ✓ 長崎リハビリテーション病院と連携を強化する。さらに、実務実習受け入れ病院となっただけことを検討する。
(5) 健康管理学研究科の取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他学部、学園内学校との共同研究を推進する。
(6) 薬学研究科の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 最新の研究成果を学園内に発信し、学内連携提案を募る。

14) SDGsの推進

計画の概要	
<p><SDGs推進の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)></p>	

<ul style="list-style-type: none"> ✓ SDGs への積極的取り組みを発信することで、大学のブランド価値向上を図る。 ✓ SDGs の推進を通じ大学の学生、教職員が価値観や目標を共有することで大学全体の結束を強化する。 ✓ 地域住民を巻き込んだイベントやワークショップを開催し、SDGs の目標達成に向けた啓発活動を行う。 ✓ 国際社会との連携も深めるため、海外提携大学とのシンポジウム等を通じた相互理解を図る。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域住民を対象とした SDGs に関するイベントに出展することで、地域の課題解決に向けた連携を強化し、持続可能な地域社会の実現を目指す。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 名切 SDGs フェスティバル	✓ 名切 SDGs フェスティバルに学園全体で参加し、SDGs に係る教育研究活動の成果を披露し、地域住民に対する啓蒙活動を行う。
(2) 地域で考える循環型「食・物」産学官連携協働プロジェクト	✓ SDGs を推進している団体からの生活物資、さらに重尾町「わいわい広場」からの野菜について、SDGs の観点、学生に対する生活物資の支援の観点から、通年的に学生支援を行う。

15) 管理運営と業務・経費効率化

計画の概要	
<管理運営と効率化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経常収支差額 7.5%の達成。 ✓ 事務業務の DX 化を導入するなど、通常業務の見直しを行い、効率化を図る。 ✓ 中期計画の達成に向け、入学者数の増に加え経費の削減の相乗効果で収支の改善を目指すため、課横断的な視点で課題を抽出し対応策を立案することで経常収支差額黒字の実現に寄与する。 ✓ 中期計画最終年度に際し、学園全体の経常収支差額目標達成に寄与する。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 適正な予算執行統制を図る。 ✓ 補助金や各種外部資金獲得に向けた取り組みの強化。 ✓ 業務効率化や既存業務の見直しによる無駄の削減。 ✓ 九州文化学園行動規範、ガバナンス・コードに基づき、規律を持った大学運営を行う。 ✓ 運営会議を有効に活用し、法人と大学間で情報や課題を共有し、意思決定の円滑化を図る。 ✓ 法人とも協議・協働の上、建物・附属設備・構築物等を中心とした中長期修繕計画の策定を急ぐ。 ✓ 大学設置基準の改正に伴い、規則・規程や文書の点検・整備を行う。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 予算の予実管理	✓ 策定予算と予算執行状況を比較・分析し、予算の達成度合いや課題を見える化する。
(2) 外部資金獲得推進	✓ 学長裁量経費を活用し、地域研究および地域社会活動、科研費チャレンジ等の研究シーズ案件の開発を推進する。
(3) 業務効率化	✓ 既存の業務フローを可視化し無駄なプロセスや重複作業を洗い出す。殊に過去の慣習による非効率な作業を特定し削減する。
(4) 固定経費の見直し	✓ 既契約に基づき固定経費となっている、清掃、ビル管理業務などの契約見直し(業者見直しも含む)により、経費削減を図る。
(5) 省エネの推進	✓ 燃料費の高騰による電気・ガスの料金が値上げとなっており、デマンドコントロールの機能を上げることで、値上げ幅の抑制をする。
(6) 経費支出の効率化	✓ 経費支出においては事業や経費の精査と投資対効果、相見積もりや価格交渉などにより既存経費の抑制・削減に注力する。

16) 施設・設備・システム等の環境整備

計画の概要	
<環境整備の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学全体において、既存の機器・備品更新の必要がある。教育活動への影響を十分に検証し、優先順位をつけて更新・修繕を行う。 ✓ 薬学教育・研究活動の充実と質の維持・向上を図るため、導入を保留していた大型研究機器・設備の更新や IT・DX に対応できる人材育成のため業界最新の機能を有した機器の整備等を推進する。また、既存の機器や施設・設備については、長期的な維持を図るため、各種保守点検を確実に実施していく。他学に引けを取らない環境を提供することで優秀な人材の輩出と安定した定員の確保を目指す ✓ 6 号館教室のマイク等の音響機器および関連機器が老朽化しており、ここ数年の PC や WEB 環境に対応できないことから、計画的に最新の環境に更新していく。 ✓ 例年、気温の上がる春先から夏・秋に向け 6 号館教室の天井、壁にカビが発生し学生の健康にも影響を及ぼしかねない環境となっている。空調の管理につき総務課と連携しながら対策を講じていく。 ✓ 学生の「くつろげる場」の創出のため、現状学生の通路兼物置となっている 2 回渡り廊下、6 号館および薬学研究等周辺の空き地の有効活用案を検討し実行していく。学生生活の充実度・満足度の向上を目指す。 ✓ 薬学教育評価の受審に際し抽出された課題・問題点を確実に修正していく体制を確立していく。 	

<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生の福利厚生施設、ならびに現在、強化指定部 9 競技 13 団体：381 人在籍している学生のために、本学は高等教育機関でありながら、「トレーニング施設(室)」がないことから、今後、トレーニング施設が常設された第 2 体育館の設置を計画したい。その結果、一般学生・強化指定部部員の「健康維持・競技力向上」も含め、学生満足度と学生募集に好影響があると想定する。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 実験・研究および分析結果等の検討や学修において、緻密なデータや映像等をより明確に映し出すため、経年劣化が著しい各実習室の AV 機器の更新や教室プロジェクターのデジタル化を図る。 ✓ これまで更新や新規導入等、整備した大型機器・設備の定期的な保守点検を行うとともに、今後に向けて中・長期的な整備計画の策定、効率的・効果的な整備を進める。 ✓ 中央監視装置の各所にある制御装置更新計画(5 ヶ年)は、今年度も実施し学内インフラの安定的な運用を図る。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 空調関係・熱源更新	✓ 食堂棟空調を更新する。
(2) 制御装置更新	✓ 5 年計画の 2 年目として更新する。
(3) Wi-Fi 設備	✓ 管理サーバー更新、ルーター増設
(4) 薬学部大型研究機器	✓ 「スキャナータイプ画像解析装置」を設置等
(5) 6 号館教室整備	✓ 音響機器および関連機器整備(6 教室) ✓ 空調設備
(6) 学生の生活環境整備	✓ 2 階渡り廊下および校舎周辺の環境整備
(7) 第 2 体育館設置	✓ 学生の福利厚生施設および強化指定部、さらに一般の学生も利用可能なトレーニング室、AV 機器を含む戦略室、加えて一般の学生が学内で健康的に活動可能なアーバンスポーツ(3x3 バスケット、スケートボード、ビーチバレー他)が可能な施設・設備を備えた「第 2 体育館」の設置検討。

17) 点検評価

計画の概要	
<点検評価の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学則第 2 条、大学院学則第 3 条、「内部質保証の基本方針」に基づく自己点検・評価の確実な履行。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学則第 2 条、大学院学則第 3 条、「内部質保証の基本方針」に基づく自己点検・評価の確実な実施。 ✓ 学校教育法第 109 条第 2 項に規定する、認証評価機関がおこなう「機関別認証評価」の適切な受審の実施。 ✓ 各部署が実施する分野別評価等の推進・支援。 ✓ 教員等の教育向上を支援・推進するとともに、評価およびマネジメントに資する基礎情報の適正な調査・収集・分析の実施。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 自己点検評価	✓ 3 ポリシーを起点とした内部質保証を確立するための、自己点検・評価を継続し、教育・研究水準等の向上を目指す。
(2) 機関別認証評価	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学校教育法第 109 条第 2 項、学則第 2 条、大学院学則第 3 条に基づき、自己点検・評価を確実に履行し、令和 7(2025)年度の機関別認証評価受審に向けて、点検・評価およびエビデンスの整理等に努める。 ✓ 機関別認証評価の意義と目的を、教員および事務職員に周知すると共に、内部質保証の更なる充実に努める。
(3) 分野別評価	✓ 令和 7(2025)年度の薬学教育評価の受審に向けて、薬学部において確実な点検・評価を実施し、エビデンスの整理等に努める。

18) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

計画の概要	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 【第 2 体育館設置】令和 5(2023)年度強化指定部員 381 人(学生対比 19.1%)が属する強化指定部だけでなく、学生の福利厚生施設として、一般の学生も利用可能なトレーニング室、AV 機器を含む戦略室、さらに一般の学生が学内で健康的に活動可能なアーバンスポーツ(3x3 バスケット、スケートボード、ビーチバレー他)が可能な施設・設備を備えた「第 2 体育館」の検討を行う。これらの検討は、学生満足度の向上ならびに今後の安定的な学生募集に繋がることを主旨とする。特に年間、強化指定部指導者スカウト活動による約 100 人等、安定的な学生募集、ならびに学生の福利厚生とする主旨。 ✓ 各学部学科・研究科および部署において、中長期的視点による教育・学修・キャンパス環境の整備や特色化のため、以下の事項について、それぞれ提案や整備・導入を検討する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 国際観光学科の案件	✓ 観光人材に必要な語学力の向上、社会人のリカレント教育も含めた人材育成のためのプログラムを検討する。
(2) 社会福祉学科の案件	✓ 社会人やリタイア後のシニア層など、向学心・資格取得への意欲の高い層の入

	<p>学者の促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 福祉の特色を生かした災害ボランティア・パラスポーツ等のボランティア活動を地域の高校と積極的に実施し、高大接続を強化する。
(3) 健康栄養学科の案件	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 管理栄養士の社会的ニーズに応じた知識・技能を修得できるカリキュラムの改編の検討。 ✓ 調理や集団給食の技術を修得するために必要な調理実習室・集団給食実習室の改築・増築。 ✓ 教育環境の整備(老朽化した実習機器の更新、5号館のカビ対策、インターネット環境整備、トイレの暖房便座の設置)。
(4) 薬学科の案件	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 受験者・入学者数確保のため、入試募集センターと協働し、効果的な高校訪問や入試形態の改善(海外入試を含む)や広報活動を行う。 ✓ 大学附属薬局の設置基準について調査し、地域医療への貢献に加えて、学生や教員の研修施設としての可能性も検討する。 ✓ 実務家教員および薬学教育支援センター教員の確保。 ✓ 薬学部 20 周年記念事業(令和 8(2026)年)に向けて、準備を開始する。 ✓ 講義室・研究スペースの不足解消のため、また頻発するエアコンの故障やそれに付随する講義室のカビ対策のため、新校舎の増設を要望していく。 ✓ 通学・通勤の利便性向上のため、巡回バスに加えて、大学敷地内への JR 駅新設を要望していく。
(5) 健康管理学研究科の案件	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 研究環境の整備(ラボの設置、研究機器の新規導入・更新)。
(6) 第 2 体育館設置	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生の福利厚生施設および強化指定部、さらに一般の学生も利用可能なトレーニング室、AV 機器を含む戦略室、加えて一般の学生が学内で健康的に活動可能なアーバンスポーツ(3×3 バスケット、スケートボード、ビーチバレー他)が可能な施設・設備を備えた「第 2 体育館」の設置検討。
(7) 薬学研究科の案件	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学院生および教員の研究スペース確保(学部学生の国家試験勉強と共存できる環境整備) ✓ 高度な研究設備の導入による研究活性化、および老朽化機器・備品の更新。 ✓ 大学院生の学内修学支援金制度を整備する。

III. 長崎短期大学

A. 中期計画に掲げた経営理念・経営目標

5 ㇿ年の 設置校経営理念	For Community and With Community 地域中核人財育成・地域と成長する日本版コミュニティーカレッジ
5 ㇿ年の 設置校経営目標	・教職協働による学生支援の充実 ・ICT を活用した教育環境の高度化 ・定員充足による財務基盤の安定と国家試験合格率の向上

B. 中期計画に掲げた各戦略の目標達成に向けた本年度の事業方針

区分	目標達成に向けた本年度の事業方針
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 栄養士実力認定試験における A 判定取得者割合の増加を目指す。 ✓ 国家試験合格率 100%を目指す。(試験対策講座の充実と個別指導の実施/製菓・介護福祉) ✓ 幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得率 100%を目指す。 ✓ TOEIC-IP テスト、韓国語検定、中国語検定、日本語検定、サービス接遇検定等で教育成果の可視化を促進する。 ✓ 教育成果の可視化による授業改善を推進する。 ✓ FD・SD 研修会を実施し、教員の研究力および教育力の向上を図る。 ✓ 九州文化学園高等学校との高大連携促進による内部進学者 55 人の達成を目指す。 ✓ 長崎県内を最重点地区として捉え、特に県央地区・西海地区からの志願者 35 人の達成を目指す。 ✓ 茶道文化の更なる情報発信および地域・国際交流の推進のため、学園全体での茶会へ参加する。
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 栄養士・製菓衛生師・介護福祉士・保育士・幼稚園教諭等、専門知識を活かした就職率の向上を図る。 ✓ インターンシップ(長期就業体験・ギャップターム)の充実を図り、働くことと地域活動の意義と喜びを理解させ、就職に対しての意識づけを早期に行い、就職率 100%を目指す。 ✓ 西九州させば広域都市圏内における保育職就職率の向上を図る。(「メニュー1」少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援(以下 メニュー1 と記載)要件) ✓ 多様な学びの機会を提供するため、カリキュラム等の再編成を図る。 ✓ 卒業生に対するリカレント教育を継続する。 ✓ NJC マルシェの開催を企画し、製菓業で働く卒業生と触れ合う機会とする。 ✓ 国際コミュニケーションコースにおいては、令和 6(2024)年に開始した全学生参加型の「SpeakUp チャレンジ」を継続し、学生の語学学習のモチベーションを高め、語学教育の充実を図る。 ✓ 学生支援に関する情報を分析し、諸課題に対応するため、支援体制を強化する。 ✓ 各種アンケート結果に基づく教育改革を進めキャリア教育プログラム開発に着手する。(「メニュー2」複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援(以下メニュー2 と記載)要件)
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保護者会や学内行事、学生による地域活動の場を継続・拡充させ、ステークホルダーとの連携を強化する。 ✓ 卒業生や保護者に対して、タイムリーな情報提供を実施し継続した関係性を醸成する。 ✓ 保護者との信頼関係の構築を目的として、保護者面談を実施する。 ✓ 同窓会やホームカミング事業を実施し、卒業生の交流の場を設ける。 ✓ 実習施設や地域社会との連携を強化する。(メニュー1 要件) ✓ メニュー2 の採択に伴い、関係他大学と連携し、地域活動関連のステークホルダーとの緊密な連携・協働体制の下、地域共生学科全体の教育力向上を図る。 ✓ 相浦小学校、東翔高等学校などの地域の学校と連携し、留学生教育の質向上と地域貢献を目指す。 ✓ インターンシップ先を中心とした保育現場との情報共有の促進を図り、地域の課題解決を推進していく。 ✓ 吹奏楽研究室を活用し、音楽活動を通じてステークホルダーとの関係性を強化する。 ✓ 海外留学先の新規開拓、留学プログラムの充実等により海外留学生数の増加を図る。
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ PC・タブレット等を全学的に所有する事により、Google for Education 活用による授業の ICT 化を促進し、授業改善やクラス運営の効率化を図る。 ✓ パソコンスキル向上のための教育内容の充実を図る。 ✓ 履修カルテを電子化し、アクティブポータルを活用した学生支援の充実を図る。 ✓ 保育現場にフィットする ICT 教育を調査し教育内容に取り入れ、即戦力となる人材育成を目指す。
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ SNS を活用し、各学科・コースの学内外活動、魅力等の情報発信の頻度を高める。

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員確保に向けて、近隣高校との関係性の構築を目指す。 ✓ 佐世保くんち、夏祭りなど地域密着型イベント運営に参加する事を通して、認知度向上を図る。 ✓ 動画作成、SNS 発信等に興味のある学生対象の「グローバルリーダーシップ」で、技術習得と同時に、学生目線でのコースの学びを SNS で発信する。 ✓ 吹奏楽部や吹奏楽研究室による地域活動を通じてブランド力を向上させていくことと、九州文化学園高等学校から長崎短期大学への内部進学を促進させる。 ✓ プレスリリース年間 50 本の達成および SNS を活用した情報発信を行う。 ✓ 長崎国際大学と連携した進学ガイダンス参加による志願者の増強を図る。 ✓ オープンキャンパスにおける受験対象者 260 人の参加者達成を目指す。 ✓ 四年制大学への編入実績を増やし、編入を目指す高校生を取り込む。 ✓ 県内進学ガイダンスへ積極的に参加し、進学率の向上を図る。 ✓ 教育成果を可視化し発信することで、広く国内から邦人学生の入学者を増加させる。
戦略VI	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語圏・韓国・中国/台湾への短期・中期・長期留学を充実させる。 ✓ 国内外の四年制大学への 3 年次編入を促進する。 ✓ 長崎県韓国語スピーチ大会など、外部の大会への参加および受賞を図る。 ✓ 地方自治体や地域の事業所等との連携を図り、保育士・介護福祉士の奨学金制度を拡充させる。 ✓ 近隣短大と学生募集・学生支援・基幹教員の在り方を検討し、連携した取り組みの強化を図る。 ✓ 学内進学ガイダンスの早期実施と進学希望者への情報発信数を増やす。 ✓ 奨学制度見直しによる収支バランスの改善を図る。 ✓ 補助金が獲得できる教育・研究体制の整備を行う。
学園内の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州文化学園高等学校からの内部進学者確保のため、体験授業や交流授業・講師派遣、進学イベント等を強化する。 ✓ HSK、HSKK、中国百科検定などの語学検定について九州文化学園高等学校生の受験を促進する。 ✓ 九州文化学園小学校との食育コラボ活動、「児童英語教授法」等の語学関連授業で九州文化学園小中学校との連携を促進する。 ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園および三川内保育園の行事への学生ボランティア派遣と短大行事への子どもたちの招待など相互交流を深め、連携を強化する。 ✓ 長崎国際大学と連携した学生募集活動を実施する。 ✓ 長崎国際大学からの転入学の受け入れおよび長崎国際大学へ編入学を促進する。
付帯計画と課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公式 HP やインスタグラム等の SNS や情報媒体を活用した情報発信の強化、地域活動への積極的な参加を行い、本学の認知度向上を図る。

C. 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有

区分	内容
1 定量的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経常費収支差額黒字化を達成する。 ✓ メニュー1、メニュー2 の財務計画に沿った経営改革を進める。 ✓ 高大連携強化を図り、邦人入学者数の増加を目指す。 ✓ 収容定員の見直しを図る。
2 定性的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 西九州させば広域都市圏との包括連携自治体の増加を目指す。(メニュー1 要件) ✓ 近隣短大との連携強化を図り、業務改善・コスト削減を目指す。(メニュー2 要件)
3 経営・募集戦略上強みとなる魅力・特色	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県北唯一の短期高等教育機関である。 ✓ 九州文化学園高等学校がキャンパス内にあり、高大連携が取りやすい。 ✓ 地元長崎県内への就職実績が高い。 ✓ 異文化交流パーティーや英語で料理教室など、外国人の多い佐世保ならではの本学オリジナルの取り組みができる。

D. 本年度の事業計画

1) サマリー

計画全体の概要
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 文部科学省は、令和 22(2040)年の大学入学者数は 51 万人で、令和 2(2020)年から 10 万人減ると試算した。私立の短期大学の環境は、令和 6(2024)年の充足率は 92%で定員割れしている。令和 7(2025)年度より学生募集停止を発表した短期大学は全国で 23 校、ここ 6~7 年で 83 校の短期大学が学生募集停止を決定しており、今後も増えていくことが予測される。本学において、少子化時代における厳しい現状の中で、地域に選ばれた短期大学として存続し地域貢献に資するために、第 3 次中期計画に向け少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える戦略的経営改革と複数大学等の連携による機能共同化・高度化による経営改革の準備に取り掛かっている。

2) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組

基本方針	学校全体の取組概要
1 成長力の確保	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員確保のために、効果の高い募集活動に特化、九州文化学園高等学校との入

	(現状維持ではなく成長に向けた原動力の確保策)	学前から的高大連携事業展開、留学生の募集戦略を強化する。
2	教育力の向上 (教育の質向上と、組織・教職員個々の能力向上策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ FD を組織的・計画的に実施し教育の質向上と教育組織の能力向上を図る。 ✓ 授業アンケートの分析、ティーチングポートフォリオの作成および教員評価(職務報告書の作成と上長との面談)により、教員個々の能力向上を図る。
3	約定返済の確実な履行 (増収と経費効率化による健全な財務基盤の構築策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 収容定員の見直しを図ると同時に、ニーズに沿った教育内容の見直しを図り、定員充足率の向上を目指す。(メニュー1、2 要件) ✓ 近隣短大との事務機能の共同化、物品の共同調達、施設・設備の共同利用、学生募集・学生支援の共同化、システムの共同運用、FD・SD の共同実施などを通して、教育の質向上と経営の効率化を実現する。(メニュー2 要件)

3) 経営改善(健全化)に関する施策

区分	施策の概要
1 収入の増加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 入学者の増強、入学検定料の増額に努める。 ✓ メニュー1、2 で設定した、令和 8(2026)年度スタート予定である保育学科の3コース制および国際コミュニケーションコースに新設予定の多文化クラス(仮称)の広報強化を行い、志願者増を図る。 ✓ 入学定員充足率 100%を目標に、高校 1・2 年生を中心とした中長期的な募集戦略に取り組む。
2 支出の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 連携校間で人的リソースの活用を実現し、人件費のコスト削減を図る。(メニュー2 要件) ✓ 連携校間で共同調達できる物品等を検討して、コスト削減を図る。(メニュー2 要件) ✓ 円安トレンドや他大学を調査した上で、留学生の奨学金費率の見直しを検討する。
3 人員・業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ パーチェンニングカードの導入により、立替払い精算を簡素化する。 ✓ 学生支援・学生募集等を連携校間で共同化し、業務効率を図る。
4 付加価値向上と広報強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生募集に資する保育学科 3 コース設置に対応したカリキュラムを検討する。(メニュー1 要件) ✓ プレスリリースによる認知度向上によりブランド力の向上を図る。 ✓ 各学科・コースの特性を活かし地域活動(ボランティア活動含む)を推進する。
5 第3期中期計画の策定に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える戦略的経営改革「地域との共創による保育人材育成」(メニュー1)と「Higher Education For All」短期大学の教育機能の共同化・高度化を通じた経営改革事業(メニュー2)を、計画に沿って推進する。

4) 学部・学科・課程・コース・専攻科、研究科・専攻、学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針
地域共生学科	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域共生学科がスタートして 5 年が経過した。設置の際に掲げた「日本人と留学生、そして地域住民との交流を通して真の意味で多様な背景をもった人と共生できるグローバル(グローバル+ローカル)人材を育成していく」という理念に今一度立ち戻り、それぞれのコースで新たな試みに着手する。その中心は、国際コミュニケーションコースが次年度から受け入れを始める「多文化クラス(仮称)」となるが、学科内だけでなく他の短期大学と連携し、さらなる成長力の確保と、教育力の向上につなげる。
地域共生学科 食物栄養コース	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 栄養士実力認定試験に対し、学生が意欲的に取り組むための支援を行う。 ✓ 地域に貢献できる、即戦力となる栄養士を養成することを目標とし、地域活動等を通じた栄養士としての技能獲得を目指す。 ✓ 就職希望者の内、栄養士としての就職率 80%以上を目指す。 ✓ ステークホルダーの卒業生への支援事業として、管理栄養士国家試験対策やホームカミングを利用した栄養士業務に関する最新情報の提供等を行う。 ✓ グローバルな視点を獲得することを目的として、本学留学生や地域在住の外国人との異文化交流事業を継続する。 ✓ 連携協定に基づく活動だけでなく、その他の企業・団体とも活動を実施する。 ✓ コースの公式 LINE アカウントを用いた保護者への定期的な情報提供を継続する。 ✓ 中高生を対象とした地域活動、広報活動の強化を検討する。 ✓ 社会人学生の受け入れを促進するための具体的検討を行う(長期履修制度等)。
地域共生学科 製菓コース	<ul style="list-style-type: none"> ✓ インターンシップの充実を図り、学生の職業意識と社会人基礎力の向上を目指す。 ✓ 配慮を要する学生(含留学生)に寄り添う教育支援を行う。

地域共生学科 介護福祉コース	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 卒業生の交流の場として同窓会を開催し、交流を深める機会を設ける。 ✓ 国家試験対策講座や個別指導を充実させ国家試験合格率 100%を目指す。 ✓ 配慮が必要な日本人学生および留学生に寄り添った支援を行う。 ✓ 施設や卒業生・地域との連携を図り、充実した講座や研修会を開催し認知度の向上を図る。
地域共生学科 国際コミュニケーションコース	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和 6(2024)年度経営改革支援「メニュー2」の採択に伴い、配慮を必要とする多様な学生に対する柔軟な教育支援を行い、今後の指導のためのノウハウを蓄積する。 ✓ メニュー2 に関連して、メンバー短大との地域活動に関わる様々なステークホルダーとの関係性を深める。 ✓ 学修効果を高めるため習熟度別学修のさらなる深化を図る。 ✓ ティームティーチングを通して、より効果的な教育指導のあり方を探り実践し、教員の教育力を高める。
保育学科	<ul style="list-style-type: none"> ✓ キラリプロジェクトを推進し、教学改革を行う。 ✓ 学生支援に関する諸課題に対応するため、支援体制を見直し強化する。 ✓ 令和 8(2026)年度からの 3 コース制に向けた広報活動を促進し、定員確保につなげる。 ✓ 専攻科への進学を促進し、内部進学者を増やす。
専攻科保育専攻	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 幼稚園教諭一種免許状取得率 100%および学位(教育学)取得 100%を継続する。 ✓ 保育研究を通して教員の研究力と学生支援力を高める。 ✓ 県内就職率を向上させるため、就職合同面談会を積極的に活用するとともに、インターンシップ先との連携を強化する。 ✓ 修了生と在學生との交流を通じたキャリア支援を行う。 ✓ Instagram 等 SNS での情報発信を増やし、フォロワー数を増やすことで専攻科のブランディングを行う。 ✓ 定員確保に向けて、専攻科生を活用したガイダンスの実施と進学希望者へ向けた個別の情報提供の促進、潜在保育者を含む社会人入学者へ向けた情報発信を関係団体と連携して行う。

5) 教育活動

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
✓ 地域社会の発展に寄与する社会人を育成する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の精神を具現化する基幹科目である茶道文化教育の充実を図る。 ✓ 大学改革 IR 委員会を中心として、エビデンスデータに基づく教育成果の可視化に取り組む。 ✓ 在學生、卒業生、就職先ヒアリング調査を実施し教学改革に資するデータを取得する。 ✓ 高校生にアピールできる科目や在學生の満足度を向上させる特別講座等の開設を検討する。 ✓ 授業外学修を定着させる方策(反転授業など)の導入を検討する。 ✓ Google for Education の活用を促進し、学修システムの充実を図る。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 茶道文化教育	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 茶道大会はもとより、オープンキャンパスや学園祭などの諸行事、学校見学・進路体験会などの中で「茶道」を披露し、日本の伝統文化の継承に努めると共に、より身近で気軽に楽しめる「お茶の文化」の一般化を目指した茶道教育の在り方を模索していく。 ✓ 子どもから大人までいろいろな人が気軽に楽しく体験できるフェスティバル的要素を取り入れた「New Sadou」スタイルを模索する。 ✓ 本学の茶道教育の特徴は、縦軸にチーム性を担保する教職協働体制を、横軸に教職員と学生が「道」を極めるために切磋琢磨する場をおき、相互に社会人としての汎用能力を高め合っているところにある。この体制を維持しつつ、茶道教育に教員の指導力をさらに注入し、茶道教育の深化を図る。
(2) 教育成果の可視化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ディプロマ・サプリメントを年度末に全学生分作成・配布し、教育成果の可視化を図っている。科目ごとのディプロマ・ポリシー配分の見直しを毎年行う等、常に改善を心がけている。さらに充実を図るため記載内容を検討する等、就職活動にも活用できるようなシステム構築を目指す。
(3) ステークホルダー調査	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在學生、卒業生、就職先へヒアリング調査を行い、3 ポリシーの改善に繋げている。さらに多面的な意見を得るため他のステークホルダー(特に高等学校)への調査を検討する。
(4) 教育課程の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ✓ それぞれの養成課程に学生募集に資する新しい資格を提供する教育課程の見直しを検討する。

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在学生の満足度を向上させる施策として、ボトムアップ・トップアップカリキュラムを検討する。
(5) 学修習慣	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 図書館のラーニング・コモンズ機能を充実させ、授業での利用促進および学修環境の向上を目指す。 ✓ スタディスキル(ノートの取り方、テキストの読み方(批判的読解)、レポートの書き方、文献や資料の検索方法、要約の仕方など)が不足する学生に対する学修支援をクラスアドバイザーや学生支援課のスタッフが協働で取り組む。
(6) 学修システム	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Google for Education を利用し始めて 3 年が経過し、教職員の活用技術は定着してきている。より一層の利活用を目指した研修会等を実施し、パソコン等を使う授業数を増やす(教員の働き方改革に繋がる(DX))。

6) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

計画の概要	
<p><教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和 6(2024)年度に採択された、『私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」』の 2 つの事業(メニュー1 およびメニュー2)が令和 8(2026)年度に本格的にスタートする。新たな取り組みがスムーズにスタートできるよう計画的に準備を行う。 <p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ メニュー1 では、地域に必要な保育人材の確保と定着のために、「保育人材共創委員会」を設置し、本学と地域ステークホルダーとの緊密な連携・協働体制の下で、長崎短期大学保育学科の教育力向上を目指す。地域の保育ニーズを踏まえた教育改革と、地元就職支援を行うとともに、この連携モデルを他学科にも展開し、本学全体の教育力を強化し、持続可能な地域づくりに貢献するための基盤構築を目指す。 メニュー2 では、西九州大学短期大学部、長崎女子短期大学と連携し、「九州短期大学共創プラットフォーム」(連携プラットフォーム)において「カレッジパートナーシッププログラム(共有科目群)」を導入し、魅力ある科目群を創設して、「インターカレッジ・カリキュラム(履修モデル)」を確立する。受け皿の中心となる、地域共生学科国際コミュニケーションコースに「多文化クラス(仮称・定員 10 人)」を新設し、一定の能力がありながら対面での授業に困難を抱える学生を受け入れ、単独ではできない魅力的なプログラムを展開する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 地域との共創による保育人材育成〜キラリと光る保育学科教育力開発プロジェクト〜(メニュー1)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保育人材共創委員会において、ステークホルダーとの関係づくりを促進しつつ、学位プログラム・カリキュラムの見直しを行う。 ✓ 令和 8(2026)年度からの定員変更、3 コース制設置での保育者養成について関係各所に周知し、募集活動につなげる。
(2) 「Higher Education for all」短期大学の教育機能の共同化・高度化の取組み〜短期大学の経営改革のための複数短期大学等による連携事業」(メニュー2)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 連携した教育の提供 「カレッジパートナーシッププログラム(共有科目群)」の設計に着手すべく、連携開設科目の抽出、履修モデルの設計、シラバス共有化に向けた統一化作業を行う。 ✓ 地域連携を推進すべく、地域企業や自治体との必要な連携協定の締結、連携大学との接続に関する覚書等の締結を進める。
(3) 急激な少子化時代を乗り越えるための経営改革(メニュー1 およびメニュー2)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会的ニーズと趨勢から総合的に判断し、既存の学科等の再編および入学定員数の適正化に着手する。次年度より、保育学科定員 100 人を 80 人、地域共生学科定員を 135 人から 125 人に定員を減らす。

7) 研究活動

計画の概要	
<p><研究活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学長のリーダーシップの下、組織的な研究を行い、研究力を高める。 ✓ 本学のブランドイメージを確立する。 ✓ 学外と連携を図り、共同研究・受託研究を実施する。 ✓ 地域の課題解決に向けた研究を行い、研究成果を地域に還元し、地域の発展に寄与する。 <p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 本学の強みや特色を伸ばす戦略的経営の展開に向け、学長を中心とした全学的な学内体制において、研究を組織的に推進していくために作成した「長崎短期大学 研究体制の整備に関する計画」に基づき、個人研究および共同研究・受託研究を推進する。 ✓ 中堅・中核人材養成を担う「地方に必要な高等教育機関」として、本学のブランドイメージの確立を目指す。 ✓ 学外と連携を図り、優れた研究成果を生み出し、社会貢献に資することを目的とした共同研究・受託研究を実施する。 ✓ 「長崎短期大学研究シーズリーフレット(研究者一覧)」を活用し、本学が持つ独自の研究分野や強みを地域に広 	

く、効果的にアピールし、地域の課題解決に繋がる研究支援を実施する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 学長裁量の傾斜配分による共同研究の促進(特に学科・分野を超えた研究)	✓ 学長のリーダーシップのもと、中期計画・事業計画等の達成および本学が担う役割の実現のために、学内公募により優れた研究課題を選定し、経費配分を行う。
(2) 学長裁量の傾斜配分による研究論文の翻訳経費支援	✓ 研究者個人の研究活動・学会発表等の支援のため、研究論文の翻訳経費の助成を行う。
(3) 科研費獲得研修会の実施	✓ 産学連携コーディネーターや長崎国際大学と連携し、科研費の概要や申請書の書き方等の研修会を実施し、申請や採択に繋げる。
(4) FD・SD 研修会の実施	✓ 産学連携コーディネーターを中心に、年1回「研究倫理研修」、「コンプライアンス研修」「安全保障貿易管理研修」を計画・実施する。教職員に受講を義務づけ、確認テストを行い、理解を深める。
(5) 外部との共同研究・受託研究の推進	✓ 西九州大学短期大学部、長崎女子短期大学の連携校と共同研究を実施する。また、自治体(波佐見町・東彼杵町・小値賀町)、企業、団体(佐世保市社会福祉協議会)と連携し、交流・教育・研究の促進および社会貢献に資する活動を実施する。
(6) QSP子ども育成WG共同研究	✓ 新たな研究テーマを設定し、また新たな共同研究者を募り、研究の目的、内容、手段、まとめ方について検討し、研究計画に沿って実行する。
(7) 「長崎短期大学研究シーズリーフレット(研究者一覧)」を活用した研究支援の実施	✓ 「長崎短期大学研究シーズリーフレット(研究者一覧)」をステークホルダーへ配布し、地域の課題解決に繋がる研究支援を実施する。(目標：年6件)

8) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 奨学費 1,000 万円を圧縮する。 ✓ 学生満足度を向上させ、離学率の低下を図る。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和 8(2026)年度入学者のための令和 7(2025)年度の学生募集活動において、奨学費の圧縮を目的として、留学生数を抑えつつ、邦人入学者を増やし定員充足を目指す。 ✓ 学修に関する支援により成績優秀者の満足度向上を目指す。 ✓ 学生生活に関する支援により離学率の低下を目指す。 ✓ 進路に関する支援により就職・進学希望者の決定率 100%を達成する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 奨学費の圧縮	✓ 入学者選抜での奨学制度採用の条件変更を検討しつつ、邦人入学者を増やすために、中長期的に学生募集活動を実施していく。留学生においては、邦人学生との数のバランスを見つつ、入学者を抑え奨学費を圧縮していく。
(2) 学修支援	✓ オフィスアワーの設定、シラバスの充実、履修指導の徹底、成績不振学生への対応、クラスアドバイザー制度等を通して、更なる深化を図る。また、成績優秀者の満足度が低い傾向にあるため、満足度向上を企図した科目等を増やす。
(3) 学生生活支援	✓ 配慮を必要とする学生と教員、実習先、学外機関等との連携をさらに推進する。また、クラブ活動を含む学友会活動の活性化を図り、仲間づくり・居場所づくりのきっかけを学生に保障するとともに、指定寮の利便性向上に取り組む。
(4) 進路支援	✓ 就職希望、進学希望等学生の要望に沿った支援を行うとともに、1年次からキャリアデザインが明確になるような指導を行う。留学生が就職する場合は、ビザの切り替え等の支援が必要となるが、この業務に精通している教職員が少ないため SD 研修等を実施する。
(5) 就職活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 就職活動支援、キャリア支援の個別相談を充実させるとともに、就職講座の内容を精査して学生の多様なニーズに対応する。 ✓ 高い就職率を維持するため、企業等との連携強化を進めて、就職の質の向上を目指す。

9) 国際交流・留学生支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 多様な価値観を理解・享受し、文化の共存・共生に貢献できる人材を育成する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 令和 4(2022)年度に開設した中国・韓国留学サポートセンターを中心として、学科・コースを限定せず海外留学	

<p>(短期研修)を促進する。また、オーストラリア等における有給インターンシップをメインとした語学留学も継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 交換留学に関する情報を発信し、派遣学生数の増加を目指す。 ✓ 留学生の受け入れについては、留学希望者が増加したミャンマー・スリランカへの募集広報活動に重点を置き、入学前教育を継続する。全学生の 25%を占める留学生支援の課題は学生数と多国籍化であるため、教職員の情報共有と切れ目のない支援体制を構築する。 ✓ 海外の大学生や高校生とオンラインを活用した交流事業を継続し、新たな交流先の開拓を行う。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 海外派遣	✓ 交換留学生として提携大学へ派遣を行う。
(2) 外国人留学生受け入れ	✓ 前年並みの外国人留学生を確保する。
(3) 地域社会への貢献	✓ 新しい交流先の開拓と異文化交流パーティーを実施する。

10) 学生募集・広報活動

計画の概要	
<p><募集・広報の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 本科入学定員 205 人を確保する。 ✓ 学園全体でのブランド力を向上させる。 	
<p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 長崎県内を最重点地区とする。 ✓ 令和 8(2026)年度より開設予定の保育学科 3 コースおよび国際コミュニケーションコース多文化クラス(仮称)の告知および周知を徹底し、定員を充足する。 ✓ WEB・紙媒体さらには対面から高校生を中心にアプローチするとともに、新規リストの獲得を目指す。また、戦略的な広報や入試制度改革を通じて、既卒者を含めた志願者・入学者数を増強する。 ✓ 志願者数を増やすことを目的とした中長期的な手段として、学園全体でマスメディアへの露出をするなど、長崎県内における本学の認知度を向上させる。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 入学者の確保	✓ 各学科・コースの特性に応じた募集人員を設定し、各選抜試験において入学者 205 人を確保する。
(2) 新規リストの獲得と志願者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 最重点地区を長崎県とし、長崎県以外のエリアについては、長崎国際大学との共同募集活動を展開し、九州・沖縄の受験対象者に限らず、幅広く高校 1・2 年生にも注視したアプローチを実施する。 ✓ 内在する要素を洗い出し、各種媒体を通じて情報発信を行い、他学との差別化を図る。 ✓ 令和 8(2026)年度より開設する保育学科 3 コースおよび国際コミュニケーションコース多文化クラス(仮称)の募集活動を通じて、県外進学や専門学校の進学希望者層を志願に結び付ける。 ✓ オープンキャンパスについて、5 月に新規開催し、新規の志願者獲得を試みる。また、年間 5 回のオープンキャンパスで 260 人の受験対象者を募集する。
(3) 新入試制度の計画・実施	✓ 高校生を含め既卒者募集を意識した早期選抜の改革を行うとともに、アドミッション・ポリシーに則した入学者選抜を計画し、実施する。
(4) 中長期的な募集広報戦略	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 志願の幅を広げるため、高校低学年からの段階的な広報を行う。 ✓ 年間 50 本のプレスリリースを目標とし、本学の取組み、地域イベント情報を学外へ発信し、本学の認知力を高める。 ✓ 学園全体のブランド力向上が本学の認知力向上に繋がるため、短大単体だけではない法人全体の広報の在り方を検討する。

11) 教職員の人材開発(FD・SD)

計画の概要	
<p><人材開発の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ロイヤリティを醸成する。 ✓ 教育力、学習支援力、学生支援力を向上する。 ✓ 管理職・監督職のマネジメント力向上および一般職の能力向上に資する機会を創出する。 ✓ 教育力、学習支援力、学生支援力の向上を目指す。 	
<p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全教職員を対象とした FD・SD の開催、学園 80 周年事業に伴う新たな茶道大会の実施、新入教職員については個別研修会を実施する。 ✓ 複数大学等連携による合理的、効率的な教育力、学生支援力を強化する。 ✓ 職位に応じた機会を提供し、人事考課に反映するとともに各自の能力向上に繋げる。 ✓ 教育力・学習支援力および学生指導の向上に有益な研修等へ参加する。 	

✓ 学生等の生活等指導・支援力強化に資する研修等へ参加し、その向上を促進する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 始めの会・納めの会	✓ 全教職員を対象に理事長、法人本部長、学長による FD・SD を行い、建学の理念について理解を深める。
(2) 茶道大会	✓ 教職員と学生が一体となった本学独自の教育成果発表の場を活かし建学の理念の浸透とステークホルダーへの周知を図る。
(3) 人的資源の活性化	✓ 複数連携校における教職員の相互交流と専門性の向上、人的資源の最適配置の検討・調整、基幹教員制度やクロスアポイントメントの活用推進共同 FD・SD 研修等を図る。
(4) 人事面接、部門長会議、課内ミーティング等の活用等	✓ 業務目標管理シートをベースに上司・部下のコミュニケーションを図り人材開発・育成業務向上につなげる。
(5) FD・SD	✓ 年度初めの学長方針を示した FD・SD を受けて、本学における教育力・学習支援力の向上および学生支援力の強化につながる施策に落とし込む。

12) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

計画の概要	
<連携強化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 専門職業人材を輩出する本学が地域における「知」の拠点となり、卒業生や保護者、地域の方々のニーズに応え得る存在であり続けるために、本学教育のブランド力を高める。 ✓ ステークホルダーから信頼される短期高等教育機関として進化していく。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域住民・地元企業のニーズに沿った活動の取組に対し、協議を重ねながらより一層の連携強化を図る。 ✓ 若者の人材育成・地域への定着、潜在専門職人材に対するリカレント教育等、地域の課題解決のため、行政や地元企業との連携を強化する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 同窓会(卒業生)との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 卒業生との関係強化・職業人としてのニーズ調査・問題解決の場としてホームカミング事業を継続する。 ✓ 「学び直し」の機関として卒業生に対してスキルアップや試験対策等の講座や研修会を行う。
(2) 保護者との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保護者会を通じ保護者との信頼関係を構築する他、本学の教育に対する理解を得る。 ✓ 特に合理的配慮を要する学生、外部機関との連携が必要な学生、成績不振が続く学生に対し、早期に保護者と緊密な連絡を取り、連携を強固にする。
(3) 市町村との連携	✓ 椎木町・波佐見町・東彼杵町・小値賀町他、西九州させぼ広域都市圏と連携し、各学科・コースの専門性を活かした活動を通じて、地域の課題解決を行う。
(4) 協和商工株式会社(以下、「協和商工」)ならびに一般社団法人フードバンク協和(以下、「フードバンク協和」)との連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 協和商工と連携し、食に関する交流活動の推進を図る。また、受託研究や共同研究の拡充に努める。 ✓ フードバンク協和と連携し、SDGs の観点から、フードロスに取り組み、地域支援・社会貢献に携わる。
(5) 市民公開講座	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域住民のニーズに沿った講座内容の検討を行い、生涯教育の場として、本学の教育活動を地域・保護者・学生等へ広く周知していく。 ✓ 新規参加者の増加を目指すため、対象を絞った講座を開催していく。
(6) 九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 子ども育成支援をテーマに、連携校共催によりリレー講座を継続する。 ✓ 担当者変更のため、子ども育成 WG の新たな共同研究者を募り、新たなテーマを元に共同研究を継続する。
(7) 短期大学コンソーシアム九州	✓ 北部九州 7 校の短期大学が、共同して調査研究・研修会を行い、教育の質を高め、学修内容を深化させる。
(8) 西九州大学短期大学部との連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 包括連携に関する協力協定書に基づき、学生間交流、教職員の人事交流、共同研究等を実施し、相互の教育・研究を発展させ、地域社会の発展に寄与する。 ✓ また、事務機能の共同運営、FD・SD 研修会の共同実施、施設設備の共有化、物品の共同購入等の取組を実施することで、大学の機能の拡充や効果的・効率的な学校運営に繋げる。
(9) 西九州大学短期大学部・長崎女子短期大学との連携事業(メニュー2 事業)	✓ 3 校連携により、魅力ある科目群を創設して、「インターカレッジ・カリキュラム(履修モデル)」を確立する。受け皿の中心となる、地域共生学科国際コミュニケーションコースに「多文化クラス(仮称)定員 10 人」を新設し、一定の能力がありながらも対面での授業に困難を抱える学生を受け入れ、自学単独ではできない魅力的なプログラムを展開する。

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3校連携により、システムの共同利用、物品等の共同調達、事務機能の共同化、人的リソース等の協議を推し進め、業務改善・経営改善を図っていく。
--	--

1 3) 学園内の連携促進

計画の概要	
<連携の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長崎国際大学および九州文化学園高等学校との連携を強化する。 ✓ 九州文化学園高等学校や長崎国際大学との連絡協議会を継続し、福祉に興味関心が向くような講座や体験授業を実施する。 ✓ 内部進学促進による九州文化学園高等学校からの入学者 55 人を目指す。 ✓ 長崎国際大学との連携による県外募集の強化と更なる経費の圧縮に努める。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長崎国際大学との共同研究を継続する。 ✓ 九州文化学園高校野球部への健康管理、栄養管理サポートを継続する。 ✓ 九州文化学園高等学校との体験授業の内容充実を図る。 ✓ 内部進学促進を目的として、九州文化学園高等学校との情報交換や情報共有を行うとともに、早期からの進学への意識付けとして1・2年生を対象とした進学説明会や交流会などの進学イベントを計画し実施する。 ✓ 県外の学生募集対策として、長崎国際大学が参加する進学説明会に本学の看板を設置し、大学スタッフより両校の説明をしてもらうことで、経費の圧縮に努める。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 共同研究の実施	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科と協働し研究活動を推進する。 ✓ 九州文化学園高等学校と連携し、運動部への栄養・健康サポートの継続的な取り組みを行う。
(2) 九州文化学園小学校とのコラボ(製菓コース)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 12月にアイシングクッキーの制作を本学にて行う ✓ 「児童英語教授法」等の語学関連授業で九州文化学園小中学校との連携促進をする
(3) 九州文化学園高等学校への講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 食物調理科の「調理実習」、キャリアデザイン科の「フードデザイン」への講師派遣を行う。 ✓ 中国語・韓国語講師派遣をする。 ✓ HSK、HSKK、中国百科検定など、語学検定における九州文化学園高等学校学生の受験促進をする。 ✓ イベントへ、高校生の参加を促し、コース内容の理解を促進する。
(4) 学園内移動菓子販売(製菓コース)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ インターンシップ(学内研修)の一環として、長崎国際大学、九州文化学園歯科衛生士学院、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園小中学校にて菓子販売を行う
(5) 九州文化学園高等学校との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州文化学園高等学校の体験授業を充実させ、内部進学率の向上につなげる。 ✓ 内部進学 55 人の達成を目標値として定める。3年生の4月頃には進路がほぼ決定していることから、1・2年生に注力した進学イベントを計画し実施することで早期からの本学への意識付けを行う。
(6) 長崎国際大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長崎県以外の九州・沖縄県で開催される進学説明会に協働して参画する。 ✓ 長崎国際大学からの転入学の受入れおよび長崎国際大学への編入学を促進する。
(7) 専攻科インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園ならびに三川内保育園への専攻科生有給インターンシップ制度の意義的理解を深めて保育実践力支援の協力体制を高める。

1 4) SDGs の推進

計画の概要	
<SDGs 推進の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<p>① 事業者としてSDGsを推進する取組み～</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「資源を大切に」「ジェンダー」の4つの視点から事業者としてSDGsを推進する ✓ 省エネ・資源削減プロジェクトを展開し、キャンパス内でのエネルギー使用の見直しや資源の有効活用を図る。 ✓ ハラスメント対策委員会等と協働しキャンパス内の人権意識の向上を目指す。 <p>② 教育機関として</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ カリキュラムにSDGsを組み込んだ科目を拡充し、学生が実践的なSDGs活動を体験できる学外体験プログラムを実施する。 ✓ SDGsに関するFDを通じて、教職員に対しSDGsに関する知識や研究を深化させる。 <p>③ 社会の一員としてSDGsを推進する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 名切SDGs Festivalに参加し、長崎短期大学ブースの活動を通じて幼児から大人の意識向上を図る。 	

<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定期的な FD を通じて、SDGs に関する最新情報や成功事例を共有し、行動変容を促進する。 ✓ SDGs を中心とした継続的な社会貢献を行い、持続可能な未来への道を切り拓く。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①については、通常業務内での意識づけを行う。 ✓ ②および③については、下記項目の取組を通して SDGs に対する意識を涵養する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 名切 SDGs フェスティバルへの参加	✓ 長崎短期大学プースの企画立案、実施に全教職員および学生一丸となって取り組む。
(2) 創立記念式典	✓ 創立記念日である 12 月 15 日前後に行う創立記念式典の中で、学生・教職員が共に学ぶ喜びを再認識する。【目標 4 および 5】
(3) 茶道大会	✓ 茶道教育を通し資源や環境、道具の大切さ、四季、日本の歴史や文化について学修し、その成果発表をする。【目標 4,6,12 および 13】
(4) 一般社団法人フードバンク協和からの食品提供を活用した取組	✓ 各企業の過剰在庫、賞味期限切れの食材の提供を活用し、フードロスにつながらないように取り組みを企画する。【目標 1,3,10 および 11】(例)経済的に困窮している留学生への配布、提供食材を活用した食事イベントの開催等。
(5) 白蝶祭(学園祭)	✓ 校友会主催でテーマやプログラムを企画し、学生・教職員全体で取り組む。
(6) 専攻科保育専攻	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海きらら「こどもひろばあまもば」におけるお楽しみ会活動に参画する。【目標 4,6】 ✓ 佐世保市児童福祉週間事業「わんぱくひろば」ステージパフォーマンスに参画する。【目標 4】 ✓ 佐世保市保育会「親子であそぼ」ステージパフォーマンスに参画する。【目標 3,4】

1 5) 管理運営と業務・経費効率化

計画の概要	
<管理運営と効率化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経営面にバランスの取れた運営を目指す。 ✓ メニュー2 における近隣短大との連携を通じて、組織力の向上・共同化に努め、財務目標を達成する。 ✓ 長崎短期大学 ガバナンス・コードに基づき、法令順守、改正への適切な対応、実効性のある年次計画の策定と進捗管理、財務の安定化、組織力を高める人事政策を推進する。 ✓ 令和 8(2026)年度からスタートする第 3 期中期計画策定に向け、実効性・公共性・信頼性・透明性を担保した大学運営を企図する。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ メニュー1 およびメニュー2 の財務計画に基づいた収支のバランスが保てるよう、地域のステークホルダーあるいは近隣連携短大との連携を強固にし、教職員の人的リソースや業務の共同化等に着手していく。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 運営会議	✓ 本学では、学長を筆頭に各部門長が構成員となり運営上重要事項を審議する運営会議を月 1 回実施している。本会議の中で、中期計画・事業計画の浸透に関する意思の統一から増収策、業務・経費の効率化などを年次計画に沿って議論し方向性を示した上で予算書の確定を行う。
(2) 経費の適正支出	✓ 経費予算管理の徹底による経費の適正化に取り組む。
(3) 私立大学等経常費補助金	✓ 一般補助・特別補助の獲得。特に私立大学等改革総合支援事業のタイプ 3 において、地域との連携強化を図り、PF 型より地域連携型の獲得を目指し、取組を図る。
(4) 研究費外部資金	✓ 科研費、研究助成事業、受託事業の獲得を推進する。
(5) 人的リソース	✓ 近隣短大との連携による教職員の交流や専門性の活用、基幹教員制度とクロスアポイントメント等を活用した専門性の向上を協議検討し、人的コストの削減につなげる。
(6) システム・業務の共同化	✓ 近隣短大と共同のシステムを導入し、各校の事務管理における統一可能な共通項目を策定し、標準化を検討することで、専門人材の共有・事務作業の効率化を図る。
(7) 物品の共同調達	✓ 同一業者に発注・納品が依頼できる物品や教材等を増加させていくことで、経費削減を図る

1 6) 施設・設備・システム等の環境整備

計画の概要	
<環境整備の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生のより良い修学環境を整備する。 ✓ 経年劣化・老朽化による建物の改修・保全について数カ年での計画を検討する。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	

✓ 緊急性の高い項目から優先順位をつけ実施する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) Windows 10 問題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンピュータ教室のパソコンは Windows10 であり、機能的に Windows 11 へのアップデートができない。入れ替えが必要であるが予算的に厳しい状況にあるため、BYOD の推進、カリキュラムの見直し(該当科目の削除など)等を検討する。(Windows 10 のサポートは 10 月まで) ✓ Windows 11 への更新不可の PC を使用している教職員の PC の更新を行う。
(2) サーバー入れ替え	✓ 前回の導入から 7 年が経過し、入れ替えの時期を迎えている。予算的に厳しい状況にあるため入れ替えは難しいと思われるが、故障等への対応が必要になると予想される。
(3) Microsoft365	✓ 学生の PC 所持率向上を図るため、「Microsoft365 office Education」を導入する。
(4) 共通学習管理システム (LMS)	✓ メニュー2 連携校における共有科目群を履修する学生の、学習進捗を一元管理するシステムを導入し、授業資料の共有、課題提出、成績管理、学生情報の管理を共有化するとともに、共通したディプロマ・サプリメントを発行する。

17) 点検評価

計画の概要	
<点検評価の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 機関別評価で適合(適格)を得る。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 自己点検・評価委員会を中心として毎年度自己点検・評価報告書を作成しホームページで公開している。10 月の認証評価に向け評価書の作成、エビデンスの準備等を長崎国際大学および法人本部と連携しながら行う。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 自己点検・評価書	✓ 日本高等教育評価機構の認証評価を受審するため、令和 5(2023)年度の評価書から新基準により作成している。現在は、受審対象となる令和 6(2024)年度の評価書作成に着手し、適合を目指している。
(2) 教職課程自己点検・評価報告書	✓ 令和 4(2022)年度から義務化された教職課程の自己点検・評価を確実にを行い、教育の質を担保する。

18) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

計画の概要	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 本学建物の経年劣化・環境保全を数ヵ年計画で行う。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 外壁・通路の亀裂改修	✓ 経年劣化・老朽化による外壁や学内廊下の亀裂等を、環境保全および安全確保のため年次計画に沿って改修工事を行う。

IV. 九州文化学園高等学校

A. 中期計画に掲げた経営理念・経営目標

5か年の 設置校経営理念	建学の精神の下、人として大切な徳性と香り高き品格を身につける。
5か年の 設置校経営目標	経営理念に則り、知・情・意のバランスが取れた全人教育を行い、生徒の夢の実現に努める。

B. 中期計画に掲げた各戦略の目標達成に向けた本年度の事業方針

区分	目標達成に向けた本年度の事業方針
戦略Ⅰ	✓ 教科人数の精査、補充。
戦略Ⅱ	✓ 九州文化学園グループとして校種を越えた特色ある教育コースの設定
戦略Ⅲ	✓ 各学科や部活動が地域と連携し、地域活性の推進を図る。 ✓ 生徒・保護者満足度 80%以上を目指す。
戦略Ⅳ	✓ ICT 教育の充実(環境および教員の指導力) ✓ リモート授業が可能な教育環境を整えとともに、授業の研究、実践を行う。
戦略Ⅴ	✓ 広報誌の発行やホームページ・Instagram 等による発信で、本校の教育活動を周知し、定員 280 人の充足を目指す。
戦略Ⅵ	✓ 学年や学科・コース別に教科担当職員を加え、バランスの取れたチーム編成とする(報告・連絡・相談の徹底) ✓ 授業料の無償化への対応として、募集戦略(含む特待生)の見直しを検討する。 ✓ スクールバス運営、学生寮運営の改善を図る。
学園内の連携促進	✓ 食物調理科と九州文化学園調理師専門学校や長崎短期大学・長崎国際大学の食物関係学科との連携授業 ✓ 幼稚園・小中学校・高校・短大・大学との国際化教育(英語教育)の連携授業 ✓ 幼稚園・小中学校・高校・短大・大学・調専の一貫した授業や行事・事業、さらに生徒・教員の交流を図る。
付帯計画と課題	✓ 普通科新コースの 3 か年の教育活動および進路実績を検証し、教育の方向性やその方法等について検討する。 ✓ 九州文化学園グループとして一貫教育の可能性について考える。

C. 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有

	区分	内容
1	定量的な課題	✓ 収容定員の必達に向けた募集戦略の見直し ✓ 椎木寮、若竹寮の稼働率アップ ✓ スクールバス運営の見直し ✓ 教室数の確保と ICT 教育環境の構築
2	定性的な課題	✓ 中学生の数の減少および公立高校の入試改革 ✓ 教室数および ICT 環境を含めた各種設備等の不足 ✓ 普通科新コース指導に対する経験不足 ✓ 経費の適正運用 予算執行チェック表を用いた計画的経費の執行
3	経営・募集戦略上強みとなる魅力・特色	✓ 上位校(大学・短大・専門学校)を有している ✓ 部活動が活発である ✓ 専門的な資格および各種検定の取得に力を入れている。

D. 本年度の事業計画

1) サマリー

計画全体の概要	
✓	総合学園としての特長を生かし、知・情・意のバランスの取れた全人教育を基調とし、4 つの学科(6 つのコース)で専門的な知識・技術を身につけさせ、生徒の夢の実現に努める。新たな取り組みとなっている ICT 教育や普通科新コースについては、内部および外部との研修の機会を増やし、教員の資質向上および教育内容の充実に努め、生徒募集の大きな要素の一つへと成長させていく。さらに、部活動についてもこれまでの伝統を大切に、新しい分野の活動も積極的に後押しし、地域に根ざし地域を活性化できるよう、情報発信等を行っていく。
✓	収支については、常に収支バランスを見据えて予算の執行に徹し、経常収支差額の目標値を達成する。

2) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組

	基本方針	学校全体の取組概要
1	成長力の確保 (現状維持ではなく成長に)	✓ 各学科の教育内容のさらなる充実を図り、人間力豊かな生徒を育てる。 ✓ 普通科新コースについて教育内容の検討、進路指導の工夫を行い、他校との差

	向けた原動力の確保策)	別化を図る。
2	教育力の向上 (教育の質向上と、組織・教職員個々の能力向上策)	✓ グループ内での各分野における連携や、各種先進校の取り組みに触れるなど、教職員の研修の機会を増やし、その成果を生徒に還元する。また、プロジェクトチームでの分析・議論を深める。さらに、人材の確保についても早い時期から準備を進める。
3	約定返済の確実な履行 (増収と経費効率化による健全な財務基盤の構築策)	✓ スクールバス、寮費の見直しによる経費削減等に注力し、目標経常収支差額を達成するとともに、大型投資の抑制等により約定返済の確実な履行を行う。

3) 経営改善(健全化)に関する施策

	区分	施策の概要
1	収入の増加	✓ 定員確保に向けた募集戦略の見直しを行う。
2	支出の効率化	✓ 経費の徹底的な見直しを行い収支バランスを保つ。
3	人員・業務の効率化	✓ 業務の削減、効率化に注力し、勤務時間の削減を図り、人員不足を補完する。
4	付加価値向上と広報強化	✓ SNS を活用した情報発信を強化する。
5	第3期中期計画の策定に向けて	✓ 働き方改革の実施による教員確保対策の強化 ✓ 定員充足に向けた募集の強化

4) 学部・学科・課程・コース・専攻科、研究科・専攻、学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針
普通科 S アカデミーコース	✓ キャリア教育の充実を図るとともに、少人数制によるきめ細やかな指導、生徒一人ひとりの個性や能力に応じた進学指導を徹底して行う。
普通科 S グローバルコース	✓ グローバル人材の育成のため、英語運用能力および実践的コミュニケーション能力の向上を図る。
普通科総合進学コース	✓ 学業と部活動の両立を軸に、内部進学を主としながら、多様化する入試に対応した個別の指導を行う。
普通科キャリアデザインコース	✓ 各種検定・資格取得の徹底や人間の生き方を幅広く学ばせ、新しい時代に即応した実践力と社会性を養う。
食物調理科	✓ 調理・食生活の経営などに関する専門的な知識と技術を習得させ、食物に関する事に従事する能力を有する者を養成する。
保育福祉科保育コース	✓ 豊かな情操と感性を育てるとともに、保育に必要な専門的な知識と技術を習得させ、保育者を目指す者としての資質向上を図る。
保育福祉科福祉コース	✓ 福祉に携わる人間として必要な専門的な知識と技術を習得させ、福祉の基本的態度を培う。
衛生看護科	✓ 看護に関する知識と技術を習得させ、医療保健の機関等において、看護の仕事に従事する者を養成する。
衛生看護専攻科	✓ 豊かな知性と人間性を目指して、基礎的な看護の知識・技術を学び、将来、保健医療福祉のニーズに台頭することができる有能な看護師を育成する。

5) 教育活動

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
✓ 確かな学力、豊かな心、健やかな体を基盤とした生きる力を養成する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 学校行事や専門の授業および部活動を通して、高校生としての基盤を育み、思考力・判断力を養成する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 基本的な生活習慣とマナーの育成	✓ 挨拶の励行や、清掃の徹底に努める。 ✓ 日頃の言動や制服の着こなし等、生徒の行動をよく観察し、その様子や注意すべき事項について教員自らの言葉でホームルームや学年集会等で伝える。
(2) 長崎国際大学および長崎短期大学との連携推進	✓ 専門的内容や教科の特長をふまえた出前授業の実施 ✓ 内部進学を行う生徒、学生の情報共有による生徒指導・教育相談の充実
(3) 教育機会の充実	✓ 講演会や講話により、聴く・まとめる・書く力を身につけさせる。 ✓ 校内合唱祭・課題研究発表会等、本校の特色ある取り組みを通じて、視野を広げ、思考を深化させる。
(4) 人権教育・主権者教育の充実	✓ 講話やビデオ学習等を通じて、身近な人権の例および国や社会の問題に触れ、自ら考え判断する力を育成する。
(5) 部活動の充実	✓ 県上位の成績を収める複数の運動部のさらなる活性化と競技力向上。 ✓ 吹奏楽部、茶道部、弁論部等の文化部の活性化。

6) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 「該当なし」	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓	
項目名・取組名	具体的取組・目標

7) 研究活動

計画の概要	
<研究活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 「該当なし」	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓	
項目名・取組名	具体的取組・目標
	✓

8) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ すべての生徒が、満足できる学校活動を展開する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 安全で安心な学校環境の構築に努める。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) キャリアガイダンスの充実	✓ 進学ガイダンス、就職ガイダンス、卒業生講話の実施 ✓ インターンシップの実施
(2) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置	✓ 週に1日ないし2日のカウンセリングを実施し、生徒、保護者、教職員との連携を図る ✓ 状況に応じ、外部機関との連携を図る
(3) 特別支援教育、道徳教育の充実	✓ 支援を必要とする生徒を可能な範囲で受け入れ、チームを組織し個別に対応する。特別支援教育に関する職員研修を実施する。 ✓ 学科・コースおよび教科、校務分掌等、様々な立場における道徳教育の方針を打ち出し、その実現に努める
(4) いじめ・体罰防止の徹底	✓ 各学期にいじめ・悩み調査を実施する。 ✓ 体罰調査を年に1回実施する。 ✓ 結果を「いじめ・体罰防止委員会」で検証し、全職員で共有する。
(5) 課外活動補助	✓ 部活動等の課外活動に対し、学校より一部負担を行い活動への積極参加を促す
(6) 学生寮・スクールバスの充実	✓ 生徒ファーストに徹し、安全で安心な運営を行う(業者と最新の情報を共有する)

9) 国際交流・留学生支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 活動を通し視野を広めさせるとともに、地域および国際社会の一員という認識を深めさせる	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 海外からの受け入れや、留学プログラムの構築に尽力し、交流の機会を増やす	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 普通科 S グローバルコースを中心とした留学の斡旋	✓ 新しい留学プログラムを構築し、短期・長期の留学について支援する ✓ オンライン留学制度を検討・実施する
(2) 長崎国際大学・長崎短期大学の留学生との交流会	✓ 普通科の生徒を対象に、大学の留学生を招き「異文化理解教室」を実施する ✓ 英語の授業等の中で、貧困地域等、様々な問題を把握しプレゼンするプロジェクトに取り組み、留学生とチームになって調査、研究を行う
(3) 姉妹校および韓国の高校との交流	✓ 海外からの修学旅行団の訪問を受け入れ、交流会を実施する

10) 学生募集・広報活動

計画の概要	
<募集・広報の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 本校の魅力を的確に伝えるとともに、安定した定員充足を目指す	

＜計画の概要(項目・取組の要約)＞	
✓ 学校行事や各種媒体を上手く活用し、あらゆる角度から本校の特色をタイムリーに伝える	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) パンフレットおよびホームページの充実	✓ 各学科・コースの特色を分かりやすく伝えるとともに、学校行事や部活動の情報を定期的に発信する
(2) オープンスクール、入試相談会、入試説明会の充実	✓ 市内中学校、特に近隣の中学校への学校訪問の機会を増やすことにより、中学校の期待や要望などの情報を収集し、本校への教育活動ならびに生徒募集に生かす ✓ 総合学園の特色について本校上位校の教職員によるアピールを行い、中学生、保護者、進路指導教員の関心を本校へ向けさせる
(3) 中学校訪問の強化	✓ 訪問中学校を県内離島地区までエリア拡大し、本校と九州文化学園グループのPRを充実させる
(4) 幼少中高連携・高大連携の推進	✓ 九州文化学園中学校向けの学校説明会の実施 ✓ 実習および特別授業の実施 ✓ 学園祭等、学校行事の合同実施
(5) 特待制度の見直し	✓ 特待生に対する指導および進路保証を充実させ、在校時の待遇面も適正であるように見直しを図る ✓ 高等学校授業料無償化に伴い、実効ある特待制度の見直しを行う。
(6) 入学試験の検討・分析	✓ 公立高校の令和 7(2025)年度入学者試験の結果を踏まえ、本校入学者の早期確保のために入学試験のあり方を検討し実施する

1 1) 教職員の人材開発(FD・SD)

計画の概要	
＜人材開発の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)＞	
✓ 事業計画の充実、達成および教職員の資質向上を図る	
＜計画の概要(項目・取組の要約)＞	
✓ 研修および視察等の機会を増やし、外部からの情報収集に努める	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 校内・校外研修への参加および研修内容の還元	✓ 保健相談・特別支援教育に関する研修へ参加することで、配慮等が必要な生徒への対応力を高める。 ✓ 各校務分掌に応じた校外研修へ参加し、最新の情報に触れ、社会の動向を知る
(2) 他校への授業見学、研修・研究会への参加	✓ 異なった環境・視点からの教科指導および取り組みを知り、本校における諸活動に生かす
(3) 本学園の職員としての意識構築および確認	✓ 新年度および創立記念式前における、教職員に対する本学園の「草創期」および「建学の精神」の講話を行う ✓ 本校の「教育方針・教育目標」「教員の信条」等の確認を行う
(4) 長崎短期大学との合同研修会の実施	✓ ICT機器の活用や学生・生徒の支援に関する内容などについて、同じキャンパスの教職員同士、情報交換も交え研修会に参加する

1 2) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

計画の概要	
＜連携強化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)＞	
✓ 地域・保護者・卒業生との連携を図り、社会の一員として地域に根ざした教育を行う	
＜計画の概要(項目・取組の要約)＞	
✓ 本校の活動に触れていただける機会を増やし、積極的な関わりを行う	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 同窓会(卒業生)との連携強化	✓ 同窓会組織の見直し、活動の充実を図る
(2) 地域との合同協議会および交流会の充実	✓ 地域との連携会議に参加し、スポーツ大会等を通して交流を図る
(3) 地域清掃活動の実施	✓ 年間 2 回の地域清掃活動の実施
(4) 保護者との連携	✓ 保護者との連携を深めるために、面談の時間確保や学校行事への参加促進を行う

1 3) 学園内の連携促進

計画の概要	
＜連携の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)＞	
✓ 内部進学の有利性や教育の多様性等、学園内連携を強みとして、募集活動に活かす	
＜計画の概要(項目・取組の要約)＞	
✓ 学園内連携を強固なものにするために、内部進学にかかる委員会やグループ内の一貫教育についての検討委員会	

等に参加する	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 学園内募集担当者会議	✓ 各部門のオープンスクール(オープンキャンパス)および募集活動の状況を共有し、その後の取り組みに生かす
(2) 食物分野に関する連絡協議会	✓ 内部進学する生徒についての情報共有 ✓ 部門間でコラボレーションできる取り組みについてのアイデア出し
(3) 福祉分野に関する連絡協議会	✓ 内部進学する生徒についての情報共有
(4) 各部門の英語科職員の合同研究協議会	✓ グループ内一貫した英語教育に向けての検討会議 ✓ English Camp 等の縦断した取り組みについての打合せ
(5) SDGs に関する連絡協議会	✓ SDGs イベントに向けた準備と実施

1 4) SDGs の推進

計画の概要	
<SDGs 推進の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 本校の教育を持続可能な活動として捉え、その内容について広く認知してもらう	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ これまでの活動と SDGs の関連性を知り、これからの活動に SDGs を意識する	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 名切 SDGs フェスティバル	✓ 「アップサイクルを楽しもう」 家庭で不要となったものや未使用のもの等を販売する ✓ 「子どもバスケットボール体験」
(2) 地域清掃活動の実施	✓ 年間 2 回の地域清掃活動を実施する
(3) 食材の有効活用	✓ 食物調理科における実習時の食材の有効活用およびフードロスの削減
(4) 教育内容および環境の充実	✓ 専門的内容に関する教育の充実と、安心、安全な教育環境および実習環境の提供
(5) 健康的な活動の奨励	✓ 健康診断の充実 ✓ 保健部からの情報発信による健康維持に向けた意識醸成
(6) ジェンダー平等の実現	✓ 混合名簿の使用 ✓ 各種行事における生徒活躍の場の機会均等
(7) 働きがいのある労働環境の促進	✓ それぞれの能力に合わせた人員の配置 ✓ 話し合いや相談が行いやすい組織および人間関係の構築

1 5) 管理運営と業務・経費効率化

計画の概要	
<管理運営と効率化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 学納金、補助金等の増収策の構築	
✓ 計画的、効率的な経費執行による支出管理と健全な財務基盤の構築	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 安定した収入の確保と計画的な支出管理を徹底する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 推薦入学者の確保	✓ 就学支援金の改定に伴う募集戦略の再構築
(2) 時間外手当	✓ 時間外手当削減に向けた業務の見直し
(3) スクールバス	✓ スクールバス運行体制の見直し
(4) 学生寮	✓ 集約を含めた抜本的な見直し

1 6) 施設・設備・システム等の環境整備

計画の概要	
<環境整備の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 空調設備の老朽化に伴う対応	
✓ トイレの洋式化に向けた検討	
✓ 寮の設備更新に向けた対応	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 予算の進捗状況を確認の上、都度対応を実施する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 空調の修理・更新	✓ 夏場の猛暑対応
(2) トイレの改修	✓ 洋式化へ向けた検討を実施する
(3) 寮の設備更新	✓ 各部屋の設備が老朽化しており更新を検討する
(4) 寮へ Wi-Fi 設備の導入	✓ Wi-Fi 設備の導入を検討する

17) 点検評価

計画の概要	
<点検評価の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 定期的な振り返りにより、教育の質を上げる	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 学校評価を行い、様々な取組み内容についての振り返りを行う	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 学校評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教職員による学校評価を行い、反省点や課題の洗い出し、次年度に向けた目標設定の材料とする ✓ 結果をホームページで公開するとともに、育蝶会総会にて保護者に報告・説明する。

18) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

計画の概要	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 「該当なし」	
項目名・取組名	具体的取組・目標
	✓

V. 九州文化学園中学校

A. 中期計画に掲げた経営理念・経営目標

5 年間の 設置校経営理念	変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する
5 年間の 設置校経営目標	英語、IT、茶道文化を 3 本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する

B. 中期計画に掲げた各戦略の目標達成に向けた本年度の事業方針

区分	目標達成に向けた本年度の事業方針
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語力および IT 活用力を備えた教員の育成 ✓ 年間を通じて研修を実施し、教員一人一人の指導力の向上を図る。 ✓ 建学の精神に基づいた生え抜きの教員の育成 ✓ 学校法人 80 周年を迎えるに当たり、教職員は今一度建学の精神・理念への理解を深める。
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 小中一貫校として、9 年間を見通した本校独自の魅力ある教育課程の構築を図る。 ✓ 児童生徒の知見を広げるよう、地域や企業など多岐にわたる分野と連携し、充実したキャリア教育プログラムを構築する。
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の関係機関および団体との連携を強化する。 ✓ 保護者との連絡を密にする。 ✓ 選択制の海外語学研修・協定校等への留学を予定しており、グローバル化を加速させる。
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ フルクラウド統合型校務支援システム「BLEND」を活用し、本校の運用に沿ったシステムを構築することで業務効率化を図る。 ✓ 新入生の児童生徒の ICT 端末において、MAM を導入することで管理性向上や効率化を図るとともにセキュリティ対策を図る。
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ SNS を活用し、リアルタイムに本校の情報や魅力を発信する。 ✓ 企業や団体とコラボレーションした取組を増やし、学校の存在を周知する。 ✓ 適正な入学定員・収容定員の検討
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員充足へ向けた全職員一丸となった募集活動を展開する。 ✓ 補助金等の外部資金の積極的な活用 ✓ 職員の年齢構成を考慮した人事・採用活動
学園内の 連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長崎国際大学、長崎短期大学、九州文化学園高等学校、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園歯科衛生士学院と授業やキャリア教育で連携し、専門的な学びの機会を創出する。 ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園と季節に合わせた英語レッスン等の合同授業で連携し、学校の魅力発信と内部進学につなげる。
付帯計画 と課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 総合学園の強みを活かして小中高の連携を推進し、12 ヶ年教育の在り方を検討する。

C. 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有

区分	内容
1 定量的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 佐世保市における少子高齢化や若者の流出による人口減少に加え、物価高騰による家計への経済的負担増 ✓ 国や自治体による保護者への通学支援が高等学校と比べ少ない。 ✓ 定員充足に向けた教室の不足と施設設備の維持管理 ✓ 経常収支差額比率の適正化
2 定性的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本校の教育の 3 本柱はもとより、県立中学にも勝るとも劣らない学力の向上 ✓ 公立学校との差別化 ✓ 児童数の減少による今後の有効的な募集戦略 ✓ 教員の計画的な採用
3 経営・募集戦略上 強みとなる魅力・特色	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県北唯一の共学私立中学校 ✓ 小学校と中学校との連続した 9 年間の教育課程 ✓ 発達段階に応じた英語教育と公立を上回る英語の授業時数 ✓ 情報活用力を育む IT 教育 ✓ 総合学園ならではの専門性に富んだ学びの機会の提供

D. 本年度の事業計画

1) サマリー

計画全体の概要
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 入試制度改革 2 年目として、県立中学入試に準拠した「適性検査」の実施により、昨年以上の受検者数の獲得を目指す。生徒募集は最重要課題であり、本校教育内容をいかに効果的に広報するかを検証し、本校教育活動への理解者・賛同者を増やし、入学者数につなげることに注力する。

- ✓ 教育の3本柱はもとより、その他の教科でも生徒の基礎学力をあげるべくその課題を見極め、適正な計画の下、指導にあたる。英語検定・数学検定・漢字検定の受験者数・合格者数の増加も目指す。
- ✓ 総合学園の強みを生かし、本年度も多様な学びの機会を創出する。さまざまな本学園の部門と協働することで、内部進学へとつなげたい。加えて、企業や地域との連携事業にも積極的であり、広がりのある学びの機会を創出する。
- ✓ 定員充足に向け、あらゆる手段で本校の魅力発信に努め、収容人数の増、経常収支黒字化を目指す。経常収支黒字化を目指す。

2) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組

	基本方針	学校全体の取組概要
1	成長力の確保 (現状維持ではなく成長に向けた原動力の確保策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 9年間を見通した本校独自の魅力ある教育課程を構築するとともに、小中高12ヶ年教育のあり方を検討し、総合学園としての魅力向上を図る。特に九州文化学園高等学校とこれまでの連携について振り返り、今後の課題に取り組んでいく。
2	教育力の向上 (教育の質向上と、組織・教職員個々の能力向上策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 研究主任を中心に年間を通じた研修を実施し、個々・チームでの教育力向上を図る。 ✓ 特色を生かしたカリキュラムを創出する。(英語・ITを活用)
3	約定返済の確実な履行 (増収と経費効率化による健全な財務基盤の構築策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員充足により財務規律を改善する。 ✓ 各種取引業者の見直しと必要の是非を検討する。

3) 経営改善(健全化)に関する施策

	区分	施策の概要
1	収入の増加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 収容人数率をあげることで収入増を目指す。 ✓ 補助金の積極的な活用 ✓ 人工芝のグラウンドや体育館の貸出し
2	支出の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 計画的な予算の執行 ✓ 必要品の内容(価格、性能等)の見直し ✓ 物価高騰による支出増を抑制するため、給食やスクールバスにかかる食材業者や燃料業者を適宜見直す。
3	人員・業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新卒者(若年代)を採用し、職員の年齢構成のバランスを整える。 ✓ 適材適所な校務分掌とし、縦と横の連携や協力体制を構築する。 ✓ DX化の加速のための研修の実施
4	付加価値向上と広報強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多様な教育ニーズに合わせたプログラムの情報発信 ✓ 地域住民も対象にしたイベントの実施
5	第3期中期計画の策定に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員未充足率を改善し、学納金収入・補助金増額を目指す。 ✓ 小中一貫校の独自のカリキュラムを進化させ、他校との差別化を図り、教育成果をあげ、ステークホルダーからの信頼を得ることで、受験者数増に繋げる。

4) 学部・学科・課程・コース・専攻科、研究科・専攻、学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針
学校目標	✓ 得意を伸ばす、志を高く学ぶ、人のために行動する。
学年目標(全学年共通)	✓ 自治力の向上、多様な文化の容認、自己効力感、社会・他者への貢献

5) 教育活動

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「建学の精神」の具現化を図る。 ✓ 自立のための、自律した生活・学習を創造する生徒の育成 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 主体的な学びによって確かな学力を獲得する生徒の育成 ✓ 主体的かつ自律した生活を創造する生徒の育成 ✓ 自治的な課題解決の力を有する集団の育成 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 教育課程の確実な推進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 45分×7時間授業による学習内容の充実を、指導者・生徒ともに実感することができる授業改善 ✓ カリキュラムマネジメントによる、教科や校種の横断や連携の深化
(2) キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 小中一貫の強みを生かした連続性あるキャリア学習の推進 ✓ 多様な人材、機会を活用した体験的学習の実施
(3) 全部門とのICT技術共有	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学園内の各部門とのICT会議の実施やICT技術の共有

(4) 生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 一人一役の徹底と生徒相互による活動評価の徹底 ✓ SDGs17 の目標に関連した各委員会での目標設定と取組
--------------	--

6) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 経営状況、ハード面(教室数)、学習効果など様々な視点から適正な収容定員について協議を始める。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 定員検討会議	✓ 適正な入学定員・収容定員の検討会議をもち、適宜法人本部と協議する。

7) 研究活動

計画の概要	
<研究活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 情報活用能力の育成と向上を柱にした、「令和の日本型教育」の構築(小中 9 年間の学びの連続性、その先にあるゴールの姿(さらなる接続の姿)を全職員が明確にもって教育活動にあたり、児童生徒の共通学力課題の改善を図ることを通して「令和の日本型教育」の構築を目指す。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ RV-PDCA の視点に基づいた校内研修計画を立てる。年度当初に「研究テーマ・研修内容・研修日」を確認し(令和 7(2025)年度研修については、前年度内に提案、決定済み)、全職員の共通理解の上、研究を推進する。研修全体は、「教育課程研修」とする。その中において、教育の伝統的手法と ICT を活用した今日の手法のベストミックスを図る視点をもった研修も設定する。また、県・九州の教科研究大会において実践発表を予定している教科の実践についても共有し、研究テーマの達成の一助とする。 ✓ アドバイザーを招聘し、研修を通して教育 DX に係る最新の情報を享受するとともに、小中学校における教育の質と向上のための助言を仰ぐ。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 現職研修	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 小中学校の学びの三本柱の研修 ✓ 教科における授業改善研修 ✓ 教科および校種の連携を図る研修 ✓ 各学力調査分析に基づく研修
(2) 授業公開	✓ 「小中一貫の学び」を広く知らせることを目標に、対象を広く設定して実施する。児童生徒の募集の観点も視野に、募集・広報担当と連携して 1 学期に実施する。
(3) 研究発表	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和 7(2025)年九州英語教育研究大会(小学校)、令和 8(2026)年長崎県保健体育研究大会(中学校)で実践発表を行うことに伴い、研修においても実践内容等を共有する。 ✓ 全日本教育工学研究協議会全国大会での実践発表
(4) 協同研究	✓ TOPPAN(株)との、AI ドリル navima の実践研究推進

8) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 進路希望の実現 ✓ 9 年間を見通したキャリア教育の充実 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中学校全職員による進路指導の充実 ✓ キャリア講話の実施 ✓ 施設の老朽化への早急な対応 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 中学校全職員による三者面談の実施	✓ 中学 3 年生は、面談主担当 1 人とペア、中学 1・2 年生はペアで三者面談を実施し、より多くの目で生徒の進路希望と向き合う。
(2) キャリア・スタディの実施	✓ 中学 1 年生は自らの進路を考える第 1 歩として、学園内の学校との連携授業を行う。中学 2 年生は社会の第 1 線で活躍している職業人から講話をいただく「キャリア・スタディ」を実施し、生徒が自らの生き方を見つめ、考えるきっかけとする。中学 3 年生は、中学 2 年時のキャリア・スタディで考えた自らの生き方の実現に向け、志望校を決定し、進路希望実現に向けての学力向上をサポートする。
(3) A-STEP の実施と Study Journal の活用	✓ 生徒自身の主体的な学びの場として放課後学習の時間を A-STEP の実施をする。「Study Journal」に学習の計画と学びの足跡を記録させることで、生徒の計画力と自己管理能力の向上を図る。

(4) 施設の安全点検の実施	✓ 月に1度の安全点検を実施し、施設の消耗や老朽化に伴う危険箇所へ早急に対応し、安心安全な学校生活を送ることができるようにする。
----------------	--

9) 国際交流・留学生支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ コミュニケーション能力の実践 ✓ グローバルな視野を持って異文化を体験 ✓ 自国文化の振り返り ✓ 世界貢献、自国への貢献 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 修学旅行準備(手続き方法、乗作り)海外ホームステイを体験 ✓ 学習発表会におけるプレゼンテーション ✓ 前年度協定を締結したイギリスの語学学校への留学を促進する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) カナダ修学旅行	✓ 中学3年生5月下旬から6月上旬の約1週間、カナダブリティッシュコロンビアでホームステイをしながら現地の学校に通い、英語による授業と体験活動を実施する。
(2) 海外留学促進	✓ 協定締結した語学学校との留学プログラムを始め、海外派遣事業を軌道に乗せる。

10) 学生募集・広報活動

計画の概要	
<募集・広報の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員40人の充足を達成するために、総合学園として独自の魅力的な教育内容を受検対象者に発信し、受検や入学につなげるとともに、HPやInstagramなどで必要に応じて広く伝えることで本校の認知度も向上させる。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在籍の小学6年生対象の説明会を実施、教育内容や進路情報を提示することで内部進学を定着させる。 ✓ オープンスクール、入試説明会、個別相談会、塾等の定期訪問を継続して対面での情報提供に加えて、在籍している児童生徒の活動などの情報を積極的にHP、YouTube、Instagram、公式LINEを活用して、総合学園としての独自の魅力的な教育内容を発信し、オンラインでも情報を提供することで学校の魅力を広く伝え、受検・入学、認知度の向上につなげる。 ✓ オープンスクールでは、授業公開を行い、受検対象者に学校の魅力を伝え、興味を引くようにする。また、オープンスクールなどの年間のイベント情報を4月から公開し、入学対象者の前年度参加者数の20%向上を目標とし、入学者数の増加に努める。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) オープンスクール	✓ 6月(授業公開)・7月・8月に実施
(2) 授業公開	✓ 6月に在校生保護者や本校に興味を持っている授業公開を実施
(3) 入試説明会	✓ 9月に入試内容・入試スケジュールの説明会を実施
(4) 九文マルシェ等校外イベント	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 一般周知を図るべく3回目となる九文マルシェを5月に開催する。 ✓ 5月のSDGsフェスティバル、NIUキッズキャンパスへ参戦し、本校の魅力を発信する。
(5) 入学体験会・受検対策講座	✓ 園児へは入学体験会、児童へは受検対策講座を開き、本校の入試へつなげる。

11) 教職員の人材開発(FD・SD)

計画の概要	
<人材開発の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教職員の資質向上は、全ての児童生徒の成長につながるものである。確かな資質を有する教職員集団、確かな同僚性の中で個の力をアップデートできる教職員集団を目指す。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教師に求められる資質能力【①教職に必要な素養②学習指導③生徒指導④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応⑤ICTや情報・教育データの活用】の中で、②を中心に研修を行う 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 定期的な職員研修	✓ 第1・3水曜日を職員研修日として設定し、また、校務整理日・統一出勤日、登校日にも研修の時間を設定して、研修を計画的に仕組む。

12) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

計画の概要	
<連携強化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	

<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童生徒への多様な学習機会の提供 ✓ 各企業団体と連携し、生徒募集へつなげる。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保護者、卒業生の活用 ✓ 学園人材、学園関係企業の活用 ✓ 学習塾との連携 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 同窓会(卒業生)との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ キャリア学習における卒業生の活用 ✓ 卒業生ネットワーク同窓会組織の確立
(2) 中学校部保護者対象学校説明会	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 年度当初に教育活動の共有を図り、学校・家庭の連携を確かなものとする。
(3) 学習塾との連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 情報を共有することで受検市場の動向を把握し、本校の募集戦略へつなげる。

1 3) 学園内の連携促進

計画の概要	
<連携の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州文化学園高等学校との内部進学連携促進・接続カリキュラムの検討、作成 ✓ 学園各部門の豊富な教育資源の積極的活用 ✓ 多岐にわたる分野のキャリア教育の展開 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 接続機関である九州文化学園高等学校とは、行事や教育活動(教科間の学び合い)において積極的に連携を図る。キャリア教育等での長崎国際大学との連携は継続して実施する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 接続カリキュラムの検討	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中学校・高等学校の連結した教育カリキュラムの構築に取り組む。
(2) SDGs に関する連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他部門担当者と情報を交換し、報告・連絡に努める。
(3) 他部門との合同研修	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他部門との同教科部会など学び合う機会をもち、活性化を図る。

1 4) SDGs の推進

計画の概要	
<SDGs 推進の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本校での SDGs の取り組みを地域に発信し、地域全体での意識向上と連携を図る。 ✓ ESD(持続可能な開発のための教育)に基づいた授業や行事を展開し、資源の節約にも努めることで、持続可能な社会づくりへの意識を育む。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 限りある資源の節約意識を常に持ち、日常の業務を重ねるなど、取り組みやすい事項から教職員自ら取り組む。また、授業はもとより、学校活動全般を通じて SDGs に関して学び、その活動を発信できるようにする。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 名切 SDGs フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 小学校と合同で実施をする。小学3年生が「人権の花運動」において育てたヒマワリから採取した種を活用し、給食で使用した牛乳パックをリサイクルして種植え用のポットを作成する体験を提供する。持続可能な資源の活用と環境保全の重要性を一緒に学び、人権の向上に取り組む。
(2) ESD に基づいた授業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新学習指導要領の ESD(持続可能な開発のための教育)に基づいた活動を専門委員会を通じて実施する。
(3) 行事に SDGs を目標に掲げる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 行事と SDGs をリンクさせる。
(4) 資源の節約	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Environment(環境)において節電、節水、ペーパー削減に努める。

1 5) 管理運営と業務・経費効率化

計画の概要	
<管理運営と効率化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 法人への帰属意識を高め、組織力の向上を目指す。 ✓ 国が推進している働き方改革を進めることで働きやすい環境を整備するとともに、職員を適材適所に配置することで組織としてのパフォーマンスを最大限に高める。 ✓ 新卒者の企業等による早期内定の囲い込みに対応すべくリクルートを早め、新卒者を採用し活気ある職場にする。とともに、職員の年齢構成を整え、人件費を抑制する。 ✓ 従来の業務や事務処理を IT 技術の活用などで効率化を図り、合理化をさらに進める。 ✓ 物価高騰の折り、無駄はないか、適正価格など徹底的な見直しを常に行い、活用できる補助金は獲得し、経費削減に努める。 ✓ 節減、節約においては、児童生徒も SDGs 教育の視点を取り入れ、一丸となって意識の向上を図り、経費削減に 	

つなげる。	
✓ 経常収支差額の赤字幅の縮小	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 組織力の向上	
✓ 週休二日制の導入	
✓ 新卒者の採用	
✓ 業務のスリム化、効率化による経費削減	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 組織力の向上	✓ 各部門と連携し、九州文化学園の最年少部門として組織力の向上に努める。 ✓ 職員会議で中期計画・事業計画の周知徹底をする。
(2) 週休二日制の導入	✓ 毎月の奇数の土曜日を休日にする事で、リフレッシュや研修等の自己研鑽の時間を取ることができ、職員一人当たりの生産性を上げ、教育の質の向上へつなげる。
(3) 新卒者の採用	✓ リクルートを早め、教育学部がある大学へ積極的に働きかける。
(4) 業務のスリム化、効率化による経費削減	✓ 学習支援システムを有効活用し、事務の効率化・合理化を図る。

16) 施設・設備・システム等の環境整備

計画の概要	
<環境整備の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 令和元(2019)年開校時に廃校の躯体を再利用したローコストな学校改修方法によりグッドデザイン賞を受賞した校舎も7年目を迎えるにあたり、様々な不具合箇所が生じてきているため、緊急性が高いものから対応していく。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 月1度の安全点検を実施して、不具合箇所への早急な対応をすることで児童生徒が安心安全な学校生活を送ることができるようにする。	
✓ 教室数不足に伴う未改装教室の改装	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 教室ドアの取替検討	✓ 教室の上吊りドアがドア枠の変形により開閉に支障を来しているため、下レールのドアへの取替を検討する。
(2) シロアリ駆除	✓ 家庭科室前の廊下および技術室にシロアリがいるため、駆除して被害を食い止める。
(3) 教室数の確保	✓ 受検者数増により定員充足はもとより、将来的な定員増を考慮した教室の確保を法人本部と協議する。 ✓ 図書室棟2階の改装

17) 点検評価

計画の概要	
<点検評価の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 学校教育目標とそれに基づく教育活動その他の学校運営の状況等について評価し、改善を図ることにより、教育の質の向上を目指すとともに、保護者や地域住民等の信頼に応える学校づくりを進めていく。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 学校評価アンケートを保護者対象に実施する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 学校評価	✓ 学校評価アンケートを実施し、その結果を分析し、その後の教育活動に活かす。

18) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

計画の概要	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 令和元(2019)年に整備した人工芝のグラウンドが、人工芝と下地との接着が弱くなり浮いている箇所や人工芝が千切れて短くなり、ゴムチップのグラウンドになりつつあるため、人工芝の張替えや土のグラウンドへの変更を検討する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) グラウンドの修繕	✓ 複数の業者に相見積もりを取る。本校の各種行事の際に駐車場として利用している以上、消耗も早く定期的に修繕が必要になる。定期的な張替えと土のグラウンドへ変更のどちらが中長期的に見たときに経済的かを検討する。

VI. 九州文化学園小学校

A. 中期計画に掲げた経営理念・経営目標

5カ年の設置校経営理念	変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する
5カ年の設置校経営目標	英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する

B. 中期計画に掲げた各戦略の目標達成に向けた本年度の事業方針

区分	目標達成に向けた本年度の事業方針
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 英語力およびIT活用力を備えた教員の育成 ✓ 年間を通じて研修を実施し、教員一人一人の指導力の向上を図る。 ✓ 建学の精神に基づいた生え抜きの教員の育成 ✓ 学校法人80周年を迎えるに当たり、教職員は今一度建学の精神・理念への理解を深める。
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 小中一貫校として、9年間を見通した本校独自の魅力ある教育課程の構築を図る。 ✓ 本校中学部と連携し、計画的に高学年児童に九州文化学園中学校への内部進学を意識付けを図り、内部進学者数を確保する。 ✓ 児童生徒の知見を広げるよう、地域や企業など多岐にわたる分野と連携し、充実したキャリア教育プログラムを構築する。
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の関係機関および団体との連携を強化する。 ✓ 保護者との連絡を密にする。 ✓ 親子留学などのプランを予定しており、グローバル化を加速させる。 ✓ イギリス協定校への留学促進
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ フルクラウド統合型校務支援システム「BLEND」を活用し、本校の運用に沿ったシステムを構築することで業務効率化を図る。 ✓ 新入生の児童生徒のICT端末において、MAMを導入することで管理性向上や効率化を図るとともにセキュリティ対策を図る。
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ SNSを活用し、リアルタイムに本校の情報や魅力を発信する。 ✓ 企業や団体とコラボレーションした取組を増やし、学校存在を周知する。 ✓ 適正な入学定員・収容定員の検討
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員充足へ向けた全職員一丸となった募集活動を展開する。 ✓ 補助金等の外部資金の積極的な活用 ✓ 職員の年齢構成を考慮した人事・採用
学園内の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長崎国際大学、長崎短期大学、九州文化学園高等学校、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園歯科衛生士学院と授業やキャリア教育で連携し、専門的な学びの機会を創出する。 ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園と季節に合わせた英語レッスン等の合同授業で連携し、学校の魅力発信と内部進学につなげる。
付帯計画と課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 総合学園の強みを活かして小中高の連携を推進し、12ヶ年教育の在り方を検討する。

C. 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有

	区分	内容
1	定量的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員未充足・前年度並みの入学生数の獲得 ✓ 佐世保市における少子高齢化や若者の流出による人口減少に加え、物価高騰による家計への経済的負担増 ✓ 国や自治体による保護者への通学支援が高等学校と比べ少ない。 ✓ 定員充足に向けた教室の不足と施設設備の維持管理 ✓ 経常収支差額比率の適正化
2	定性的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公立学校との差別化 ✓ イメージ刷新：教育の3本の柱はもとより県立中学校にも勝るとも劣らない学力の向上 ✓ 児童数の減少による今後の有効的な募集戦略 ✓ 公立学校進学が常である地域性 ✓ 教員の確保と若年教員の定着 ✓ 現況の課題に見る適正な収容人数の検討
3	経営・募集戦略上強みとなる魅力・特色	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県北唯一の私立小学校 ✓ 小学校と中学校との連続した9年間の教育課程 ✓ 発達段階に応じた英語教育と公立を上回る英語の授業時数 ✓ 情報活用力を育むIT教育 ✓ 総合学園ならではの専門性に富んだ学びの機会の提供

D. 本年度の事業計画

1) サマリー

計画全体の概要	
✓	教育の3本柱はもとより、その他の教科でも児童の基礎学力を上げるべくその課題を見極め、適正な計画の下指導にあたる。英語検定・算数検定・漢字検定の受験者数・合格者数の増加も目指す。
✓	総合学園の強みを生かし、本年度も多様な学びの機会を創出する。様々な本学園の部門と協働することで、内部進学へとつなげたい。加えて、企業や地域との連携事業にも積極的であり、広がりのある学びの機会を創出する。
✓	定員充足に向け、あらゆる手段で本校の魅力発信に努め、収容人数の増、経常収支黒字化を目指す。
✓	入試内容の見直しについて検討を始める。受験者数が増加してきたこと、過去7年間の課題を集約し、本校が求める児童像を見極める入試内容の改革を目指す。

2) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組

	基本方針	学校全体の取組概要
1	成長力の確保 (現状維持ではなく成長に向けた原動力の確保策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 9年間を見通した本校独自の魅力ある教育課程を構築するとともに、小中高12ヶ年教育のあり方を検討し、総合学園としての魅力向上を図る。6年生では英語と算数で学習習熟度別のクラス編成で、中学教員が乗り入れた授業を展開する。
2	教育力の向上 (教育の質向上と、組織・教職員個々の能力向上策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 研究主任を中心に年間を通じた研修を実施し、個々・チームでの教育力向上を図る。 ✓ 特色を生かしたカリキュラムを創出する。(英語・ITを活用)
3	約定返済の確実な履行 (増収と経費効率化による健全な財務基盤の構築策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員充足により財務規律を改善する。 ✓ 各種取引業者の見直しと必要の是非を検討する。

3) 経営改善(健全化)に関する施策

	区分	施策の概要
1	収入の増加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 収容人数率をあげることで収入増を目指す。 ✓ 補助金の積極的な活用 ✓ 人工芝のグラウンドや体育館の貸出し
2	支出の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 計画的な予算の執行 ✓ 必需品の内容(価格、性能等)の見直し ✓ 物価高騰による支出増を抑制するため、給食やスクールバスにかかる食材業者や燃料業者を適宜見直す。
3	人員・業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新卒者(若年世代)を採用し、職員の年齢構成のバランスを整える。 ✓ 適材適所な校務分掌とし、縦と横の連携や協力体制を構築する。 ✓ DX化の加速のための研修の実施
4	付加価値向上と広報強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多様な教育ニーズに合わせたプログラムの情報発信 ✓ 地域住民も対象にしたイベントの実施
5	第3期中期計画の策定に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定員未充足率を改善し、学納金収入・補助金増額を目指す。 ✓ 小中一貫校の独自のカリキュラムを進化させ、他校との差別化を図り、教育成果をあげ、ステークホルダーからの信頼を得ることで内部進学へつなげる。

4) 学部・学科・課程・コース・専攻科、研究科・専攻、学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針
学校教育目標	✓ 得意を伸ばす、志を高く学ぶ、人のために行動する。
低学年	✓ 基本的な生活習慣と学習習慣の定着、集団生活でのきまりを守る姿勢を育む。
中学年	✓ 得意を伸ばし、基礎学力の定着を図る。友人と触れ合う時間を確保しソーシャルスキルを育む。
高学年	✓ 個に応じた学習の充実を図り、さらなる学力向上を目指す。学校教育全般においてリーダー性を育む活動を仕組む。

5) 教育活動

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
✓	学習機会と学力の保証を根底にグローバル人材の育成実現のため、本校教育の3本柱である「英語」「IT」「日本文化教育」を随所に取り入れ、他教科との連携を促進する。
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓	教科カリキュラムを通じて、「英語」「IT」「日本文化教育」を統合し、中学校の教員が連携する授業を展開する。また、教科間および小学校・中学校間の連携を強化して実践的な学習環境を創出する。
項目名・取組名	具体的取組・目標

(1) 英語教育	✓ 英語の読み書きの基礎を固めると共に、発話しやすい環境づくりをする。また、イベントを通して、異学年と交流し、コミュニケーション力を付ける。
(2) IT 教育	✓ 論理的思考力・課題解決力を育むプログラミング教育 を行う。IT の学習だけでなく、他教科とも連携しながらプログラミング的思考を育んでいく。
(3) 日本文化学習	✓ 茶道を通して、礼法・作法を身に付け、実践を通じておもてなしの心を育む。
(4) 放課後学習	✓ 国語・算数・英語の学力の定着を図るとともに、自ら学ぶ力の向上を目指す。加えて、学外講師を招聘したり、他部門と連携したりすることで専門的な学びの機会も創出する。

6) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 経営状況、ハード面(教室数)、学習効果など様々な視点から適正な収容定員について協議を始める。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 定員検討会議	✓ 適正な入学定員・収容定員の検討会議をもち、適宜法人本部と協議する。

7) 研究活動

計画の概要	
<研究活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 情報活用能力の育成と向上を柱にした、「令和の日本型教育」の構築(小中9年間の学びの連続性、その先にあるゴールの姿(さらなる接続の姿)を全職員が明確にもって教育活動にあたり、児童生徒の共通学力課題の改善を図ることを通して「令和の日本型教育」の構築を目指す。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ RV-PDCA の視点に基づいた校内研修計画を立てる。年度当初に「研究テーマ・研修内容・研修日」を確認し(令和 7(2025)年度研修については、前年度内に提案、決定済み)、全職員の共通理解の上、研究を推進する。研修全体は、「教育課程研修」とする。その中において、教育の伝統的手法と ICT を活用した今日的手法のベストミックスを図る視点をもった研修も設定する。また、県・九州の教科研究大会において実践発表を予定している教科の実践についても共有し、研究テーマの達成の一助とする。	
✓ アドバイザーを招聘し、研修を通して教育 DX に係る最新の情報を享受するとともに、小中学校における教育の質と向上のための助言を仰ぐ。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 現職研修	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 小中学校の学びの三本柱の研修 ✓ 教科における授業改善研修 ✓ 教科および校種の連携を図る研修 ✓ 各学力調査分析に基づく研修
(2) 授業公開	✓ 「小中一貫の学び」を広く知らせることを目標に、対象を広く設定して実施する。児童生徒の募集の観点も視野に、募集・広報担当と連携して1学期に実施する。
(3) 研究発表	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和 7(2025)年九州英語教育研究大会(小学校)、令和 8(2026)年長崎県保健体育研究大会(中学校)で実践発表を行うことに伴い、研修においても実践内容等を共有する。 ✓ 全日本教育工学研究協議会全国大会での実践発表
(4) 協同研究	✓ TOPPAN(株)との、AI ドリル navima の実践研究推進

8) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 児童が将来の生き方や働き方を主体的に選択できる基盤を育むためのキャリア教育を 9 年間通して計画的に行う。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ OB・OG によるキャリア教育と出前講座の活用 ✓ 放課後学習と検定試験対策の実施 ✓ 児童会活動の取組 ✓ 施設の老朽化への早急な対応 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) キャリア学習	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出前講座を活用し、発達段階に応じた様々な分野を設定する。対話型・体験型の内容にすることで興味を引き出し、広い視野を持てるようにする。 ✓ OB・OG によるキャリア講演、職業体験プログラムの実施
(2) 放課後学習	✓ 国語・算数・英語の学習の補充や外部専門家による体験的活動の取組を行う。

(3) 検定試験対策	✓ 漢字検定・算数検定・英語検定の資格取得者および上位合格者を増やす。
(4) 児童会活動の充実	✓ 委員会活動(SSC 活動)の中で SDGs を意識した活動を行い、学校生活の充実を図る。
(5) 施設の安全点検の実施	✓ 月に 1 度の安全点検を実施し、施設の消耗や老朽化に伴う危険箇所へ早急に対応し、安心安全な学校生活を送ることができるようにする。

9) 国際交流・留学生支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 教育の 3 本の柱の一つである「英語」を使った人的交流を加速させる。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 令和 4(2022)年度から取り組んでいる、短期体験学習生の受入れ。また、本校の小学校・中学校英語科主催の各種イベントの開催を計画しており、学園内および外部からも集客する。	
✓ 前年度協定を締結したイギリスの語学学校への留学を促進する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 海外学生との交流	✓ 英語を使ってお互いの学校を紹介するやり取りを海外の学校と行うような機会を設ける。
(2) 各種イベント	✓ 全児童・生徒、外部からの参加者を募り、英語で様々な企画を実施するイングリッシュサマーキャンプを実施する。
(3) 海外留学促進	✓ 協定を結んだ語学学校との留学プログラムを始め、海外派遣事業を軌道に乗せる。
(4) 海外インターンシップ生の受け入れ	✓ 海外から職業体験を希望する学生を受け入れ、英語指導の実践を行う。
(5) 短期体験学習生の受け入れ	✓ 海外から長期休みを利用して日本に帰国している児童を受け入れ、交流を実施する。(韓国・シンガポール・カナダ)

10) 学生募集・広報活動

計画の概要	
<募集・広報の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 定員の充足を達成するために、総合学園として独自の魅力的な教育内容を受検対象者に発信し、受検や入学につなげるとともに、HP や Instagram などが必要に応じて広く伝えることで本校の認知度も向上させる。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ オープンスクール、入試説明会、個別相談会、塾等の定期訪問を継続して対面での情報提供に加えて、在校している児童生徒の活動などの情報を積極的に HP、YouTube、Instagram、公式 LINE を活用して、総合学園としての独自の魅力的な教育内容を発信し、オンラインでも情報を提供することで学校の魅力を広く伝え、受検・入学、認知度の向上につなげる。	
✓ オープンスクールでは、授業公開を行い、受検対象者に学校の魅力を伝え、興味を引くようにする。また、オープンスクールなどの年間のイベント情報を 4 月から公開し、入学対象者の前年度参加者数の 20% 向上を目標とし、入学者数の増加に努める。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) オープンスクール	✓ 6 月(授業公開)・7 月・8 月に実施
(2) 授業公開	✓ 6 月に在校生保護者や本校に興味を持っている授業公開を実施
(3) 入試説明会	✓ 9 月に入試内容・入試スケジュールの説明会を実施
(4) 九文マルシェ等校外イベント	✓ 一般周知を図るべく 3 回目となる九文マルシェを 5 月に開催する。 ✓ 5 月の SDGs フェスティバル、NIU キッズキャンパスへ参戦し、本校の魅力を発信する。
(5) 入学体験会・受験対策講座	✓ 園児へは入学体験会、児童へは受験対策講座を開き、本校の入試へつなげる。

11) 教職員の人材開発(FD・SD)

計画の概要	
<人材開発の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 教職員の資質向上は、全ての児童生徒の成長につながるものである。確かな資質を有する教職員集団、確かな同僚性の中で個の力をアップデートできる教職員集団を目指す。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 教師に求められる資質能力【①教職に必要な素養②学習指導③生徒指導④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応⑤ICT や情報・教育データの利活用】の中で、②を中心に研修を行う。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 定期的な職員研修	✓ 第 1・3 水曜日を職員研修日として設定し、また、校務整理日・統一出勤日、登校日にも研修の時間を設定して、研修を計画的に仕組む。

1 2) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

計画の概要	
<連携強化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童に多様な学習機会を提供し、社会的スキルの向上を促すことや、地域社会の一員としての自覚と責任感を育むことを目指す。 ✓ 各企業団体と連携し、その魅力ある教育内容を広報することで児童募集へつなげる。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ TOPPAN(株)との AI ドリル navima の実証検証を通じて最新技術を活用した教育の質の向上を目指す。また、近隣の幼稚園・保育園と連携し、就学前の子供たちのスムーズな移行をサポートする学習プログラムを開発する。 ✓ 自治体や産業界からのコラボレーション企画等へは積極的に参戦し、多様な学びの機会を創出する。 ✓ 卒業生とのつながりを強化し、学校の価値向上につなげる。 ✓ 学習塾との連携 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 同窓会(卒業生)との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 卒業生ネットワーク構築と同窓会公式サイト開設 ✓ 「卒業生会員制度」の導入&クラウドファンディング型寄付制度の構築について検討する。 ✓ OB・OGによるキャリア講演、職業体験プログラムの実施
(2) TOPPAN(株)との AI ドリル navima の実証研究	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 最新の技術を用いた教育の質の向上を目指し、新しい学習ツールとしての AI ドリルの導入を検討し、学生の学習効果とモチベーション向上に対する影響を評価する。
(3) 近隣の幼稚園・保育園との連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育の連続性を保ち、地域の子供たちが一貫した学習環境の中で成長できるようにすることを目指し、就学前の子供たちに向けた学習プログラムを共同で開発し、スムーズな小学校生活への移行をサポートする。
(4) 学習塾との連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 情報を共有することで受検市場の動向を把握し、本校の募集戦略へつなげる。

1 3) 学園内の連携促進

計画の概要	
<連携の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 幼稚園との内部進学連携推進 ✓ 接続カリキュラム検討および実践 ✓ 学園各部門の豊富な教育資源の積極的活用 ✓ 多岐にわたる分野のキャリア教育の展開 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 接続機関である認定こども園九州文化学園幼稚園とは、行事や教育活動において積極的に連携を図る。また、長崎国際大学や長崎短期大学との連携事業は継続して実施する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ より専門性の高い学びの機会をもつことによる多様な学びを目指す。
(2) SDGs に関する連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他部門担当者と情報交換し、報告、連絡に努める。

1 4) SDGs の推進

計画の概要	
<SDGs 推進の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ SDGs の国際目標である令和 12(2030)年に向け、児童生徒、職員の当事者意識をさらに高める。令和 22(2040)年以降の社会を見据えた持続可能な社会の作り手の育成については以下の 3 つを柱として念頭に置き、日常の教育活動の中で推進する。 ①探究的な学びの深化による「問題発見・解決力」の育成、②協働・共創を促す学習環境の構築、③ICT・AI を活用した個別最適な学習の推進 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 名切 SDGs フェスティバル ✓ プラントベースフードを使った商品開発 ✓ (株)ファーストリテイリングと連携した「届けよう服のチカラプロジェクト」 ✓ 九十九島の海をきれいにしよう 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 名切 SDGs フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 小学 3 年生が「人権の花運動」において育てたヒマワリから採取した種を活用し、給食で使用した牛乳パックをリサイクルして種植え用のポットを作成する体験を提供する。持続可能な資源の活用と環境保全の重要性を参加者と共に学び、人権の向上に取り組む。
(2) プラントベースフードを	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大塚食品(株)と(株)エレナと協力し、プラントベースフードを活用した弁当を開

使った商品開発	発。健康的で環境に優しい食生活を提案し、畜産業の環境負荷軽減や地域の新たなビジネスモデル創出に貢献する。
(3) 届けよう服のチカラプロジェクト	✓ (株)ファーストリテイリングと連携し、廃棄衣服の再利用を促進。資源循環を進めるとともに、持続可能な服の選び方を学ぶワークショップを実施し、地域の意識向上に努める。
(4) 九十九島の海をきれいにしよう	✓ 佐世保中央公園でのごみ拾いやアマモの種付け体験を通じ、海洋保全の重要性を学び、実践。児童に環境保護の意識を育む機会にする。

15) 管理運営と業務・経費効率化

計画の概要	
<管理運営と効率化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 法人への帰属意識を高め、組織力の向上を目指す。 ✓ 国が推進している働き方改革を進めることで働きやすい環境を整備するとともに、職員を適材適所に配置することで組織としてのパフォーマンスを最大限に高める。 ✓ 新卒者の企業等による早期内定の囲い込みに対応すべくリクルートを早め、新卒者を採用し活気ある職場にする ✓ とともに、職員の年齢構成を整え、人件費を抑制する。 ✓ 従来の業務や事務処理を IT 技術の活用などで効率化を図り、合理化をさらに進める。 ✓ 物価高騰の折り、無駄はないか、適正価格など徹底的な見直しを常に行い、活用できる補助金は獲得し、経費削減に努める。 ✓ 節減、節約においては、児童生徒も SDGs 教育の視点を取り入れ、一丸となって意識の向上を図り、経費削減につなげる。 ✓ 経常収支差額の赤字幅の縮小 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 組織力の向上 ✓ 週休二日制の導入 ✓ 新卒者の採用 ✓ 業務のスリム化、効率化による経費削減 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各部門と連携し、九州文化学園の最年少部門として組織力の向上に努める。 ✓ 職員会議で中期計画・事業計画の周知徹底をする。
(2) 週休二日制の導入	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 毎月の奇数の土曜日を休日にする事で、リフレッシュや研修等の自己研鑽の時間を取ることができ、職員一人当たりの生産性を上げ、教育の質の向上へつなげる。
(3) 新卒者の採用	<ul style="list-style-type: none"> ✓ リクルートを早め、教育学部がある大学へ積極的に働きかける。
(4) 業務のスリム化、効率化による経費削減	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学習支援システムを有効活用し、事務の効率化・合理化を図る。

16) 施設・設備・システム等の環境整備

計画の概要	
<環境整備の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和元(2019)年開校時に廃校の躯体を再利用したローコストな学校改修方法によりグッドデザイン賞を受賞した校舎も 7 年目を迎えるにあたり、様々な不具合箇所が生じてきているため、緊急性が高いものから対応していく。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 月 1 度の安全点検を実施して、不具合箇所への早急な対応をすることで児童生徒が安心安全な学校生活を送ることができるようにする。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 教室ドアの取替検討	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教室の上吊りドアがドア枠の変形により開閉に支障を来しているため、下レールのドアへの取替を検討する。
(2) シロアリ駆除	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 家庭科室前の廊下および技術室にシロアリがいるため、駆除して被害を食い止める。
(3) 教室数の確保	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 受検者数増により定員充足はもとより、将来的な定員増を考慮した教室の確保を法人本部と協議する。 ✓ 図書室棟 2 階の改装

17) 点検評価

計画の概要	
<点検評価の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学校教育目標とそれに基づく教育活動その他の学校運営の状況等について評価し、改善を図ることにより、教育の質の向上を目指すとともに、保護者や地域住民等の信頼に応える学校づくりを進めていく。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学校評価アンケートを保護者対象に実施する。 	

項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 学校評価	✓ 学校評価アンケートを実施し、その結果を分析し、その後の教育活動に生かす。

18) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

計画の概要	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 令和元(2019)年に整備した人工芝のグラウンドが、人工芝と下地との接着が弱くなり浮いている箇所や人工芝が千切れて短くなり、ゴムチップのグラウンドになりつつあるため、人工芝の張替えや土のグラウンドへの変更を検討する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) グラウンドの修繕	複数の業者に相見積もりを取る。本校の各種行事の際に駐車場として利用している以上、消耗も早く定期的に修繕が必要になる。定期的な張替えと土のグラウンドへ変更のどちらが中長期的に見たときに経済的かを検討する。

VII. 認定こども園九州文化学園幼稚園

A. 中期計画に掲げた経営理念・経営目標

5カ年の 設置校経営理念	園児ひとりひとりを大切に、質の高い保育・教育を行う。
5カ年の 設置校経営目標	強い身体と豊かな心を持つ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続ける。

B. 中期計画に掲げた各戦略の目標達成に向けた本年度の事業方針

区分	目標達成に向けた本年度の事業方針
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 職員連絡会や職員会議・面談等の機会を利用し、職種や正規・パートの違いを超えて互いを尊重し、協力して専念する意識を高める。 毎週必ず連絡会の時間を設け、伝達事項の漏れがないよう努めるとともに、毎学期・行事後には振り返りの時間を設け、園児・保護者に対してよりよい保育・教育を提供できるよう努める。 九州文化学園高等学校、長崎短期大学、長崎国際大学からの教育実習やインターシップの受け入れを行う。実習生やインターシップ生に対して、全職員が後輩を育てるという視点を持ち、実践的、具体的にわかりやすく指導するとともに、自己の保育や教育の姿を見せると共に、保育者自身にとっても自己研鑽の機会と捉え自らの資質の向上に努める。 建学の精神を体現する茶道文化について、教職員はその理念や意義を十分に理解して尊重し、関連する行事・活動にも参加・協力する。また、園児にとっても茶道は、他の園にない情操教育の推進に寄与するものであるため、教育・保育の充実を図る。
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園として、0歳児から小学校就学前までの一貫保育・教育を展開するため、新指導要領に示された小学校就学までに育てたい10の姿勢を基本とした保育・教育の連続性のあるカリキュラムの編成に取り組むこととし、年間カリキュラムの中に茶道・英語活動・運動遊びの位置づけを図り、情操教育、英語教育、体育・健康教育の推進を図る。 年長児については小学校入学に向け次のステップを知る機会と捉え、学園内の小学校教員による英語のレッスンを実施し、慣れ親しむ機会を設ける。 専門講師による体育指導や外遊びを奨励し、体育・健康教育の推進を図る。 就学に向けて安心感や期待感を持てるよう一人一人の成長を理解する。
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> 園外保育の推進を図るため、地域を知ること、マナー・モラル・安全教育の充実を図る。子どもたちの安心・安全を最大限に考慮し、園児が地域行事に参加することにより町内会や知己の方々との繋がりを深める。また、実施可能であれば老人ホーム訪問による交流を行う。 英語教育の推進として、専門講師による英語遊びや九州文化学園小学校と交流活動を行う。
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> 活動の様子をホームページ・SNS(Instagram)を通して発信する。 安心・安全メールによる資料配付(ペーパーレス化)の完全実施。 グーグルフォームを活用したアンケート等の実施による意見収集と集計の効率化。 グーグルサイトを活用した、保護者の要望に応じた、欠席状況の広報。 業務支援 ICT の導入について具体的に検討。
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> 園行事や日頃の活動の様子をホームページで保護者や地域に広報するとともに、Instagramによって、子どもたちの日常の様子を配信し、園のホームページとの相乗効果を図る。 認知度向上をねらいとした地域行事等への積極的な参加によるマーチングやよさこい踊りなどの披露。 幼児部の保護者を集めた行事や懇談会等で、九州文化学園小学校職員による学校紹介・入学説明会の時間を確保する。
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> 2号認定園児の増加に伴い、預かり保育体制の強化のため、乳児部、幼児部合同の勤務体制を新たに構築し、安全でゆとりのある保育によって保育・教育について質の向上を図る。 2号認定園児の増加に伴い、利用者減少傾向の強い送迎バスの運行方法を見直し、令和8(2026)年度からの主要道路に限定したバスコースの設定に向け、自宅前までの送迎から、ポイントを絞った送迎に変更する。3コースの変更はしないが、2便から1便に変更することにより、経費の削減を図るとともに、職員が園児に向き合う時間や教材準備の時間を生み出す。 園児数の推移分析により、適正規模への園児数、職員数の研究。
学園内の 連携促進	<ul style="list-style-type: none"> 長崎短期大学・長崎国際大学教員による本園職員への研修、保護者向けの講演会の開催。 長崎短期大学・長崎国際大学の研究・調査への協力・連携。 九州文化学園高校・長崎短期大学・長崎国際大学からの実習生の受け入れ、歯科衛生士学院などの学生を受け入れることで、園児のみならず学生にとっての学びの場とできるよう連携促進。 九州文化学園小学校と年長児・年中児の交流を進め異年齢児との交流を深める。園の英語レッスンを九州文化学園小学校職員に依頼し、校種を超えた職員交流を図る。幼稚園または小学校におけるそれらの交流の様子を園保護者にも公開することで、学内進学に対する興味・関心を高める。

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 養成機関としての長崎短期大学と密接に連携し、職員の資質向上を図る。令和 3(2021)年度に始まった長崎短期大学との連絡協議会を継続し、双方向にとってメリットとなる連携の在り方について研究・協議する) ✓ 幼児部の保護者を集めた行事や懇談会等で、九州文化学園小学校職員による学校紹介・入学説明会の時間を確保する。 ✓ 総合学園広報用動画を活用し、本園の特色を動画によって直感的に伝える。
付帯計画と課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 園の経営上、早朝勤務や居残り勤務など時間的制約を有することから、正規職員ならびにパート職員の確保方法について検討する。 ✓ 求人採用した職員が定着するように、その職務内容を整理しわかりやすく伝達すると共に、働き甲斐があり、働きやすく、長く働ける職場環境づくりに全職員が当事者意識をもって勤務する。

C. 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有

	区分	内容
1	定量的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 園児数の減少と物価高騰による教育活動収支における黒字率の減少 ② 園児数が定員を下回る状況の恒常化 ③ 離職率が高く、職員募集活動の恒常化と求人難
2	定性的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 保育・教育力の質的向上 ② 選ばれる園としての総合的評価の向上 ③ 休暇、休憩等が取得しにくい、保育施設業務の特性と役割
3	経営・募集戦略上強みとなる魅力・特色	<ul style="list-style-type: none"> ① 安心・便利(市役所、病院、警察署、消防署、高速入口)な立地 ② 体験交流活動の充実(専門講師、英語活動、お茶ごっこ、マーチング等) ③ 九州文化学園グループ内連携による教育・保育活動の充実 ④ 長年の実績と変化への対応力(昭和 24(1949)年 開園)

D. 本年度の事業計画

1) サマリー

計画全体の概要	
<p>・認定こども園に多数の保育施設が移行したことで、市全体で子どもたちの受け皿が拡大したものの少子化に伴い、園児数は減少する傾向にある。安定的な園経営のために①園児の安定的確保、②園児数に見合った職員組織の編制が本園における事業計画の柱となる。①については新たな園児募集の方法を開拓する必要がある。未就園児がいる家庭に対して、入園案内を発信する方法が佐世保私立幼稚園協会においても情報サイトに昨年度より切り替わり、本園でも年度末より SNS も活用した広報を実施し、日頃の園の様子を随時発信している。保護者の反応を確かめながらさらに本園の魅力や特色を伝え、園 HP の園児募集のページに導けるよう工夫していきたい。②については職員の離職率を下げ、安定的に働ける職場として環境を整え職員編制における未確定要素を取り除く。そのためにも職員の声と意欲を大切にすると同時に、大前提である保育、教育の質の向上を図る。</p>	

2) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組

	基本方針	学校全体の取組概要
1	成長力の確保 (現状維持ではなく成長に向けた原動力の確保策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 成長力の確保のためには、教職員の資質向上が不可欠である。求められている保育・教育と、本園の現状を客観的に分析し、必要に応じた改善や改革を、主体的に進めることができるリーダーおよびリーダー候補を育成する。さらに、全職員の園経営への参画意識を醸成する。
2	教育力の向上 (教育の質向上と、組織・教職員個々の能力向上策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教職員個々の能力を向上させるためには研修が不可欠であるが、現状では研修に参加するシステムが整理されていない。集合研修によらない方法で、職員個々の経験や役割等に応じた内容を主体的に学ぶことができる現実的なシステムを構築する。
3	約定返済の確実な履行 (増収と経費効率化による健全な財務基盤の構築策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 増収の割合が高くなる、園の規模(園児数等)を見出し、最適化を図る。また、これまで提供していた子育て支援(スクールバス送迎、預かり保育、未就園児親子教室)や諸活動、給食など経費の効率化を図る。

3) 経営改善(健全化)に関する施策

	区分	施策の概要
1	収入の増加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 園児募集の強化と工夫 ✓ 園児募集の乳児への焦点化
2	支出の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 園児数の確かな推移予測に応じた職員組織の編制 ✓ 園の教育力および魅力向上に直結する予算配分
3	人員・業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 行事の精選 ✓ ICT 活用による業務の効率化(現環境における)
4	付加価値向上と広報強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ グループ内連携促進の強化と成果の発信

		✓ SNS 活用による広報活動の強化
5	第 3 期中期計画の策定に向けて	✓ 保護者の利便性向上と職員の業務支援を図る ICT 環境の整備 ✓ リーダー育成による改善の活性化

4) 学部・学科・課程・コース・専攻科、研究科・専攻、学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針
乳児部	✓ 十分に養護の行き届いた中で情緒を安定させて心身の調和的な発達を図るとともに健康安全などの日常生活に必要な基本的な習慣や態度を養う。
幼児部	✓ 自由遊びと課題の活動をバランスよく取り入れたカリキュラムを編成し、指導計画のもと豊かな体験を通して小学校就学までに自立性・協同性・表現力・思考力・道徳性を培い数量や図形や文字などへの関心を高める。

5) 教育活動

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
✓ 多様性に配慮する必要性が年々高まる傾向にあるため、園児一人一人を大切にされた教育・保育の内容や展開を常に工夫する。園の教育活動は、園選択に関わる大きな要因の 1 つであるため、保護者が求める教育活動を把握すると共に、現教育活動の特色を整理し、本園の魅力が明確になるよう整理する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ その 1 つとして、幼保連携型認定こども園として保育と教育の連続性を生かした一貫教育を強化する。物的環境も大きな要因の 1 つであるため、安全で快適な環境を保持するため、施設・設備について計画的に改修等を行う。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 一人一人を大切にされた教育・保育	✓ 個に応じたきめ細かな保育・教育を実践するため、全職員で人権教育、特別支援教育にかかわる研修を深め、支援や指導にかかわる理解と実践力を高める。
(2) 特色の明確化	✓ 外部評価等を活用し、本園の特色を明確にすると共に、他の活動との関連性やバランスを考慮し、行事や活動等を精選する。
(3) 一貫教育の連続性強化	✓ 教育理念等をもとに、カリキュラム等の系統性・関連性・整合性を見直し、幼児部においては自由遊びと課題の活動をバランスよく取り入れたカリキュラムを編成する。さらに、乳児部から幼児部への移行を滑らかにする。
(4) 施設・設備の改修	✓ 大規模、中規模、小規模改修についての年次計画の策定および、必要な備品購入についての年次計画を策定する。

6) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 安定的に園児を確保できる定員構成・職員構成とする。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 今後の安定的な園児確保のため、利用定員総数は変更せず、1号認定の利用定員を減じ、2号、3号認定定員を増員して3年経過した。(定員 270 人、1号認定 125 人→85 人、2号認定 85 人→95 人、3号認定 60 人→90 人)充足率は令和 7(2025)年 3 月 1 日現在で、利用定員総数 84%、1号認定 56%。2号認定 126%、3号認定 67%で、さらに、1号認定の利用定員が減っている。利用定員総数については、保育室増築に伴い令和 10(2028)年度まででできないので、内訳については予測に応じて変更する余地がある。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 新設した保育室の活用	✓ 年少時に新たに入園するケースの減少のため、乳児の段階で園児を確保し、上の学年に進級させることで、安定的な園児確保を図る方向性の変更はない。そこで乳児部においては満年齢によって進級させ、定員の少ない 0 歳児の入園枠を随時空けて入園希望に対応する。

7) 研究活動

計画の概要	
<研究活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 経営理念の達成のためには、質の高い保育・教育が不可欠であり、経営目標の達成のためには保育者のスキルアップを持続させ、保護者から選ばれる園であり続ける。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 研修は保護者ならびに地域社会において求められる認定こども園であるために、今日的課題についての研究と、質の高い保育・教育を提供するために、職員が段階的に成長できるキャリアアップにかかわる研修内容およびプログラムの整理を行う。	
✓ 長崎短期大学が主催している保育者向けの白蝶講座を活用し保育・教育の質向上を図る。	
✓ 他部門からの研究・調査についての協力要請については、学園内の連携促進のため、できるだけ協力を果たす。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 教育・保育の基本方針に	✓ 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領に立ち返り、教育・保育の基本方針

についての理解	をこれまでの教育実践をもとに読み返すことで、基本方針についての理解を深める。
(2) 各種ガイドライン解説についての理解	✓ 保育に関する基本的なガイドライン解説に関する研修を行い、自らの保育・教育を振り返り、解釈や理解の相違について気づき、改善する機会を設ける。
(3) これからの保育についての理解	✓ こども家庭庁の創設や、少子化対策など、新たな保育の方向性や、保育施設にもとめられている姿や役割を理解する。
(4) 配慮を必要とする子どもと保護者の支援についての理解	✓ 特別な支援を必要とする子どもや保護者への対応方法についての理解を深める。必要に応じて、長崎短期大学が主催している白蝶講座を活用し個に応じた支援についての研究を深める。

8) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州文化学園小学校への内部進学促進 ✓ 預かり保育増員に対応できる職員配置の再構築 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州文化学園小学校との交流の様子を発信したり、実際に保護者に参観できる機会を設定したりしながら、九州文化学園小学校の特色や魅力を知らせ、小学校の施設・設備、教育活動の様子を見学いただくことで、小学校進学時の選択肢となるよう内部進学促進に向けて、小学校と連携強化を図る。 ✓ また、預かり保育のニーズが年々高まる状況への対応のため次の3点について留意する。①乳児部職員を含めた新たな職員配置を再構築する。②預かり専任となる正規雇用職員を担当者として配置し、子どもたちにとって安心、安全な環境づくりを進めさせる。③遊具や玩具など年次経過を策定しながら整備、安心・安全な環境を整備する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 九州文化学園小学校への内部進学促進	✓ 九州文化学園小学校へ通学しているきょうだい園児以外の保護者に対して、進学する小学校と選択肢に入るよう、九州文化学園小学校の特色や情報に触れる機会を小学校と連携しながら効果的に設定していく。
(2) 預かり専任担当者の確保	✓ 預かり専任となる正規雇用職員を配置し、子どもたちにとって安心、安全に過ごせる環境づくりを推進させる。
(3) 職員配置の再構築	✓ 幼児部職員だけによるシフトを改め、乳児部職員も含めたシフトを再構築することで、預かり園児の増員に対応する。
(4) 遊具や雁木などの整備	✓ 遊具や玩具の整備について年次計画を策定する。

9) 国際交流・留学生支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 外国籍園児の受け入れ体制の整備 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 外国籍園児の受け入れはこれまでの経験を生かし連絡等の徹底を図るため、通訳者の契約、日本の携帯電話契約、G.I.BILL.PAY SERVICES INC.との契約、および、ベース関係者においてはコマンドの申告を課した上で継続している。必要に応じて翻訳機の導入について検討する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 外国籍園児の受け入れ	✓ 複数年在籍する可能性の高い園児を優先させながら外国籍園児を受け入れる。

10) 学生募集・広報活動

計画の概要	
<募集・広報の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
<p>定員 270 人に対する充足率は令和 4(2022)年度 2 月において 84%、令和 5(2023)年度のスタート時は 76%、令和 6(2024)年度のスタート時は 81%、3 月で 84%である。そして、令和 7(2025)年度のスタート時は 79%だと予測される。年度全期間を通じた募集活動継続によって 85%を目指す。</p>	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 認知度向上のため、メディア露出の増加を図り、YOSAKOI させぼ祭りや防犯パレードなど全市的な催しには積極的に参加し、マーチング等を披露することで本園の特色を発信する。1 日体験入園をキッズフェスティバル開催日の午前中に設定し、作品を通して園の活動に触れていただく。さらに、未就園児教室の内容をリニューアルし、音楽や健康など職員の持ち味を生かした内容とする。園ホームページと SNS(インスタグラム)の充実を図り、日頃の園の様子を発信する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 報道依頼	✓ 年度初めに、テレビ佐世保に対して園の年間行事予定表を添付した報道依頼を行い、積極的に取材を受け入れる。
(2) 1 日入園体験の内容充実	✓ 例年開催している園行事キッズフェスティバルの午前中に時間帯を設定し、子

	どもたちの製作物や園の施設、保育、教育環境を実際に見ていただく。さらに、見学者に本園の特色や魅力についての理解を促すコーナーを設ける。
(3) 未就園児体験教室・園庭解放・教育相談の充実とPR	✓ 未就園児体験活動(こどもの城)の内容をリニューアルし、音楽や健康づくりなど、担当職員の得意とする分野で子どもたちが楽しく過ごせる時間や、保護者にとって育児のヒントを得る機会を設定することで、未就園児家庭へ本園の魅力や環境を周知させる機会とする。
(4) 園ホームページ、SNS および園便り等による園活動の広報と園児募集の周知	✓ 入園を検討する家庭に対しても必要な情報が効果的に伝わるよう、園ホームページの内容を充実させるとともに、SNS(インスタグラム)を通して日頃の子どもの様子を知らせる。在園保護者に対しては、園の魅力や特色ある活動によって子どもたちが成長する姿を園日よりSNS(インスタグラム)を通して伝え、満足度を高める。さらに、園児募集協力依頼(知り合いへの広報、募集ポスター掲示)を行う。
(5) 地域等への広報活動	✓ マーケティング等、地域行事や催しに積極的に参加し、園児の生き生きとした姿を通して、本園の特色や魅力をPRする。
(6) 募集活動の推進	✓ 年間を通した募集活動(幼稚園バス、園ホームページ)に加えて、園児募集時期においては園ホームページ、SNS(インスタグラム)を活用して広く広報活動を行う。

1 1) 教職員の人材開発(FD・SD)

計画の概要	
<人材開発の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 保育・教育に携わる者として専門性と資質および人権意識の向上	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 選ばれる魅力的な園であるための基盤は、園児一人一人を大切に、質の高い保育、教育を継続することである。その保育・教育の直接的な担い手となる教職員の資質向上は園経営において最重要課題である。保育・教育に携わる者として専門性と資質、人間性の向上に努めさせる。さらに、経験年数やその役割等キャリアに応じた研修に取り組みさせる。保育施設の特長として集合研修が難しい勤務形態であるが、学期1回集合研修を実施したい。また、令和5(2023)年度より実施している全職員との個人面談を継続して行い、個に応じた支援を行う。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 園内研修の実践	✓ 乳児部、幼児部それぞれにおいて、指導の研究および公開研究保育を行い指導方法の研究を深める。さらに、教育実習においては対象の生徒、学生に対して実践的、具体的な指導や助言を与える立場として自己研鑽に努める。
(2) 園外研修への参加	✓ 市幼稚園協会主催の保育・教育に関わる研修や、県・市幼児教育センター主催の保幼小連携に関わる研修の機会を活用し、外部から本園を捉えたり、他園、他校種と比較したりすることにより、保育、教育における視野を広げると共に研究を深める。
(3) 個人研修の推奨	✓ キャリアや役割に応じて必要とする研修に自ら取り組む。さらに、人権擁護セルフチェックなど、教職員として求められる道徳性や人間性など資質向上を図る。さらに今日的課題に対して敏感に反応し、関連する資料を読んだり、調べたりするなど学び続ける教職員としての姿勢を具現化する。
(4) 他施設の訪問	✓ 新規採用職員として本園で勤務している職員も10人以上在籍し、判断の基準が本園での経験が中心となるため、他施設を訪問できる機会を逃さず、他施設の保育・教育環境や内容について知ることで、発想の幅を広げさせる。
(5) 個人面談の継続	✓ 意向調書をもとに、全職員と個人面談を行い、業務に対する悩みや不安、やりがい等を知るとともに、将来的に必要となるスキルや資質等について話し合い適切な支援を行う。
(6) 茶道への取り組み	✓ 建学の精神を体現する茶道文化について、その理念や意義を十分に理解して尊重し、関連する行事・活動へ積極的に参加する。

1 2) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

計画の概要	
<連携強化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 地域や小学校、保護者の園活動への理解と支援の強化	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 地域の催し物に積極的に参加し、子どもたちの成長や活躍を披露する機会とする。保幼小連携活動においては久保小学校と連携し異年齢交流を深めると共に、進学に対する不安を払拭し、小学校生活への期待を増大させる。父母の会との連携強化によって、園活動への理解と支援を深めることで、園経営を活性化させる。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 同窓会(卒業生)との連携	✓ 現段階では卒園生にかかわる同窓会等の組織は存在しないため、その必要性や

強化	あり方等について検討する。
(2) 地域行事への参加	✓ 清水地区公民館祭りでの作品掲示や YOSAKOI 佐世保祭り等への参加によって、子どもたちの成長や活躍を披露し、園の活動を広報する機会とする。
(3) 保幼小連携活動	✓ 九州文化学園小学校および佐世保私立大久保小学校との保幼小連携活動によって、異年齢交流を深めると共に、小学校の生活環境や活動などを知ることによって、進学への不安を払拭し、入学への期待を増大させる。
(4) 父母の会との連携強化	✓ 父母の会との連携を強化することで、園活動に対する理解と支援を深め、保育・教育活動の充実を図ることで、園経営を活性化させる。

1 3) 学園内の連携促進

計画の概要	
<連携の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 学園内連携による本園の特色の充実	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 学園内との部門間連携の強化を図ることで、本園の行事や活動を充実させ、保育、教育の質を向上させる本園の特色と位置付ける。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 長崎国際大学との連携	✓ 園児への食育指導および学生によるボランティア活動。
(2) 長崎短期大学との連携	✓ 共通テーマによる研修と、保育、教育に関わる指導、助言および学生によるボランティア活動と教育実習の受け入れ。
(3) 歯科衛生士学院との連携	✓ 園児に対する歯磨き指導。
(4) 九州文化学園高校との連携	✓ 教育実習およびボランティア活動。
(5) 九州文化学園小学校との連携	✓ 英語教育および異年齢児とのふれあい交流活動および保幼小連携活動。本園からの内部進学促進。
(6) 長崎短期大学保育科との連絡協議会	✓ 連絡協議会の継続による連携強化。
(7) 学園内募集担当者会議	✓ 担当者会議の継続による園児募集強化。
(8) SDGs に関する連絡協議会	✓ 連絡協議会の継続。

1 4) SDGs の推進

計画の概要	
<SDGs 推進の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 九州文化学園グループ全体の SDGs に取り組む姿勢や考え方の認知向上。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 学園としての構想をもとにしながら、乳児、幼児に対しても理解することができ、保護者と連携しながら日常的に親子でも取り組める SDGs を推進する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 名切 SDGs フェスティバル	✓ 九州文化学園小学校と連携し、栽培活動に利用できる廃材を活用した如雨露を作成し、緑を増やし、緑を大切に活動に興味をもっていただく機会とする。
(2) 乳児幼児にも取り組める SDGs	✓ 乳児、幼児にも取り組むことが可能で、取り組む意義があり、その目的が感覚的に理解できる内容を精選し、保護者と連携しながら日常的に取り組む。

1 5) 管理運営と業務・経費効率化

計画の概要	
<管理運営と効率化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 教育理念や教育目標および、具現化の道筋の明確化による共通理解、共通実践の達成	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 強い身体と豊かな心を持つ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続けるため、教育理念や教育目標および、具現化の道筋を明確に示しながら、共通理解、共通実践を行う。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) PDCA 推進計画	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 園評価の分析結果によって「成果」と「課題」を明確化し、実践的に効果的な課題解決の具体方策を設定し、具現化の道筋を示しながら徹底を図る。 ✓ 第三者評価結果を保護者に公表し、園経営における説明責任を果たすとともに、子どもたちの健やかな成長のため連携を強化する共同体として、理解、協力を得る。 ✓ 職員組織については副主幹 2 人を設定し、補佐体制の強化・改善を目指す。
(2) 関係機関等との連携	✓ 園経営にかかわる法令等を順守し、関係機関からの指導や支援を経営に生かすため日頃より情報交換を密に行う関係性を構築する。

(3) 健全な財務基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 専門家等の調査やアドバイスを活用しながら、計画的・効率的な経費執行による支出管理を遂行する。 ✓ 令和 7 年度教育支援体制整備事業費補助金(緊急環境整備・ICT 化支援)の有効活用に向けて準備する。
(4) 労務管理の改善	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 働き甲斐があり、働きやすい職場にするため、職員による自己評価の結果を分析し、職場環境にかかわる課題を整理し、計画的に改善のための手立てを実践する。各自が組織の一員として園経営に参画できるよう個々の意見や考えを園経営に生かしていく。 ✓ 預かり園児の増加に伴い、乳児部、幼児部共同の職員配置を構築し、試行しながら改善を重ね、保育・教育の質の向上を図る。

16) 施設・設備・システム等の環境整備

計画の概要	
<環境整備の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 安全な園生活や業務効率化のできる環境の整備 	
<計画の概要(項目・取組の要約)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 平成 18(2006)年に現在地に新築移転し 18 年経過した。施設設備の経年劣化が進み、空調設備については 5 年計画で新しい機器と入れ替えを行い令和 8(2026)年度に終了する。その他外壁や屋上、デッキなどについては多額の費用が必要となるため、大規模な補修・改修について年次計画を策定する。 ✓ 安全な園生活のために、送迎バス車内の幼児所在の見落としを防止するため改定した安全マニュアルを年度毎に見直し、保護者と共有する。安全管理マニュアルの理解を深めるために、行政作成の資料を活用し、研修を実施する。 ✓ 職員の業務を支援する ICT システム導入について具体的に検討する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 施設設備の経年劣化対応	✓ 外壁の塗り替え、外壁の亀裂、屋上の防水塗装、木製デッキ補修などの年次計画の策定と長寿命化計画の策定。
(2) 送迎バスの安全	✓ バス送迎安全マニュアルおよびコースの見直し
(3) 安全にかかわる研修	✓ 行政作成の資料を活用し、安全管理マニュアルの理解を深める。
(4) 園内 LAN 構築とネットワーク	✓ 職員の業務の効率化とセキュリティ対策向上のため昨年度に園内 LAN を構築した。今後は職員の業務を支援する ICT システム導入について具体的に検討する。

17) 点検評価

計画の概要	
<点検評価の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 職員の当事者意識の向上による園経営への参画 ✓ 保護者の園の活動への理解と協力の獲得 	
<計画の概要(項目・取組の要約)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 園評価(職員による自己評価、全保護者を対象とした保護者評価、学校関係者による外部関係者評価)を継続し、経年による評価結果の比較を行う。職員による自己評価と保護者評価の結果から職員個々の視点で「成果」と「課題」を整理させることで、評価結果を多面的に分析し、次年度に生かすと共に、当事者意識を高め、園経営に参画させる。これらの評価を総合的に分析し、園経営方針において重点課題として明記し、一点突破により取り組みの効果上げる。成功体験を実感させることで、PDCA サイクルによる取り組みの意義やよさを全職員に理解させる。評価結果については保護者へ周知し、園の活動について理解と協力を得る。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 職員による自己評価	✓ 経年による変化を知るために、同項目について全職員による自己評価を実施する。さらに、自己評価および保護者評価の結果から、各立場や役割によって「成果」と「課題」の絞り込みを行い、次年度の方向付けとなる資料とする。
(2) 全保護者を対象とした保護者評価	✓ 園に対する期待や願いを含め、全家庭を対象にした保護者評価の実施によって、普段聞けない保護者の声や考えを知る機会とする。さらに、その評価結果を分析することにより園の魅力と課題を明確化する。
(3) 外部関係者評価	✓ 自己評価の結果と保護者評価の結果を受け、各項目に対する改善策について、外部関係者評価(第三者評価)を実施、評価や改善策に対するアドバイスをいただく機会とする。また、その結果を次年度の方向付けとなる重点課題として整理する。

18) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

計画の概要	
<計画の概要(項目・取組の要約)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 1 号認定園児数の減少に伴い送迎バス利用者が減少し、経費(燃料、保険、補修、リース費用、人件費等)の高騰が 	

ら収支に対する影響が大きくなっている。将来的なバス運行の在り方について運営費の増加と、利用者の利便性を考慮しながら方向性を整理する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) バス運行の在り方検討	✓ バス利用者減少にともなうバス運行のスリム化(コース削減、便数削減)および、バス送迎をしないことも含め、将来的なバス運行の在り方と方向性について整理する。

VIII. 九州文化学園調理師専門学校

A. 中期計画に掲げた経営理念・経営目標

5カ年の 設置校経営理念	高度な調理技術の習得と社会に貢献できる調理師の育成
5カ年の 設置校経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 自主・自律を重んじ、積極的で意欲のある学生の育成 ● 地域・社会に貢献できる専門性の高い調理師の育成

B. 中期計画に掲げた各戦略の目標達成に向けた本年度の事業方針

区分	目標達成に向けた本年度の事業方針
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の精神と理念に基づき、社会に貢献しうる調理師の育成 ✓ 実習講師の人材発掘と高度な調理技術の習得 ✓ 建学の精神を体現し、礼儀作法が身についた即戦力となりうる人材の育成
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生の就職先としてのインターンシップ先の開拓および学生への就職情報の拡大 ✓ 修学支援新制度および専門実践教育訓練給付金制度の周知と的確な運用 ✓ インターンシップおよび学生レストランの充実 ✓ 企業奨学金の開拓
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域連携の食育活動 ✓ 食品関連企業とのコラボによる施設開放 ✓ 学生就職先としての有名ホテルとの提携先開拓
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ SNS 活用による情報発信 ✓ 必要時における遠隔授業の実施と Wi-Fi 環境の整備 ✓ WEB 出願の検討
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地元メディアおよび交通機関を利用した情報発信 ✓ HP・SNS・ポスター・パンフレット・進学ガイダンス等での情報発信の強化 ✓ 地域の小中高校生の料理教室や料理コンテストの開催
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財政面における支出内容の見直しと補助金制度の活用 ✓ 日本語学校との連携による留学生の確保 ✓ 修学支援新制度、学生サポート制度、社会人減免制度の周知
学園内の 連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他部門からの講師派遣によるカリキュラムの充実 ✓ 九州文化学園高校からの体験入学の促進 ✓ 留学生募集の情報交換
付帯計画 と課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期計画を反映した事業計画の作成と年度末に事業報告書での達成状況の検証 ✓ 調理機器や施設設備の耐用年数期限による修繕費等の捻出 ✓ 学生募集の強化(定員確保)による安定した財政

C. 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有

区分	内容
1 定量的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 少子高齢化による入学者数定員割れによる学納金等収入減 ✓ 校舎移転から18年経過して、施設設備の取替工事や修繕の増加 ✓ 物価上昇、電気基本料金等の値上がりによる支出の増加
2 定性的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 調理師養成校の中には、募集を停止する学校が出ている ✓ 学生の多様化や生活環境の変化による進学先のミスマッチ ✓ 調理師の求人倍率は10倍以上と需要は高い
3 経営・募集戦略上 強みとなる魅力・特色	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内に競合校はない ✓ 創立55年目、卒業生数は2,000人以上の伝統と実績 ✓ 即戦力を意識し、人間力の向上を目指した魅力的なカリキュラム編成 ✓ 学校法人九州文化学園の長崎国際大学・長崎短期大学など他部門からの協力と連携 ✓ 面倒見がよく、チームワークの良い教職員集団による手厚いサポート

D. 本年度の事業計画

1) サマリー

計画全体の概要
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の精神に基づき、社会に貢献しうる調理師の育成を目指すことが、教育目標の柱である。そのために以下の目標をたてた。 ✓ 学生が将来の目標に向かって、充実した学生生活を送ることができる体制をつくる。 ✓ 建学の精神をベースとした魅力的な教育活動を展開できる教職員チームをつくる。 ✓ ステークホルダーとの連携強化により相互の信頼関係を築き、充実した教育活動と学生支援活動を実践する。 ✓ 学園内の連携促進により、教育活動と学生支援活動の充実を図る。

✓	調理師の立場から食物ロスの減少と地産地消の推進という目標を柱とした SDGs 推進活動を展開する。
✓	管理運営と業務・経費効率化により健全な学校経営を実行し、地域社会の信頼と社会貢献度の向上に繋げる
✓	学生が安心して教育活動・学校生活をおくり、職員も業務に専念できる施設設備システム等の環境整備を行う。
✓	PDCA サイクルを実行することで、組織力を向上し、学生・保護者・地域からの信頼を得ることに繋げる。

2) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組

	基本方針	学校全体の取組概要
1	成長力の確保 (現状維持ではなく成長に向けた原動力の確保策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ インターンシップ先の開拓と学生レストラン充実させる ✓ 社会・時代・学生のニーズを組み入れ、調理に関する多くの知識・技術を学び、人間力の向上を目指した魅力的なカリキュラムを検討する
2	教育力の向上 (教育の質向上と、組織・教職員個々の能力向上策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ オンラインを含めた各種研修会の開催情報を収集し、可能な限り参加する ✓ 講師を招いた校内研修会を開催する ✓ 人間力向上に向け学生自治活動を積極的に実施できる体制を作る
3	約定返済の確実な履行 (増収と経費効率化による健全な財務基盤の構築策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 調理師の仕事の魅力・オープンキャンパスの案内等を広く地域に周知するために、各種ガイダンス・地域行事・高校訪問・ポスター掲示・マスコミの活用・ホームページや Instagram などを通して、魅力的で効果的な情報発信を行う ✓ 補助金による施設設備の充実を検討する

3) 経営改善(健全化)に関する施策

	区分	施策の概要
1	収入の増加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 募集活動の強化 ✓ 校納金の見直し ✓ 補助金制度の活用
2	支出の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 節電節水等省エネ推進活動 ✓ カリキュラムの見直し・各行事のスリム化・ガイダンスの見直しでコスト削減
3	人員・業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタルデータの活用と情報共有 ✓ 紙媒体・デジタル媒体での資料整理
4	付加価値向上と広報強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 料理教室や料理コンテストの継続とマスコミ活用 ✓ ホームページや Instagram を見てもらうための動画やポスターの作成
5	第3期中期計画の策定に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期計画作成委員会を設置し、会議を開催 ✓ 地域社会のニーズや同種の専門学校の情報を収集・整理し、長崎県唯一の調理師専門学校として、地域に貢献できる計画を策定

4) 学部・学科・課程・コース・専攻科、研究科・専攻、学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針
1 学年	✓ 時間厳守、挨拶の励行、学校・地域行事への積極的参加、資格取得
2 学年	✓ 自主自立、接遇マナー習得、学校・地域行事への積極的参加、資格取得

5) 教育活動

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
✓ 建学の精神に基づき、社会に貢献しうる調理師の育成を目指す	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 即戦力を意識したカリキュラムの充実	
✓ インターンシップの実施	
✓ 学生レストラン「メランジェ」の実施	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 即戦力を意識したカリキュラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 西洋・中華・日本料理の基礎から応用までの調理実習と高度調理実習の実施 ✓ レストランプロデュース・カップリングカフェ&リカー・フードサービス実習・接遇作法Ⅱの充実 ✓ 資格取得(カフェクリエイター・介護食士・サービス接遇・色彩) ✓ 調理関連学習(テーブルマナー・テーブルセッティング・シュガーデコレーション・介護食士3級) ✓ 卒業生講師の積極的な採用
(2) インターンシップの実施	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1年生春期休暇中7日間・2年生夏期休暇中15日間 ✓ 学生が自主的に計画し実施できるような体制を作り、就職への足掛かりとする
(3) 学生レストランの実施	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 年6回の実施と充実 ✓ フードサービス実習と集団給食実習の充実

6) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

計画の概要

<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 学則変更による募集定員減の周知	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 令和 7(2025)年 4 月 1 日付け学則変更により募集定員減	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 募集定員減	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和 7(2025)年 4 月 1 日付け学則変更 ✓ 学生募集要項の変更(定員 40 人を 30 人に変更) ✓ ホームページ等での周知

7) 研究活動

計画の概要	
<研究活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 関係機関や学内からの研究に関するアンケートや調査の依頼に協力する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ アンケートや調査に協力する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 研究活動への協力	✓ 研究活動へのアンケートや調査に協力する

8) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 学生が将来の目標に向かって、充実した学生生活を送る	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学習に関する支援は「5)教育活動の取組」を実施していく。 ✓ 経済な支援、就職支援、悩みや相談・生活支援などは、関係機関と連携し、家庭と情報を共有しながら丁寧にサポートしていく。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 修学支援新制度・学生サポート制度の周知と適切な対応 ✓ アルバイト先の紹介
(2) 悩みや生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スクールカウンセラー・生活相談員と連携し、家庭や関係機関と情報を共有 ✓ 面談週間の設定
(3) 就職支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 求人票などの情報提供とタイムリーな面接指導 ✓ 講師・卒業生との連携 ✓ 新規就職先の開拓、企業奨学金の新規開設準備
(4) 留学生対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日本語学習のサポート体制 ✓ 特定技能試験合格サポートと就職支援 ✓ アルバイト先の紹介
(5) 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1年保護者会の実施 ✓ 学生レストランへの招待 ✓ 卒業記念食事会への招待 ✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有

9) 国際交流・留学生支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 国際交流・留学生支援活動を通して国際的視野を広げる。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 関係機関の国際交流・留学生支援活動の依頼に関して協力する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 国際交流・留学生支援活動への協力	✓ 国際交流・留学生支援活動の依頼に関して協力する。

10) 学生募集・広報活動

計画の概要	
<募集・広報の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 募集定員の 30 人を確保する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 魅力的で効果的な情報発信に努める。 ✓ 魅力あるオープンキャンパスの開催と効果的な周知活動を展開する。 ✓ 高校生体験入学や高校生料理コンテストの開催 	
項目名・取組名	具体的取組・目標

(1) 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ホームページの更新・Instagram の更新 ✓ 進路ガイダンス・高校訪問 ✓ ポスター掲示(オープンキャンパス案内) ✓ 路線バスでの車内アナウンス継続 ✓ テレビ局や新聞社への取材依頼 ✓ 地域行事への参加
(2) オープンキャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 年 8 回実施 ✓ 高校生の参加者数の目標 80 人(高校 3 年生は 60 人)以上 ✓ 案内用ポスターやチラシの作成と配布
(3) 体験入学および 高校生料理コンテスト等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 体験入学の受入れ(年間 4 校以上) ✓ 高校生料理コンテスト開催 ✓ 小学生料理教室開催
(4) 指定校推薦制度	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指定校の見直し

1 1) 教職員の人材開発(FD・SD)

計画の概要	
<人材開発の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> ✓ 建学の精神をベースとした魅力的な教育活動を展開できる教職員チームをつくる。	
<計画の概要(項目・取組の要約)> ✓ 各種研修会への参加と校内研修会の実施	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 研修会への参加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長期休業を利用した研修会への参加 ✓ 実習時に残った食材を利用したレシピの開発 ✓ 全国調理師養成施設協会関連の研修会 ✓ 全国調理職業訓練協会関連の研修会 ✓ 地元企業・団体による研修会
(2) 校内研修会	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育・生活指導に関する研修会 ✓ 参加した外部研修会の報告会

1 2) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

計画の概要	
<連携強化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> ✓ ステークホルダーとの連携強化により相互の信頼関係を築き、充実した教育活動と学生支援活動を実践する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)> ✓ 保護者・同窓会・地域社会・歯科医師会・関係団体等それぞれとの行事や会議などの様々な取組を一つ一つ丁寧に実施していくことで信頼関係を構築する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 同窓会(卒業生)との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州文化学園 80 周年行事に向けた同窓会役員会の開催 ✓ 同窓会連絡網の確認と整備 ✓ 設備の補充および新設への協力体制作り
(2) 保護者との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1 年保護者会の実施 ✓ 学生レストランへの招待 ✓ 卒業記念食事会への招待 ✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有
(3) 全日本司厨士協会等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全日本司厨士協会との連携 ✓ 全国調理師養成施設協会との連携 ✓ 全国調理職業訓練協会との連携
(4) 地域社会および関係団体との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 南地区自治協議会および藤原町 2 組との連携 ✓ 小学生料理教室開催 ✓ 木風小学校生の町中探検隊の受入れ ✓ 地域行事および関係団体行事への参加およびサポート

1 3) 学園内の連携促進

計画の概要	
<連携の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> ✓ 学園内の連携促進により、教育活動と学生支援活動の充実を図る。	
<計画の概要(項目・取組の要約)> ✓ 学園内の様々な連絡会議や行事への積極的な参加と協力をする。 ✓ 本校の情報を学内に情報発信し理解と協力を得る。	
項目名・取組名	具体的取組・目標

(1) 九州文化学園高校体験入学および進学ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州文化学園高校生の体験入学 ✓ 九州文化学園高校進学ガイダンスでの学校紹介 ✓ 九州文化学園高校オープンスクールでの保護者への説明
(2) 茶道大会	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 茶道大会をはじめとする各部門の茶道関係行事への参加
(3) 調査研究依頼	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 調査研究アンケート依頼への協力
(4) 各種連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学園責任者連絡会、事務局長会、学園募集担当者会、SDGs 担当者会等
(5) 歯科衛生士学院との連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学園祭の共同開催 ✓ 学院生の調理実習(1・2年生、年に2回ずつ) ✓ 火災避難訓練の合同実施 ✓ 集団給食実習への食事注文協力依頼

14) SDGs の推進

計画の概要	
<SDGs 推進の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 調理師の立場から、食物ロスを減らす、地産地消、食育活動など SDGs 推進活動を展開する。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 名切 SDGs フェスティバルに参加することで、学生の SDGs に対する意識付けが出来ると同時に、参加者に食物ロスを減らすことの大切さや地産地消の推進などを考えてもらう。 ✓ 日々の調理実習も SDGs 推進に繋げた実習にする。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 名切 SDGs フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ テーマ「もったいないからおいしいに九文調理 2025」 ✓ 内容は、地元でとれたおいしい規格外の食材を利用して、様々な食品を作って販売する ✓ 趣旨は、食物ロス減少活動および地産地消の推進
(2) 食物ロス減少活動 地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 実習時に残った食材を利用したレシピの開発 ✓ 地元食材を利用した調理実習
(3) 地域行事への参加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域行事や関連団体行事への参加 ✓ 地域清掃活動
(4) ペットボトルキャップ回収	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ペットボトルキャップを回収しワクチンに交換する

15) 管理運営と業務・経費効率化

計画の概要	
<管理運営と効率化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 管理運営と業務・経費効率化により、健全な学校経営を実行していくことで、地域社会の信頼と社会貢献度の向上に繋げる。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 予算の適切な執行および補助金制度の活用 ✓ 情報セキュリティポリシーの徹底と紙媒体とデジタルデータの整理 ✓ 働き方等の労務管理の改善 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 予算の適切な執行および省エネ推進活動	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期計画に則した予算編成と適切な執行 ✓ 常に支出の見直しを旨るとともに省エネ推進活動を行う
(2) 補助金制度の活用	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各種補助金制度の積極的活用
(3) 規程・規則の適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 規則・規程および文書処理の適切な管理と運用 ✓ 規則・規程の確認および見直しと整備
(4) 情報セキュリティマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 情報資産管理台帳の確認および見直しと整備 ✓ 情報セキュリティポリシーの周知徹底

16) 施設・設備・システム等の環境整備

計画の概要	
<環境整備の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生が安全に安心して教育活動および学校生活をおくり、職員も業務に専念できるよう施設設備システム等の環境整備を行う。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 安全第一主義で施設設備の点検を行う。 ✓ 異常または不安な箇所が出た場合は、専門業者と連絡をとり早急に対応する。また急を要しない場合には中長期的に修繕・修理・更新等の計画を立て実行する。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 施設設備の定期点検	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 消防立ち入り検査、貯水槽清掃点検、消防設備点検、電気設備年次点検等

	✓ 消防設備自主点検(年2回)
(2) 修繕・修理計画	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用年数に応じた修理・修繕・更新計画 ✓ 施設設備について、専門業者との情報交換 ✓ ICT環境整備(Wi-Fi環境整備)計画
(3) 清掃・環境美化活動	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日々の清掃、始業日終業日の清掃、行事ごとの清掃 ✓ 季節に応じた環境美化活動

17) 点検評価

計画の概要	
<点検評価の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ PDCA サイクルを実行することで、組織力を向上し、学生・保護者・地域からの信頼を得ることに繋げる。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 学生や職員の自己評価に基づき、学校関係者評価委員会を開催し学校関係者評価委員に評価をお願いする。その評価は、ホームページ等を通して公表し、次年度の事業計画等に活かす。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 学校関係者評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 委員を5人委嘱する ✓ 年2回(8月と2月)に開催する ✓ 2月の会議終了後に評価表を提出してもらう ✓ 評価は、本年度の事業報告書と次年度の事業計画書に反映する
(2) 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生自己評価の実施(12月上旬) ✓ 職員自己評価の実施(12月下旬)
(3) 学事振興課への報告	✓ 3月上旬に報告書を提出する
(4) ホームページ掲載	✓ 3月下旬に本校ホームページに掲載する

18) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

計画の概要	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 該当なし	
項目名・取組名	具体的取組・目標
該当なし	

IX. 九州文化学園歯科衛生士学院

A. 中期計画に掲げた経営理念・経営目標

5カ年の設置校経営理念	資格取得のための知識と高い技術を養い、社会に貢献しうる人間教育を目指す
5カ年の設置校経営目標	歯科衛生教育に関する施設・行政と連携し、有能な歯科衛生士育成教育を行うため、研修・研究を重ね学生指導に努める

B. 中期計画に掲げた各戦略の目標達成に向けた本年度の事業方針

区分	目標達成に向けた本年度の事業方針
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の精神と理念に基づき、地域社会に貢献しうる歯科衛生士の育成 ✓ 多分野での臨床実習の実施と建学の精神を体現する茶道教育を中心に捉えた人間教育の実施 ✓ 指導力向上に向けた職員研修への積極的な参加
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ より効果的な国家試験対策を目指したカリキュラムの見直し ✓ 実習内容の見直しと実習教育機関との連携強化により臨床実習の充実 ✓ 修学支援新制度および専門実践教育訓練給付金制度の周知と的確な運用
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各教育機関で歯磨き教室およびブラッシング指導の実施 ✓ 関係施設・大学病院・地元歯科医師会との連携による地域への予防歯科の啓蒙
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ICT機器設備と職員研修の充実を図り活用方法についての学生への提供 ✓ 必要時における遠隔授業の実施
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地元メディアおよび交通機関を利用した情報発信 ✓ 職業実践専門課程認可校・文科省修学支援新制度対象校・専門実践教育訓練給付金指定講座の周知 ✓ HP・SNS・ポスター・パンフレット・進学ガイダンス等での情報発信の強化
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財政面における支出内容の見直しと補助金制度の活用 ✓ 専門実践教育訓練給付金指定講座の周知と継続 ✓ 修学支援新制度への対応
学園内の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他部門からの講師派遣によるカリキュラムの充実 ✓ 九州文化学園高校からの体験入学の促進 ✓ 九州文化学園小中幼稚園でのブラッシング指導の充実および九州文化学園中学校キャリア学習への協力
付帯計画と課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期計画を反映した事業計画の作成と年度末に事業報告書での達成状況の検証 ✓ 職員の高齢化に伴う若年層の採用 ✓ 学生募集の強化(定員確保)による安定した財政

C. 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有

	区分	内容
1	定量的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 少子高齢化による入学者数定員割れによる学納金等収入減 ✓ 校舎移転から18年経過して、施設設備の取替工事や修繕の増加 ✓ 物価上昇、電気基本料金等の値上がりによる支出の増加
2	定性的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大都市以外の歯科衛生士養成校の志願者数定員割れ ✓ 学生の多様化や生活環境の変化による進学先のミスマッチ ✓ 歯科衛生士の求人倍率は10倍以上と需要は高い
3	経営・募集戦略上強みとなる魅力・特色	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内の競合校は1校のみ ✓ 創立45年目、卒業者数は1,365人の伝統と実績 ✓ 茶道・華道・調理など人間力の向上を目指したカリキュラム編成 ✓ 学校法人九州文化学園の大学短大など他部門からの協力と連携 ✓ 真面目でチームワークの良い教職員集団による手厚い国家試験対策

D. 本年度の事業計画

1) サマリー

計画全体の概要	
✓	入学者が全員卒業し全員国家試験に合格し全員就職すること、そして歯科衛生士として地域の歯科医療に貢献することが、学生に期待することであり本学院の教育目標の柱である。そのために以下の目標をたてた。
✓	学生が将来の目標に向かって、充実した学生生活を送ることができる体制をつくる。
✓	建学の精神をベースとした魅力的な教育活動を展開できる教職員チームをつくる。
✓	ステークホルダーとの連携強化により相互の信頼関係を築き、充実した教育活動と学生支援活動を実践する。
✓	学園内の連携促進により、教育活動と学生支援活動の充実を図る。
✓	歯科衛生士の立場から「すべての人に健康と福祉を」という目標を柱としたSDGs推進活動を展開する。
✓	管理運営と業務・経費効率化により健全な学校経営を実行し、地域社会の信頼と社会貢献度の向上に繋げる
✓	学生が安心して教育活動・学校生活をおくり、職員も業務に専念できる施設設備システム等の環境整備を行う。

✓ PDCA サイクルを実行することで、組織力を向上し、学生・保護者・地域からの信頼を得ることに繋げる。

2) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組

	基本方針	学校全体の取組概要
1	成長力の確保 (現状維持ではなく成長に向けた原動力の確保策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 実習先および実習内容の見直しと新たな実習先の開拓をする ✓ 実習期間の出席状況や取り組む姿勢等を実習受入機関と学校と家庭が情報を共有し学生の支援体制を構築する
2	教育力の向上 (教育の質向上と、組織・教職員個々の能力向上策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国家試験対策に効果的な教育カリキュラムを編成し、次年度から実践できるように学則等を見直しをする ✓ 基礎学力および生活・学習習慣診断テストを実施し、学生の個別指導を充実させ成績不審者対策に役立てる ✓ 人間力向上に向け学生自治活動を積極的に実施できる体制を作る
3	約定返済の確実な履行 (増収と経費効率化による健全な財務基盤の構築策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 歯科衛生士の仕事の魅力・男子学生受入れ可・オープンキャンパスの案内等を広く地域に周知するために、各種ガイダンス・地域行事・高校訪問・ポスター掲示・マスコミの活用・ホームページや Instagram などを通して、魅力的で効果的な情報発信を行う ✓ 補助金による施設設備の充実を検討する

3) 経営改善(健全化)に関する施策

	区分	施策の概要
1	収入の増加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 募集活動の強化 ✓ 入学金の見直し ✓ 補助金制度の活用
2	支出の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 節電節水等省エネ推進活動 ✓ カリキュラムの見直し・各行事のスリム化・ガイダンスの見直しでコスト削減
3	人員・業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタルデータの活用と情報共有 ✓ 紙媒体・デジタル媒体での資料整理
4	付加価値向上と広報強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ブラッシング指導で地域へ出向く回数は、増加している。対面で実施できない場所には、積極的に DVD を配布し活用してもらう ✓ ホームページや Instagram を見てもらうための動画やポスターの作成
5	第3期中期計画の策定に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期計画作成委員会を設置し、3回会議を開催する ✓ 歯科医療教育機関および同種の専門学校の情報収集・整理し、5年後は本校が歯科衛生士養成機関の先進校となるように計画を策定する

4) 学部・学科・課程・コース・専攻科、研究科・専攻、学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針
1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 基本的な生活習慣の定着、学校・地域行事への積極的参加、家庭学習の定着 早期国家試験対策
2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 接遇マナー習得、臨床実習の充実、学校・地域行事への積極的参加、家庭学習の定着、早期国家試験対策、就職への意識付け
3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 臨床実習の充実、国家試験合格、就職決定(県内7割以上)

5) 教育活動

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 入学者が全員卒業し全員国家試験に合格し全員就職すること、そして歯科衛生士として地域の歯科医療に貢献することが、学生に期待することであり本学院の教育目標の柱である。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国家試験対策の強化と家庭学習習慣の定着 ✓ 臨床実習等の充実により歯科医療技術の修得と歯科保健活動の実践的修得 ✓ 学校行事や地域行事への積極的参加および茶道教育や接遇マナー教育等による人間力の向上 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 国家試験合格 100%	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 早期取組(1年生から国家試験対策として模擬試験実施) ✓ 模擬試験 14 回実施・冬季補習実施 ✓ 担当制指導により個別にきめ細かく指導 ✓ 全職員による模擬試験点数分析会議の実施 ✓ 国家試験対策講座開催
(2) 歯科医療技術の修得と歯科保健活動の実践的修得	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 臨床実習(2年生 30 日間、3年生 90 日間)実施 ✓ 高齢者施設・障がい者支援施設・リハビリテーション病院・大学病院での臨床実習

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 矯正歯科見学・佐世保中央保健福祉センター・佐世保総合医療センターでの臨地実習 ✓ 歯科医療関係研修会参加 ✓ 地域の幼稚園や小中学校でのブラッシング指導
(3) 学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 入学前プログラムの全員参加 ✓ 基礎学力診断テストおよび生活学習習慣診断テストの実施 ✓ 卒業生による体験講話とアドバイス
(4) 人間力向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 救急救命技能取得 ✓ 学生自治活動の活性化および SDGs 推進活動の充実 ✓ 茶道・華道・調理実習の充実 ✓ 接遇マナー講座と接遇マナー検定 3 級試験の実施

6) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

計画の概要	
<教育活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> ✓ 学則 第3章 教育課程の見直しをはかり国家試験合格に向けた効果的な教育カリキュラムを編成する	
<計画の概要(項目・取組の要約)> ✓ カリキュラム検討委員会の設置と開催 ✓ 学則変更の手続き	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 教育課程の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育課程編成チーム設置 ✓ 未来を見据え、本校の実状に合った効果的な教育カリキュラムを編成する ✓ 学則変更に向けた手続き

7) 研究活動

計画の概要	
<研究活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> ✓ 関係機関や学内からの研究に関するアンケートや調査の依頼に協力する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)> ✓ アンケートや調査に協力する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 研究活動への協力	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 研究活動へのアンケートや調査に協力する

8) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> ✓ 学生が将来の目標に向かって、充実した学生生活を送る	
<計画の概要(項目・取組の要約)> ✓ 学習に関する支援は「5)教育活動の取組」を実施していく。 ✓ 経済的な支援、就職支援、悩みや相談・生活支援などは、関係機関と連携し、家庭と情報を共有しながら丁寧にサポートしていく。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 修学支援新制度・専門実践教育訓練給付金指定講座・学生サポート制度の周知と適切な対応 ✓ アルバイト先の紹介
(2) 悩みや生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スクールカウンセラー・生活相談員と連携し、家庭や関係機関と情報を共有 ✓ 学生主体の行事や学生自治活動の活性化により学生同志が交流できる機会を多く設定する ✓ 面談週間の設定
(3) 就職支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生の意思を尊重し求人情報の周知と説明会や見学会の実施など適切に対応

9) 国際交流・留学生支援活動

計画の概要	
<支援活動の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)> ✓ 国際交流・留学生支援活動を通して国際的視野を広げる。	
<計画の概要(項目・取組の要約)> ✓ 関係機関の国際交流・留学生支援活動の依頼に関して協力する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 国際交流・留学生支援活動への協力	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際交流・留学生支援活動の依頼に関して協力する。

10) 学生募集・広報活動

計画の概要	
<募集・広報の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 募集定員の40人を確保する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 魅力的で効果的な情報発信に努める。	
✓ 魅力あるオープンキャンパスの開催と効果的な周知活動を展開する。	
✓ 歯科医師会と連携した周知活動の強化	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ホームページの更新・Instagramの更新 ✓ 進路ガイダンス・高校訪問 ✓ ポスター掲示(オープンキャンパス案内) ✓ 路線バスでの車内アナウンス継続 ✓ テレビ局や新聞社への取材依頼 ✓ ブラッシング指導・職業体験教室・地域行事への参加
(2) オープンキャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 年8回実施 ✓ 高校生の参加者数の目標80人(高校3年生は60人)以上
(3) 体験入学	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 体験入学の受入れ(年間4校以上)
(4) 指定校推薦制度	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指定校の見直し

11) 教職員の人材開発(FD・SD)

計画の概要	
<人材開発の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 建学の精神をベースとした魅力的な教育活動を展開できる教職員チームをつくる。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 各種研修会への参加と校内研修会の実施	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 研修会への参加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 歯科衛生士専任教育講習会・歯科衛生士教育協議会・学会大会・佐世保市歯科医師会主催研修会等への参加 ✓ 全国歯科衛生士教育協議会九州大会長崎大会の運営サポート ✓ 県専各連主催の各種研修会への参加
(2) 校内研修会	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育機関の学生の成績・生活に関する検討会 ✓ 国家試験対策検討会 ✓ 教育・生活指導に関する研修会 ✓ 参加した外部研修会の報告会

12) ステークホルダーとの連携強化(特に同窓会)

計画の概要	
<連携強化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ ステークホルダーとの連携強化により相互の信頼関係を築き、充実した教育活動と学生支援活動を実践する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 保護者・同窓会・地域社会・歯科医師会・関係団体等それぞれとの行事や会議などの様々な取組を一つ一つ丁寧に実施していくことで信頼関係を構築する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 同窓会(卒業生)との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 一華会(同窓会)役員会の開催 ✓ 九州文化学園80周年行事に向けた役員会の開催 ✓ 同窓会連絡網の確認と整備 ✓ 学生募集の協力依頼(LINEを利用した情報発信等)
(2) 保護者との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保護者面談期間(7月・8月) ✓ 電話連絡およびプリント配布等タイムリーな情報共有
(3) 佐世保市歯科医師会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 佐世保市歯科医師会との連携 <ul style="list-style-type: none"> ① 歯科医による市内就職に関する講話 ② 歯科医院合同就職説明会 ③ 院内見学 ④ 担当者連絡協議会(年3回) ✓ 長崎県内と佐賀県内の歯科医師会との連携 ✓ 学生募集に関する協力体制の強化(歯科医院でのポスター貼付等)
(4) 地域社会および関係団体との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 南地区自治協議会主催コミセン祭りへの参加 ✓ 地域清掃ボランティア活動

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 木風小学校生の町探検隊の受入れ ✓ デンタルフェスティバルでの補助活動 ✓ 8020 運動の推進活動
--	--

1 3) 学園内の連携促進

計画の概要	
<連携の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 学園内の連携促進により、教育活動と学生支援活動の充実を図る。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 学園内の様々な連絡会議や行事への積極的な参加と協力をする。	
✓ 本校の情報を学内に情報発信し理解と協力を得る。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 歯磨き教室 ブラッシング指導 体験入学 進学ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園での歯磨き教室 ✓ 九州文化学園小中学校でのブラッシング指導 ✓ 九州文化学園中学校生の体験入学 ✓ 九州文化学園高校生の体験入学 ✓ 九州文化学園文高校進学ガイダンスでの学校紹介 ✓ 九州文化学園高校オープンスクールで保護者への説明
(2) 茶道大会	✓ 茶道大会をはじめとする各部門の茶道関係行事への参加
(3) 九州文化学園グループとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 三川内保育園での歯磨き教室 ✓ 世知原老人ホームでの臨床実習 ✓ 長崎リハビリテーション病院での臨床実習
(4) 各種連絡会議	✓ 学園責任者連絡会、事務局長会、学園募集担当者会、SDGs 担当者会等
(5) 調理師専門学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学園祭の共同開催 ✓ 学院生の調理実習(1・2年生、年に2回ずつ) ✓ 火災避難訓練の合同実施 ✓ 集団給食実習への食事注文協力

1 4) SDGs の推進

計画の概要	
<SDGs 推進の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 歯科衛生士の立場から「すべての人に健康と福祉を」という目標を柱とした SDGs 推進活動を展開する。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 名切 SDGs フェスティバルに参加することで、学生の SDGs に対する意識付けが出来ると同時に、参加者に歯科衛生士の仕事や歯の健康の大切さを理解してもらう。	
✓ ブラッシング指導や地域行事への参加も SDGs 推進に繋がっていることを理解する	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 名切 SDGs フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ テーマ「カッコイイ歯科衛生士になってみよう」 ✓ 内容は、歯科衛生士のお仕事体験 ✓ 趣旨は、歯科医院で使用されている材料に触れ歯科医療に関する意識を高めてもらうことと本学院の事を知ってもらうこと。
(2) 歯科保健活動	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デンタルフェスティバルでの補助活動 ✓ 地域の幼稚園や小中学校でのブラッシング指導 ✓ 8020 推進運動
(3) 地域行事への参加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の祭りへの参加 ✓ 地域の健康推進活動行事への参加 ✓ 地域清掃活動
(4) ペットボトルキャップ回収	✓ ペットボトルキャップを回収しワクチンに交換する。

1 5) 管理運営と業務・経費効率化

計画の概要	
<管理運営と効率化の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)>	
✓ 管理運営と業務・経費効率化により、健全な学校経営を実行していくことで、地域社会の信頼と社会貢献度の向上に繋げる。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 予算の適切な執行および補助金制度の活用	
✓ 情報セキュリティポリシーの徹底と紙媒体とデジタルデータの整理	
✓ 働き方等の労務管理の改善	
項目名・取組名	具体的取組・目標

(1) 予算の適切な執行および省エネ推進活動	✓ 中期計画に則した予算編成と適切な執行 ✓ 常に支出の見直しを図るとともに省エネ推進活動を行う
(2) 補助金制度の活用	✓ 職業実践専門課程促進補助金制度等各種補助金制度の積極的活用
(3) 規程・規則の適切な運用	✓ 規則・規程および文書処理の適切な管理と運用 ✓ 規則・規程の確認および見直しと整備
(4) 情報セキュリティマネジメント	✓ 情報資産管理台帳の確認および見直しと整備 ✓ 情報セキュリティポリシーの周知徹底

16) 施設・設備・システム等の環境整備

計画の概要	
<p><環境整備の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)></p> <p>✓ 学生が安全に安心して教育活動および学校生活をおくり、職員も業務に専念できるよう施設設備システム等の環境整備を行う。</p> <p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <p>✓ 安全第一主義で施設設備の点検を行う。</p> <p>✓ 異常または不安な箇所が出た場合は、専門業者と連絡をとり早急に対応する。また急を要しない場合には中長期的に修繕・修理・更新等の計画を立て実行する。</p>	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 施設設備の定期点検	<p>✓ 消防立ち入り検査、貯水槽清掃点検、消防設備点検、電気設備年次点検等</p> <p>✓ 消防設備自主点検(年2回)</p>
(2) 修繕・修理計画	<p>✓ 使用年数に応じた修理・修繕・更新計画</p> <p>✓ 施設設備について、専門業者との情報交換</p> <p>✓ ICT環境整備(Wi-Fi環境整備)計画</p>
(3) 清掃・環境美化活動	<p>✓ 日々の清掃、始業日終業日の清掃、行事ごとの清掃</p> <p>✓ 季節に応じた環境美化活動</p>

17) 点検評価

計画の概要	
<p><点検評価の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール等)></p> <p>✓ PDCAサイクルを実行することで、組織力を向上し、学生・保護者・地域からの信頼を得ることに繋げる。</p> <p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <p>✓ 学生や職員の自己評価に基づき、学校関係者評価委員会を開催し学校関係者評価委員に評価をお願いする。その評価は、ホームページ等を通して公表し、次年度の事業計画等に活かす。</p>	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 学校関係者評価委員会	<p>✓ 委員を6人委嘱する</p> <p>✓ 年2回(8月と2月)に開催する</p> <p>✓ 2月の会議終了後に評価表を提出してもらう</p> <p>✓ 評価は、本年度の事業報告書と次年度の事業計画書に反映する</p>
(2) 自己評価	<p>✓ 学生自己評価の実施(12月上旬)</p> <p>✓ 職員自己評価の実施(12月下旬)</p>
(3) 学事振興課への報告	✓ 3月上旬に報告書を提出する
(4) ホームページ掲載	✓ 3月下旬に本校ホームページに掲載する

18) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

計画の概要	
<p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <p>✓ 該当なし</p>	
項目名・取組名	具体的取組・目標
該当なし	

X. 法人事務局

A. 中期計画に掲げた経営理念・経営目標

5 年間の 設置校経営理念	学園全体として健全な経営状態と安定した財務基盤の確立を目指す。
5 年間の 設置校経営目標	学園全体として、日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標による経営状態「A2」を目指す。

B. 中期計画に掲げた各戦略の目標達成に向けた本年度の事業方針

区分	目標達成に向けた本年度の事業方針
戦略Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 内部質保証のため、各種法令・規則規程・ポリシー・ガバナンスコードについて、法改正等の対応をしながら、法人事務局としての法令順守、機能強化、ガバナンス強化に寄与できるよう努める。 ✓ 建学の理念や学園の教学・経営方針や求める人材像を理解・尊重し、実践できる人材の確保と、既存の教職員への啓発・周知。 ✓ 学園内には本学園卒業生が各部門で多数活躍していることが本学園の強みである。SDGs のイベント、80 周年事業等の部門を超えた学園全体の取り組みを通し、より一層の総理解・協力連携体制構築の機会と捉え、本学園の発展の機会とする。
戦略Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建学の理念に基づく人材育成像の明確化 ✓ 教育の質保証と可視化の推進 ✓ 各部門の教育改革実現に必要な資源の確保と分配
戦略Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ グローバル化に対応できる教職員組織の形成 ✓ 同窓会連合会の発足による卒業生との連携強化 ✓ 自治体、経済産業界との関係性の強化
戦略Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ DX のための環境や体制の整備 ✓ AI 活用含む DX 推進による付加価値の創出と業務の効率化 ✓ 施設設備の維持管理に必要な資源の確保
戦略Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ マーケティングに基づく広報と学生募集戦略 ✓ 積極的かつ目的を明確にした情報発信
戦略Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期計画最終年度として学園全体の経常収支差額の均衡 ✓ 財務構造の点検と見直し ✓ 多様な資金調達策の検討・実施 ✓ 寄附行為改正に伴うガバナンス体制の更新と内部統制システムの運用
学園内の 連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全部門協力による学園 80 周年事業の実施 ✓ 全部門連携による外部 SDGs イベントへの参加
付帯計画 と課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 第 3 期中期計画の策定 ✓ 法人事務局のあり方等の見直し

C. 経営状態の分析・可視化、現状の認識・共有

1	定量的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 収容定員の未充足 ✓ 資金残高の減少
2	定性的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人口減少社会における教職員の確保 ✓ 様々な社会情勢の変化への対応
3	経営・募集戦略上 強みとなる魅力・特色	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 80 周年事業による露出機会の増加 ✓ 幼稚園から大学までを有する総合学園として人的・物的資源の共有

D. 本年度の事業計画

1) サマリー

計画全体の概要	
✓	法人事務局は、学園の持続的な発展と経営基盤の強化を目指し、以下の取組を進め、学園の発展と教育環境の向上を図る。
1.	成長力の確保：第 3 期中期計画の策定(令和 8(2026)～令和 12(2030)年度)、80 周年事業を契機とした 100 周年に向けたビジョンの明確化、マネジメント人材の確保と育成
2.	教育力の向上：教員の確保・資質向上支援、教育環境の整備
3.	財務の健全化：学納金・補助金・寄附金の拡大、経費の効率的執行、適時正確な会計・財務処理
4.	経営改善・業務効率化：IT・DX 推進による教育・経営改革、法人事務の見直し・標準化
5.	ガバナンス強化・私学法改正対応：理事会・評議員会の運営適正化、監査体制の強化
6.	学園ブランド向上：ブランディング戦略の策定、広報活動の強化

2) 中期計画基本方針に対応した法人事務局の取組

1	成長力の確保 (現状維持ではなく成長に向けた原動力の確保策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ マネジメント人材の確保と育成 ✓ 第3期中期計画の策定 ✓ 80周年事業を契機とする100周年に向けたビジョンの明確化
2	教育力の向上 (教育の質向上と、組織・教職員個々の能力向上策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教員の確保 ✓ 部門の教員資質向上策の支援 ✓ 教育環境の整備
3	約定返済の確実な履行 (増収と経費効率化による健全な財務基盤の構築策)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学納金・補助金・寄附金の拡大策の検討 ✓ 支払資金の維持・確保 ✓ 経費の効率的な執行

3) 経営改善(健全化)に関する法人事務局の施策

1	収入の増加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各種補助金の情報収集・提供と活用 ✓ 寄附金の獲得
2	支出の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 支出案件の目的の明確化と費用の妥当性の確認 ✓ 確実な予算管理と差異に対する早期の経営判断
3	人員・業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 業務分析 ✓ 人員および組織の効率化
4	付加価値向上と広報強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 目指すブランディングの明確化 ✓ ブランディング、SDGs、80周年を契機とした戦略的な広報露出

4) 法人部門の業務分野別の基本方針

分野名	今年度の基本方針
総務分野	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各部門で企画立案する教育改革の実現ならびに円滑な運営のため、支援・連携を行う。 ✓ 私学法改正ならびにガバナンス・コード改定に伴い、法令順守はもとより、学園の自主・自立的な取組を行い、ガバナンスの強化と健全性の向上を目指し、法人部門の総務分野担当として、各部門との協力体制を強化し、さらなる向上・発展をめざす。
人事分野	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教員確保が年々厳しくなる中、優秀な教員確保は学園の根幹となる教育力および教育体制に関わる重要事項であるため、各部門との連絡を密にし、連携を図りながら教員確保に取り組む。 ✓ 職員についても、組織、業務ならびに人材配置の見直しなどを検討し、効率かつ円滑な業務が担保できる組織づくりに取り組む。 ✓ 人事関連システム導入についても検討し、効率化の可能性について検討を引き続き行う。
財務分野	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経営の根幹たる会計・財務処理を適時正確に行う。 ✓ 経営指標として会計・財務処理結果を事務局長会議等で提示する。 ✓ 各部門の会計業務におけるスタンダード化を推進する。 ✓ 支払資金確保のため、日々の資金予測に加え、打ち手を講じる。
企画分野	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 第3期中期計画の策定 ✓ 80周年事業などを活用した学園広報の強化
監査分野	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 計画的かつ効果的な内部監査の計画・実施 ✓ 内部統制システムに基づく体制整備

5) 財務の健全化と人事政策強化

計画の概要
<p><財務の健全化と人事政策の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)></p> <p>【財務の健全化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 財務状況の精査・把握、バランスの取れた資金調達、自己資金の拡充 <p>【人事政策強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 教員採用が厳しくなっている現状から、学園内での外部の有資格者や非常勤講師等の採用状況等について把握に努め、有益な人材活用・人員確保に取り組む。
<p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <p>【財務の健全化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 財務改善に有効な経営指標の提示 ✓ 資金調達能力の維持と運転資金の拡充 <p>【人事政策強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少を背景に、政府が働き方改革の一環とし、多様な働き方を推進している。本学園においても、更なる魅力のある学校を目指し、多様な働き方の推進を通じて、教職員一人ひとりが能力を

発揮できる環境づくりの検討・推進に引き続き取り組む。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 財務の健全化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財務状況を十分に精査・把握し、有価証券の一部売却および短期借入も含めたバランスの取れた資金調達能力の維持と運転資金の拡充を図る。
(2) 人事政策強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 更なる魅力のある学校を目指し、多様な働き方の推進を通じて、教職員一人ひとりが能力を発揮できる環境づくりの検討・推進に引き続き取り組む。 ✓ 教職員の定年・再雇用制度について検討を行う。 ✓ 就業規則等の見直しを行い、働きやすい環境づくりに努める。 ✓ 人事システム導入についても引き続き検討を行う。

6) 私学法改正の対応

計画の概要	
<私学法改正の対応の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 私学法改正の趣旨である、社会の信頼を得て一層発展していくために、社会の要請に応え得る実効性のあるガバナンス改革を推進するための制度改正であることを念頭に置き、幅広い関係者の意見の反映、逸脱した業務施行の防止等を図るため、「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」の考え方に基づきつつ、私大の特性に応じた「建設的な協働と相互けん制」の確立に努める。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 上記の趣旨を実現するため、理事、監事、評議員および会計監査人の資格、選任および解任の手続等ならびに理事会および評議員会の職務および運営等の学校法人の管理運営制度に関する規程・規則等の整備を行う。 ✓ 理事会における学校法人の業務に関する意思決定の機動性および理事の業務執行に関する監督機能の適性を確保する観点から、理事会の構成・運営方針等を明確にする。 ✓ 学校法人の管理運営の適正性を確保するうえで、監事および会計監査人の独立性を高め、組織の重層的チェック体制を構築し、監査機能を強化するとともに、監事機能の実質化を図る。 ✓ 諮問機関としての評議員会機能の実質化および監督機能の強化を図り、学校法人運営の機動性および安定性を確保する観点から、評議員会の構成・運営方針等を明確にする。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 理事・理事会の対応事項	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 理事の責務を踏まえた人材確保の方針やあるべき理事長像を明確にするとともに、選任過程の透明性を確保に努める。 ✓ 理事会の役割および理事の責務を明確にするとともに評議員会との建設的な協働と相互牽制体制を確立し、運営の透明性を確保に努める。 ✓ 学校法人の適正な運営に当たり必要とされる識見を習得できるように、新任・外部を含む理事に対する情報提供・研修機会の確保・充実に努める。
(2) 監事の対応事項	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 監事の独立性を確保する観点を重視し、選任基準を明確にするとともに、選任過程の透明性を確保に努める。 ✓ 監査の基準・計画を策定するとともに、監事、会計監査人および内部監査室等の連携体制を確立し、監査計画・結果等について、情報共有・意見交換を行えるよう調整を行う。 ✓ 監事が十分な監査ができるように、監事業務を支援するための情報提供・研修機会の確保・充実に努める。
(3) 評議員・評議員会の対応事項	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学校法人設立の経緯や建学の精神との調和にも配慮し、評議員の属性に応じた評議員会構成上の上限割合の考え方を明確にするとともに、選任過程の透明性を確保に努める。 ✓ 評議員会の招集や議決事項、評議員の責務を明確にするとともに、理事会との建設的な協働と相互牽制体制を確立し、運営の透明性を確保に努める。 ✓ 学校法人の適正な運営に必要とされる識見を習得できるように、新任・外部を含む評議員に対する情報提供・研修機会の確保・充実に努める。
(4) 会計監査人の対応事項	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 会計監査人の独立性を確保する観点を重視し、選任基準を明確にするとともに、選任過程の透明性を確保する。
(5) 内部統制システムの対応事項	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 内部統制システム基本方針を理解し、理事会が PDCA 機能を図れるよう情報提供や協力体制の構築に努める。
(6) 情報の公表	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公表内容の変更等に留意し、遅滞なく公表されるように確認や周知に努める。

7) 学園のブランド向上

計画の概要	
<学園ブランド向上の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学校法人九州文化学園のブランドイメージの確立し、そのブランドイメージに則した教育・経営・広報戦略の立案・実施する。 	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学園全体のブランディング戦略を計画・実施するとともに、各部門の付加価値向上策を支援する。 	

項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 学園ブランドの形成・強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ブランドの核となる価値とターゲット層の明確化 ✓ 周年事業等を活用したブランドイメージ強化策と広報活動の実施
(2) 積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタルメディア戦略、PR・メディア戦略、イベントなど攻めの情報発信の施策の実施 ✓ 情報発信による継続的なブランド価値の検証
(3) 各部門の付加価値向上の支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各部門の計画する付加価値向上策の総務・人事・財務・企画視点での支援

8) その他の取組

計画の概要	
<p><法人本部・法人事務局としての目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 学園の経営基盤強化を目指し、計画の進捗管理、学園内連携、業務効率化、認証評価対応を推進し、年度内の具体的な成果を確実に達成する。 	
<p><計画の概要(項目・取組の要約)></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業・財務計画の管理、学園内の連携強化、法人事務の効率化、認証評価対応を通じ、学園の持続的な成長と運営の最適化を図る。 	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 各種計画の進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業計画および財務計画の進捗管理と各部門への情報提供 ✓ 計画未達・遅延部門の助言や支援
(2) 学園内連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学園責任者連絡会、事務局長会、会計担当者会議を通じた経営戦略の連携 ✓ 学園内に共通する課題・分野別の連携 ✓ 優秀な人材の確保のための情報発信
(3) 業務効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 法人事務局組織の見直し・効率化 ✓ 事務業務の分析と標準化
(4) 機関別認証評価の対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学・短大の機関別認証評価受審に対する法人部門としての役割対応 ✓ 「基準 6. 経営・管理と財務」の基準項目の対応と根拠資料の整備

XI. 学園全体

A. 学園全体に関する計画

計画の概要	
<学園全体に関する計画の目的(最終的に達成したいことと年度内のゴール)>	
✓ 第3次中期計画の策定と学園80周年事業の成功を目指し、同窓会組織の強化、IT・DX推進、教職員の確保・定着を進め、学園の発展を促す。	
<計画の概要(項目・取組の要約)>	
✓ 中期計画策定、80周年事業、同窓会組織強化、IT・DX推進、教職員の確保・定着を通じ、学園の教育・経営基盤を強化し、持続的な成長を実現する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 第3次中期計画の策定	✓ 令和8(2026)年度～令和12(2030)年度を対象とする第3次中期計画の策定 ✓ 策定に向けたスケジュール、基本方針の提示
(2) 学園80周年事業	✓ 80周年事業の実施(式典、祝賀会、記念誌、寄付、同窓会連合会の発足) ✓ 各部門の年度内事業の80周年記念事業としての位置づけ
(3) 大学・短大の機関別認証評価対応	✓ 長崎国際大学、長崎短期大学が令和7年度大学機関別認証評価を受審するに当たり、基準項目の確認・対応、根拠資料の整備、書面質問の対応、実地調査の対応など遺漏なく行い適合判定を受ける。
(4) 学園全体での同窓会組織の強化	✓ 大学から幼稚園までを含めた同窓会連合会の発足 ✓ 教育・学生等支援・経営に対する各同窓会との連携の強化
(5) IT・DX推進	✓ 教育DXの推進(教育の質の向上、データに基づく教育成果の可視化、教育満足度の向上) ✓ 経営DXの推進(環境整備、仕事の仕組み化、業務量の軽減、経営判断材料のオンタイム提供)
(6) 教職員の確保・定着	✓ 教育機関で働くことの意義の再認識 ✓ 働き方改革による満足度の向上

B. その他特記事項

計画の概要	
<計画の概要(まとめ)>	
✓ スローガンである“No Challenge, No Future!”、“ビジョンである”Create the Region”に基づき、学園の持続可能な発展のために必要な事業については推進する。	
✓ 100周年に向けた長期的なビジョン等を検討する。	
項目名・取組名	具体的取組・目標
(1) 継続検討事業	✓ 大学の未来理工学部等の前年度からの継続検討事業について、実現可能となるように内外の連携・協働を進める。
(2) 新規挑戦事業	✓ 学園および各部門の発展・拡充に資する事業について、準備調査や実現可能性の検討を行う。
(3) 100周年に向けて	✓ 80周年を契機として、100周年に向けた学園のビジョンや環境・体制の整備について検討を進める。

以上

学校法人九州文化学園
令和 7(2025)年度 事業計画書

令和 7(2025)年 3 月 28 日 理事会制定